

2 南部仏印進駐

726

昭和16年6月5日

松岡外務大臣より
在独国大島大使宛（電報）

南部仏印への軍事基地設立要求に当たり独仏

関係緊密化の程度査報方訓令

本省 6月5日午後8時20分発

第四八三號（極秘、館長符號）

最近獨佛關係ノ緊密化ト共ニ佛英關係急速ニ惡化シツツアルヤニ看取セラルル處右真相突込メラレ度ク殊ニ我方ハ南方政策遂行上佛印南部ニ飛行機基地及艦船碇泊基地ノ獲得ヲ必要トスル處現下ノ獨佛關係ハ我方カ右要求ヲ直接又ハ獨逸ヲ通シテ佛國ニ提出シテ成功スルノ可能性アル程度ニ緊密化シ居ルヤ御突止メノ上至急回電アリ度シ
本大臣ノ訓令トシテ在佛大使ニ轉電アリ度シ

727

昭和16年6月13日

在仏国加藤大使より
松岡外務大臣宛（電報）

対仏交渉に独国利用は不得策であり直接交渉
をすべき旨意見具申

ヴィシー 6月13日発

本省 6月16日着

第三〇三號（極秘、館長符號）

一、佛國ハ戰勝者タル獨逸ノ要求ニ聽從セサルヲ得サル立場ニ置カレ居ルコト勿論ナレトモ其ノ關係ハ休戰條約ノ締結ヲ峠トシテ一應結末ヲ付ケラレ現在ハ寧口休戰條件ヲ調整シ獨佛間恆久平和ノ基調ヲ何レニ置クヘキカニ付兩國共考ヲ練リ居ルモノニテ新ニ佛國ヨリ物ヲ吐キ出サス如キコトハ今日兩國ノ意味スル協力政策トハ凡ソ懸ケ離レタル觀念ナリ

三、獨佛協力政策ノ遂行ニ依リ獨佛關係ヲ明（脱？）シ好結果

アル一面ニ英佛關係ヲ惡化セシメタルコトハ明瞭ニシテ過日英機ニ依ル「スファックス」「シリア」ノ爆撃ハ其ノ最初ノ現ハレナルカ今回ノ「シリア」進撃ニ依リ佛國

ノ對英反感著シク激化シ英佛ノ關係ハ今後惡化ノ一路ヲ
 辿ルモノト觀察スルモノ多シ然シ乍ラ如何ニ英佛關係惡
 化シ又ハ後日獨逸トノ協力政策カ高調ノ段階(ニ達ス
 ル)脱?)トモ爲ニ佛國ハ英國ヲ相手ニ戰爭ヲ爲シ獨逸
 ノ御先棒トナルコトハ絶對ニ爲ササルヘシ(現在ノ「シ
 リア」事件ノ如キハ單ニ降リカカリシ火ノ子ヲ避クル程
 度ノ防戰ニ過キス而モ大体ニ於テ防衛不可能ト諦メ居レ
 リ、最近ニハ對英反感稍低下シタルヤノ感アリ)

四、從テ我方ノ對佛要求ヲ貫クカ爲戰勝者タル獨逸ノ對佛地
 位ヲ利用スルコトハ獨佛兩國側現在ノ心構トハ合致セス
 又英佛ノ乖離ヲ利用セントノ狙ヒモ佛國側現在ノ心境ニ
 適應セスト認メラレ又佛印問題ニ獨逸ノ介入ヲ避ケサル
 ヘカラサル次第ハ佛印ゴムノ搬出問題其ノ他ニ關聯シ累
 次往電ヲ以テ申進シタル通りニ有之又獨逸ノ戰勝ニ便乘
 シ其ノ地位ヲ濫用シツツアル友邦伊國ノ態度ヲ模倣スル
 カ如キコトハ帝國ノ全局的觀點ヨリ不得策ナリト思考ス
 五、佛印ニ自ラヲ守ル力無ク近クハ「シリア」ノ例モアルコ
 トニテモアリ帝國カ自衛上佛印基地ノ獲得ヲ必要ナリト
 スル御方針ナラハ何處迄モ帝國ノ東亞ニ於ケル使命ヲ高

(欄外記入)

唱シ帝國獨自ノ實力ト用意ヲ背景ニ佛印ニ對シ直接要求
 サルル外ナカルヘク交渉ニ多少ノ時ヲ費ス餘裕アラハ客
 年八月ノ貴大臣「アンリー」協定ニ一步ヲ求メ佛印防衛
 ノ責任ヲ半ハ帝國ニ於テ負擔スルカ如キ意味ノ取極ヲ先
 ツ以テ爲サルルコト順序ナルヘシト思考ス
 獨ヘ轉電セリ

(欄外記入)

然リ

編注 「本電ハ解釋不能ノ分多カリシ爲再電ヲ俟チタル爲遲

延セルモノナリ尙本電中第二項ハ再電未着ニ付右電報
 接受ノ上補足スヘシ」との電信課長の六月十七日付メ
 モが添付されているが、第二項は見当らない。

~~~~~

728

昭和16年6月14日 在独国外務大臣宛(電報)

對仏交渉に独国の斡旋がなくとも実現を図る  
 決意ありや方針指示方請訓

ベルリン 6月14日前発  
本省 6月14日後着

第六八五號(極秘、館長符號)

貴電第四八三號及往電第六七〇號ニ關シ

一、獨トシテ佛印ノ處分ハ我方ニ任セントスル誠意ヲ有シア  
ルコト累次往電ノ通ニシテ若シ我方ニ於テ對南方施策積  
極化ノ爲佛印南部ニ飛行基地及艦船碇泊基地獲得ノ要ア  
ル次第ナル旨說示スルニ於テハ獨ハ出來得ル限り右實現  
ニ盡力スヘキコト疑ナキ所ナリ然レ共獨トシテハ現下順  
調ニ進捗シツツアル獨佛關係ニモ鑑ミ我方ノ將來ノ企圖  
ヲ問ヒ質スノミナラス右ニ關スル我方針ニ依リテ力瘡ノ  
入レ方モ異ルヘシト認メラル

二、「リ」外相ハ目下尙「ミュンヘン」ニ在リ本使ノ會談ハ  
十六、七日頃トナル見込ナル處本件ニ關スル帝國政府ノ  
御方針ハ獨ノ斡旋アルナシニ拘ラス之カ實現ヲ圖ラント  
スル決意ナリヤ或ハ獨ノ斡旋ニ依リ實現ノ可能性アル場  
合ニノミ取上ケントセラルル次第ナリヤ

前記將來ノ御方針ト共ニ何分ノ儀御回答アリタシ

729 昭和16年6月17日 松岡外務大臣より  
在独国大島大使宛(電報)

南部仏印への軍事基地設立要求につき独国外  
相へ対仏斡旋を要請方訓令

別電 昭和十六年六月十七日發松岡外務大臣より在

独国大島大使宛第五二〇号

わが方の対仏要求事項

本省 6月17日前0時30分發

第五一九號(館長符號)

貴電第六八五號ニ關シ

帝國政府ニ於テハ四圍ノ狀況ニ鑑ミ一先ツ南部佛印ニ飛行  
基地ヲ獲得シ艦船ノ出入碇泊等ノ自由確保ヲ此際取急キ行  
フ必要アリト認ムルニ就テハ出來得ル限り早目ニ「リ」外  
相ニ對シ「ヴィシイ」政府ヲシテ極秘裡ニ之ニ同意セシメ  
我方ニ於テ遲怠ナク右確保殊ニ飛行基地ノ現實ナル確保  
(何レモ擴張及補強ノ要アリ)ニ着手シ得ル様必要ナル指示  
ヲ至急佛印當局ニ發セシムル様措置方別電第五二〇號ヲ基  
礎トシ御申入レアリ度シ若シ右成功セサル場合ニ於テハ其  
時ノ事情如何ニ依リ目的達成ノ爲メ適切ナル所置ヲ帝國政

府自ラ講スルノ決意ヲ有ス

帝國ハ勿論佛印ヲ侵略セントスルカ如キ意圖ヲ有セス此點ニ付テハ現ニ客年八月三十日ノ交換公文及今次泰佛印平和條約ニ對スル我保障ニモ明ナル通り帝國政府ニ於テハ佛印領土權ノ尊重ニ付キ依然保障繼續ノ方針ニ何等ノ變化ナク寧ロ現在ノ情勢ニ鑑ミ英國側ニ於テ佛印ヲ擾亂又ハ進テ日本ニ對シ機先ヲ制シ必要地點占領等ヲ行フノ危險ヲ予メ防止シ之ニ對シ佛印ヲ防護スルト共ニ兼テ東亞ニ於ケル重大ナル帝國ノ戰略的地歩ヲ確保スル見地ニ立脚スル次第ニシテ帝國ト佛國トノ利害ハ佛印ニ於テハ一致シ居ルモノト信ス加之佛印南部ハ由來「ドゴール」派ニ傾キ動モスレハ總督ノ節度ニ服セサル嫌ヒアリ就テハ貴大使ハ右ノ點ヲ合併セテ「リ」外相ニ御説明相成リ佛側力充分我眞意ヲ理解シ猜疑スルコトナク我希望ニ應スル様同外相ヲシテ然ル可ク「ヴィシイ」政府ヲ誘導セシムル様御措置アリ度シ尙情勢ハ猶餘<sup>(豫カ)</sup>ヲ許ササルモノアルニ付キ其御含ヲ以テ御折衝アリ度シ

(別電)

本省 6月17日午後1時15分発

第五二〇號(極祕、館長符號)

佛印トノ間ニ取極ヲ要スル飛行場及港灣左ノ通

(甲)飛行場(必要ノ順位ニ依ル)

一、サイゴン      ビエンホア

二、ブノムベン

三、コンポントラシユ

四、ナトラン

五、ソクトラン

六、ツーラン

七、シエムレアプ

(乙)港灣(必要ノ順位ニ依ル)

一、サイゴン

二、カムラン

佛へ轉電セリ

~~~~~

730

昭和16年6月17日

在独国外務大臣宛(電報)

独国外相との会談実施について

別電 昭和十六年六月十七日發在独国大島大使より

松岡外務大臣宛第七〇〇号

対仏要求に関する独国意向打診について

ベルリン 6月17日後発

本 省 6月18日前着

第六九八號(館長符號扱)

昨十六日夕「リ」外相「ヴェニス」ヨリ歸來セルヲ以テ昨夜往訪約二時間ニ亘リ會談セリ其ノ要旨別電第六九九號、第七〇〇號、第七〇一號及第七〇二號ノ如シ

編注 別電第六九九号は『日本外交文書 日中戦争』第二冊

第601文書、第七〇一号は『日本外交文書 第二次欧州大戦と日本』第一冊第263文書、第七〇二号は見当らない。

(別電)

ベルリン 6月17日後発

本 省 6月18日後着

第七〇〇號(極秘、館長符號)

貴電第四八三號ニ關シ(佛印ニ於ケル飛行基地獲得ニ關シ獨ニ斡旋依頼シ成功ノ有無問合)

帝國ハ佛印南部ニ飛行機及海軍基地設定ヲ考ヘアルカ之ニ關シ獨逸政府ハ「ヴィシー」政府ニ對シ斡旋セラルル用意アルヤヲ尋ネタルニ「リ」ハ獨逸トシテ日本ノ大東亞ニ於ケル指導權ヲ認メタル以上之ヲ援助スヘキハ獨逸當然ノ義務ニシテ御希望トアラハ「アベッツ」ヨシテ「ヴィシー」政府ニ斡旋セシムヘキカ日本政府カ本件基地ノ獲得ヲ企圖セラルル目的如何ト質セルニ依リ本使ヨリ日本政府ノ企圖ハ承知セサルモ當然南方施策ノ爲ト思考ス又斯ル基地ノ獲得カ日本ノ南進氣運ヲ助長スルコトト考フル旨答ヘタル處「リ」ハ重ネテ出來得ル限り日本側ノ希望達成ニ御援助致スコトハ勿論ナルモ目下獨佛間ニハ「シリア」阿弗利加問題等機微ナル案件アルヲ以テ今日獨逸トシテ「ヴィシー」政府ニ對シ手荒キ措置ヲ採ルコトハ得策ニアラスト考ヘアリ(非占領地域ノ廢止トカ最後通牒トカラ意味ス)日本政府カ如何ナル企圖方法ヲ以テ掛合ヲ爲サルルヤヲ知ルヲ得ハ斡旋上好都合ナリト述ヘタルヲ以テ更ニ帝國政府ニ問合セタル上御返事スヘシト答ヘ置ケリ本件ニ關シテハ往電第六

八五號ヲ以テ申進ノ通我方針御決定ノ上御回訓アリ度シ
佛へ轉電セリ

731

昭和16年6月17日

在独国大島大使より
松岡外務大臣宛(電報)

対仏要求に関する独国への斡旋要請に当たつ
てはわが方の強固なる決意と要求目的を独側
へ明示すべき旨意見具申

ベルリン 6月17日後発

本省 6月18日前着

第七〇七號(極秘、館長符號)

一、貴電第五一九號別電七〇〇號ト入違ニ接到セル處獨カ日本ノ爲斡旋スヘキ用意アルコトハ「リ」ノ言明セル如クナルモ現下ノ獨佛關係ニ於テ佛カ聽カサル場合獨カ佛ニ對シ積極的措置ニ出ツルコトハ無理ナルヘク大東亞ノ指導權ヲ有スル帝國トシテ先ツ自ラ強固ナル決意ヲ以テ佛ニ對シ本件實現方交渉セラルヘキモノニシテ獨ノ斡旋ハ之ト併行シテ行ハシムヘキモノナリト思考ス、先ツ獨ノミニ斡旋セシメ其ノ結果ヲ俟タントスルカ如キハ大國ノ

面目ニ關ス而モ獨ノ斡旋奏效セサルトキ「其ノ時ノ事情如何ニヨリ適切ナル手段ヲ執ル」トアルモ意味不明ニシテ斯ル抽象的ナル説明ヲ獨逸ニ爲スコトハ我カ權威ニ關スヘク最後ニハ武力ヲ行使スル決意アル旨獨ニ通告スル要アリ

二、本件ノ目的ハ「リ」外相モ本使ニ問ヒ居タル所ニシテ折返ヘシ明確ニ御回示ヲ得度シ、貴電ニ擧ケ居ラルル英國側カ機先ヲ制セントシアリトカ「ドゴール」派ニ傾キ居レリトカノ弁解的理由ヲ獨ニ述フルハ之又我權威ヲ疑ハシムルノミナルヘシ

三、貴電ニ依レハ帝國ハ佛印領土權ノ尊重ヲ繼續セラルル方針ナル趣ナル處佛印ヲ佛國領トシテ存續セシメツツ我指導權ヲ確保スルコトノ不可能ナルコトハ自明ノ理ニシテ斯ノ如キコトヲ獨逸ニ申入ルルハ三國條約ニ基ク我指導權ヲ拋棄スルニ等シク全ク有害無益ニシテ獨ノ輕侮ヲ受クルノミナルヘシ獨ニ對シテハ寧ロ卒直ニ(十語不明ニ付照會中)ニ我勢力ヲ扶植スルヲ妥當ト認ムル旨述フルコト却テ有效ニシテ且必要ナリト信ス

四、以上ノ諸點拙電第七〇〇號トモ御照合ノ上何分ノ儀至急

御回訓ヲ請フ

佛へ轉電セリ

~~~~~

732 昭和16年6月19日

松岡外務大臣より  
在独国大島大使宛(電報)

対仏要求への斡旋を独国外相へ至急要請し要求目的等については明示せず松岡外相を信頼するよう説明方訓令

第五三三號(極秘、館長符號)

本省 6月19日前1時20分発

貴電第七〇〇號及第七〇七號ニ關シ

往電第五一九號ハ其儘「リ」外相ニ至急御傳達アリ度ク同電中適切ナル手段云々ノ點ニ付キ同外相ヨリ質問アラハ右ニ關シテハ本大臣ヲ信賴シ然ルヘキ旨御答ヘアリ度シ本大臣ハ帝國政府ニ於テ固キ決意ナクシテハ斯カル措置ニ出テス又帝國政府力其威信ニ關スルカ如キコトヲ斷シテ爲ササルコト申ス迄モナシ尙本件申入ニ際シ若シ同外相ニ於テ獨佛關係ノ現状ニ鑑ミ本件ヲ「ヴィシイ」政府ニ申入ルルトモ同政府ヲシテ受諾セシムル確信ナシトノ見解ナルニ於テ

ハ帝國政府トシテハ右對佛申入ニ依リ却テ重大ナル機密ヲ

漏洩スル結果ヲ招來シ爾後ノ施策ニ障碍ヲ來ス虞アルヲ以テ此際ハ獨逸政府ノ斡旋ヲ求ムルコトハ之ヲ取止ムヘク其場合ニハ帝國政府獨自ノ立場ニ於テ我方ノ適切ト認ムル行動ヲ取ルヘキ旨ヲ併セテ申入レラレ度ク貴大使ニ於テモ本件折衝ニ際シテハ右御含ミ置キアリ度シ  
佛へ轉電セリ

~~~~~

733 昭和16年6月20日

在独国大島大使より
松岡外務大臣宛(電報)

南部仏印への軍事基地設立要求につき独国外相へ対仏斡旋要請について

ベルリン 6月20日後発

本省 6月21日後着

第七三六號(極秘、館長符號)

貴電合第二一三四號ニ關シ(佛印ニ於ケル飛行基地等獲得方ノ件)

本二十日「リ」外相ニ面會ノ上貴電第五一九號ヲ「リ」ニ傳達シタル處日本力南方ニ戰略的地歩ヲ確保セラレントス

ルコトハ自分ノ良ク理解スル所ニシテ過日モ申上ケタル如ク(往電第七〇〇號御參照)「ヴィシー」政府ニ對シ斡旋ノ用意アルコト勿論ナルモ本件ハ平和的斡旋ヲ主トシタク獨トシテハ佛政府カ目下「シリヤ」問題其ノ他ニ依リ相當苦境ニ在ルヲ以テ佛政府ニ對シ非占領地域撤廢等ニ依ル壓迫ノ手段ヲ講スル時ハ現政府瓦解ノ惧アルヲ以テ英國攻撃完遂迄ハ飽ク迄現政府ヲ存立セシメ置キタキ考ナリト答ヘタルヲ以テ本使ハ獨逸ノ斡旋ニ依ル成否ニ關シ貴大臣ノ御見込如何ト尋ネタルニ「リ」ハ之ニ關シ何トモ申上ケ得ス來週火曜「アベツ」伯林ニ來ルヲ以テ彼ト相談ノ上御返事申上クヘシト答ヘタルニ依リ日本モ急キ居ル故斡旋成否ノ見込ミニテモ至急「アベツ」ニ電話ニテ問合セラレ度シト申述ヘタル處「ア」ハ既ニ佛國內旅行ニ出掛ケ引續キ伯林ニ來ルヲ以テ遺憾乍ラ夫レ以前ニ直接「ア」大使ト聯絡スル機會ナシトノコトナリシヲ以テ本使ハ若シ獨側斡旋成功ノ見込ナキトキハ日本政府ハ他ノ適當ナル手段ヲ採ル考ナルヲ以テ事前ニ本件カ佛側ニ洩ルルコトハ困ルヲ以テ「アベツ」大使ニモ此ノ點貴大臣ヨリ特ニ注意セラレ度シト申入レ置ケリ

佛へ轉電セリ

734 昭和16年6月21日

在独国大島大使より
松岡外務大臣宛(電報)

独国が対仏斡旋に成算なき場合のわが方対応
振りにつき請訓

ベルリン 6月21日後発
本省 6月22日後着

第七三九號(極秘、館長符號)

往電第七三六號ニ關シ

「リ」外相ト「アベツ」大使トノ協議ノ結果成算ナキコト確實ナル時ハ貴電合第二一三四號御來示ノ通り本使ヨリ斡旋ヲ斷ハルモノト諒解シ差支ナキヤ右御回示ヲ請フ尙二十日「リ」ト會談ノ際本使ヨリ獨側斡旋成功ノ見込ナキ時ハ日本政府ハ他ノ適當ナル手段ヲ執ル考ナル旨ヲ述ヘタル處「リ」ハ如何ナル手段ナリヤヲ尋ネタルヲ以テ右ニ關シ未タ通報ナキ旨ヲ答ヘ置キタルカ日本獨自ノ行動遂行中ト雖モ獨ヲ利用スルヲ便トスル場合モ生スヘキヲ以テ斯ル際ニハ豫メ帝國ノ執ルヘキ手段ノ大要ヲ獨逸側へ通報シ

置クヲ得策ト信ス

735

昭和16年6月22日

松岡外務大臣より
在独国大島大使宛(電報)

独国が対仏斡旋に見込みつかざる場合のわが

方意向を独側へ明示方訓令

本省 6月22日後10時発

第五四九號(至急、館長符號)

貴電第七三六號ニ關シ

「リ」外相ニ對シ至急左ノ點ヲ明ニシ置カレ度シ

一、前電ノ通り若シ「リ」外相及「アベッツ」大使ニ於テ相當ノ見込立タサルニ於テハ却テ日本政府ニ於テ本件ニ付「ヴィシイ」政府及佛印當局ト交渉ヲ開始スルコトニ付故障トナル虞アルニ付差控ヘラレ度シ

二、軍事基地殊ニ飛行基地ニ付テハ其ノ擴張工事ヲ進ムル上ニ於テモ將又之ヲ防護スル見地ヨリシテモ必要ナル兵力ノ進駐ヲ無論必要トス

三、到底外交手段ニ依リ佛國ヲシテ同意セシムルヲ得サル場合ニハ武力ヲ行使シテモ我目的ヲ達スル決意アリ

佛へ轉電セリ

736

昭和16年6月25日

大本營政府連絡懇談會決定

「南方施策促進ニ關スル件」

南方施策促進ニ關スル件

昭和十六年六月二十五日

大本營政府連絡會議決定

一、帝國ハ現下諸般ノ情勢ニ鑑ミ既定方針ニ準據シテ對佛印泰施策ヲ促進ス特ニ蘭印派遣代表ノ歸朝ニ關聯シ速ニ佛印ニ對シ東亞安定防衛ヲ目的トスル日佛印軍事的結合關係ヲ設定ス
佛印トノ軍事的結合關係設定ニ依リ帝國ノ把握スヘキ要件左ノ如シ

(イ)佛印特定地域ニ於ケル航空基地及港灣施設ノ設定又ハ使用竝南部佛印ニ於ケル所要軍隊ノ駐屯

(ロ)帝國軍隊ノ駐屯ニ關スル便宜供與

二、前號ノ爲外交交渉ヲ開始ス

三、佛國政府又ハ佛印當局者ニシテ我カ要求ニ應セサル場合

ニハ武力ヲ以テ我カ目的ヲ貫徹ス

四、前號ノ場合ニ處スル爲豫メ軍隊派遣準備ニ着手ス

~~~~~

737

昭和16年6月27日

在独国大島大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

仏印に対するわが方方針は独ソ開戦後も不変  
なりや回示方請訓

ベルリン 6月27日前発

本省 6月27日後着

第七七八號(極秘、館長符號)

往電第七三九號ニ關シ

往電第七八三號會談ノ際「リ」ニ話置キタル佛印南部ノ基地設定問題ニ付尋ネタル處「リ」ハ「アベツツ」ニハ明日會見スルコトトナリ居ルヲ以テ其ノ際確ムヘシト答ヘタリ  
貴電第五四九號ハ獨「ソ」戰生起前ノモノト思惟セラルルカ獨「ソ」戰ニ伴フ帝國ノ態度御決定ノ後ニ於テモ御變更ナキヤ爲念御回電ヲ請フ

佛へ轉電セリ

~~~~~

738

昭和16年6月28日

松岡外務大臣より
在独国大島大使宛(電報)

仏印に対するわが方方針は独ソ開戦後も不変
の旨回訓

本省 6月28日後6時30分発

第五七四號(館長符號)

貴電第七八八號ニ關シ

往電第五四九號ニハ何等變更無之尙本件決定ハ本月廿五日
上奏御裁可ヲ經タリ御含迄

佛へ轉電セリ

~~~~~

739

昭和16年7月3日

在独国大島大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

対仏斡旋の成算に関する独国外相の内話報告

ベルリン 7月3日前発

本省 7月3日後着

第八二八號(極秘、館長符號)

往電第七八八號ニ關シ

(編注)

往電第八二五號會談ノ際佛印ニ於ケル軍事基地獲得ニ關ス

ル「アベッツ」ノ見込ハ如何ナリシヤト尋ネタルニ「リ」ハ右ニ付テハ「ア」ニ於テモ何トモ判定シ難シトノコトニ付祕密保持ニ關スル日本ヨリノ御申出モアルコト故「ア」ハ近ク「シリア」及「アフリカ」ニ於ケル對英防禦ニ關シ佛政府ト話合ヲ爲スコトトナリ居ルニ付其ノ際佛印ノ對英防禦ニ言及シ夫レトナク佛側ノ意向ヲ探ラシムルコトトスヘシト答ヘタリ

就テハ之ヲ試ミシムルヤ或ハ全ク之ヲ斷リ日本ヨリ直接佛政府ト話サルルヤ御指示ヲ請フ

佛ヘ轉電セリ

編 注 『日本外交文書 第二次欧州大戰と日本』第一冊第291文書。

740 昭和16年7月4日

松岡外務大臣より  
在独国大島大使宛(電報)

対仏斡旋を差し控えるよう独国外相へ伝達方訓令

本省 7月4日後8時11分発

第六〇九號(極祕、館長符號)  
貴電第八二八號ニ關シ

隨時ノ貴電ヨリ察スルニ「リ」外相「アベッツ」大使トモ可成困難ナル問題ト思惟シ其成功ニ付テハ見込薄ナリト考ヘ居ルモノト結論セラルルニ就テハ前電ノ趣旨ニ依リ獨逸側ヨリ本件ニ關シ口ヲキクコトハ一應差控ヘル様致度シ不日機ヲ見テ當方ヨリ「ヴィシイ」ニ於テ開談致スべく其成行如何ニ依リテハ吾方ノ開談直後ニ於テ獨逸ノ口添ヲ求ムルコトモアルベシ右至急「リ」外相ニ御傳達アリ度シ

佛ニ轉電アリタシ

741 昭和16年7月7日

在独国大島大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

対仏斡旋を差し控えるよう独国外相へ伝達について

ベルリン 7月7日後発

本省 7月8日前着

第八六〇號(極祕、館長符號)  
貴電第六〇九號ニ關シ

七日「スターマー」大使ヲ招致シ大本營ニ在ル「リ」外相ニ傳達方申入レ同時ニ「アベツツ」大使ニモ至急通報方依頼シ置キタリ  
佛へ轉電セリ

742 昭和16年7月7日 在仏国加藤大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

対仏要求に関する交渉は東京で開始され  
た旨意見具申

ヴィシー 7月7日後発  
本省 7月8日前着

第三四七號(外機密、館長符號)

貴大臣發獨宛電報第六〇九號ニ依レハ本件話合ハ「不日機ヲ見テ當方ヨリ「ヴィシー」ニ於テ開談致スヘク」トアル處佛側ヲ説得スル爲直接貴大臣ヨリ「アンリー」大使ニ對シ少クトモ話ノ糸ヲ切ラルルコト好都合カト存セラル爲念

743 昭和16年7月8日 松岡外務大臣より  
在仏国加藤大使宛(電報)

対仏交渉はヴィシーで行うことが決定して  
いる旨通報

本省 7月8日後10時46分発

第二六三號(外機密、館長符號)  
貴電第三四七號ニ關シ

來ルベキ交渉ハ諸般ノ事情ヲ考慮シ貴地ニ於テ行フコトニ決定セル次第ナルニツイテハ其内訓令發出ノ運トナルヘキ處本件ノ重大性ニ鑑ミ貴使ニ於カレテモ不拔ノ信念ヲ以ツテ交渉ニ當ラルル覺悟ヲ極メラレタシ本大臣ハ貴使ノ手腕ト御努力ニ信賴ス

744 昭和16年7月12日 松岡外務大臣より  
在仏国加藤大使宛(電報)

南部仏印進駐に關し対仏申入れ方訓令

別電一 昭和十六年七月十二日發松岡外務大臣ヨリ在

仏国加藤大使宛第二七四号

対仏申入れ内容

二 昭和十六年七月十二日發松岡外務大臣ヨリ在  
仏国加藤大使宛第二七五号

仏印派遣部隊の使用通貨に関する要求案

三 昭和十六年七月十二日發松岡外務大臣より在

仏国加藤大使宛第二七六号

仏側応諾の場合の交換公文案

本省 7月12日後8時30分發

第二七三號(極祕、館長符號扱)

一、帝國政府ハ最近ノ緊迫セル國際ノ新情勢ニ對處シ東亞共榮圈確立ニ邁進センカ爲佛印南部ニ於ケル軍事基地獲得及皇軍進駐ヲナスコトニ廟議決定シ今般佛政府ニ對シ其ノ申入ヲナスコトセリ右ハ英米ノ妨害アルトモ是ヲ排除シテ實現セントスル帝國政府ノ固キ決意ノ下ニナサレタル決定ニシテ佛政府及佛印當局ノ反對アル場合ニ於テモ之ヲ強行セントスルモノナリ

二、惟フニ日佛印關係ハ客年以來漸次改善セラレツツアリト雖モ未タ満足スヘキ事態ニハ到ラス且ツ英米カ我國ニ對スル包圍圈ヲ壓縮セントシツツアル折柄今ニシテ南部佛印ニ確固タル地歩ヲ獲得スルニ非サレハ結局佛印ヲシテ完全ニ我方ニ同調セシムルヲ得サルヘシ今回ノ要求カ佛側累次ノ讓歩ニ拘ラス再ヒ難キヲ強フルノ感アリ帝國ト

シテモ實ニ欲セザル所ニシテ且又佛近來ノ樞軸接近的態度ニ鑑ミ機微ナル關係アルヘシト雖モ帝國ノ自存自衛竝ニ南方政策推進ノ爲ニハ此際眞ニ已ムヲ得サルノ處置ナリ

三、就テハ直チニ佛側ニ對シ交渉ヲ開始シ共同防衛ヨリ始メテ皇軍進駐ニ及ヒ一應大局的二説明シタル後別電第二七四號ノ申入ヲナシ日本時間二十日中ニ先方ノ諾否ノ回答ヲ取リツケ相成度但シ諸般ノ關係上佛國ガ帝國ノ要求ヲ受諾シ平和進駐ノ形式ヲ採ルコトハ我方ノ最モ希望スル所ナルモ交渉ニ長期間ノ余裕ヲ置ク時ハ佛側ニ遷延ノ機ヲ與ヘ其ノ間英米ガ騒ギ立ツルハ極力避ケ度ニ付最短期間内ニ交渉ヲ行ヒ少クトモ前記期日迄ニ佛側ヲシテ「イエス」又ハ「ノー」ヲ回答スベキ立場ニ追ヒ詰メ先方承諾ノ場合ニハ直チニ別電第二七六號ノ文書ヲ交換セラレ度

(目下軍ハ二十日前後ニ進發ヲ期シ着々準備ヲ整ヘ居ル處右進發ノ時期ハ作戰上絕對ニ變更ヲ許サザルモノニシテ其頃迄ニ佛側承諾スレバ平和進駐トナリ拒絕ノ場合ハ武力進駐トナル右貴使限リ御含迄)

四、我方今次ノ要求ハ非常ナル決意ノ下ニナサレタルモノナルヲ以テ一度佛カ我方ノ要求ヲ拒絕シ帝國カ獨自ノ立場ヨリ皇軍ヲ進駐セシムルニ到ラハ佛印ノ地位ニ重大變革ヲ齎スヤモ計リ難キニツキ此點充分先方ニ認識セシメラレ度シ但シ佛側受諾ノ場合ニ於テハ佛印ノ保全及主權ノ尊重ハ嚴肅ニ之ヲ保障スルノ用意アルハ申マデモ無之今同ノ提議ソレ自体一面ヨリスレハ此責任ヲ果サントスルノ衷情ヨリ出テタルモノナルニ付先方說得上充分利用セラレ度尙佛側受諾ノ場合ニハ佛印ニ對シ同盟國<sup>ナ</sup>竝ニ物資竝ニ武器ノ供給等ニ付出來ル丈ノ便宜ヲ與フベキ好意ヲ有スルハ勿論ナリ

五、尙客年松岡「アンリー」協定成立以來最近日佛議定書、經濟協定成立ニ至ル迄佛側トシテ一應誠意ヲ以テ我方トノ接近ヲ圖リ來リタルニ今又カカル軍事的要求ヲ提議セラレ佛側トシテ恐ラク意外ノ感アルヘキモ右ハ前述ノ通り最近ノ緊迫セル事態ニヨリ已ムヲ得サルノ措置ニシテ敢ヘテ佛ノ主權ヲ侵害セントノ意圖ノ下ニ出テタルニ非ルコトハ特ニ先方ニ納得セシメラレ度シ

六、在京「アンリー」大使ハ「ドゴール」派ニ屬スルノ疑濃

厚ニシテ帝國政府トノ交渉ハ遲滯ナク駐日英米大使ニ内報セラルル實情ナルヲ以テ今次交渉ハ貴地ニ於テ行フコトトセル次第ナルカ事柄ノ重大性ニ鑑ミ貴使ハ可相成直接「ペタン」首席ト交渉セラレ度ク固ヨリ任國政府内ノ事情ニヨリテハ「ダルラン」ニ交渉セラルルコト已ムヲ得サルヘシ尙本件申入力英米側ニ漏ルルコトハ事態ヲ徒ニ紛糾セシムル虞アルニ付絶對英米側ニ洩ラササル様佛側ニ嚴重注意シ置カレ度  
獨ニ轉電アリ度

# (別電)

本 省 7月12日後8時30分発  
第二七四號(極秘、館長符號扱)

一、最近ニ於ケル國際情勢ノ急變竝ニ大東亞共榮圈ノ一部タル南洋方面ニ於ケル第三國ノ軍事的政治的攻勢ニ起因スル事態ノ緊迫ハ帝國ヲシテ自存自衛ノ爲凡ユル必要ナル有效手段ヲ講スルノ已ムナキニ至ラシムルモノナル處佛印就中其ノ南部ニ於ケル狀況ハ帝國トノ提携ヲ欲セザル一派竝ニ「ドゴール」派ノ佛人力英米ト種々合作ヲ試ム

ル等帝國トシテ憂慮ニ堪ヘザルモノアリ其ノ結果佛印カ  
英米ノ對日包圍政策ニ同調シテ佛本國ヲ離脱シ「シリ  
ヤ」ノ如キ狀況トモナラバ右ハ脅ニ佛ニトリ一大損失ナ  
ルノミナラス又帝國トシテ由々シキ大事ナリト謂フヘシ  
カカル事態ヲ予防シ佛印ヲ第三國ノ侵攻ヨリ安全ナラシ  
メ兼ネテ日佛印提携ヲ完全ナラシムルハ佛國ノ責務ナル  
ハ勿論大東亞ノ安定ヲ顧念スル帝國ノ責務ニシテ而カモ  
事態ハ今ヤ一日モ放置シ難キ迄ニ切迫セリ(先方カス様  
ノ事態ナシト否定スル場合ニハ假リニ今左様ノ事態ナシ  
トスルモ英國ノ意圖ニ鑑ミ早晚斯様ノ事態ニ立チ至ルヘ  
キコト明白ナリト應酬アリタシ)

而シテ右目的ヲ達スル爲ニハ過日成立セル政治的了解ニ  
テハ不充分ナルニ付帝國トシテハ此ノ際進ンデ佛印ノ共  
同防衛ノ爲佛ト軍事的協力ヲ欲スルモノナリ

二、惟フニ最近ノ事態ニ於テ佛本國ハ獨力ヲ以テ世界各地ニ  
亘ル殖民地ヲ有效ニ防衛スルコト極メテ困難ナル立場ニ  
アル折柄佛印ノ事態ハ前述ノ如ク切迫シ來リ佛印ヲ東亞  
共榮圈ノ一環トシテ重要視スル帝國トシテ拱手傍觀シ得  
サル所ナルヲ以テ佛國カ眞ニ印度支那ノ安全ヲ企圖スル

ナラバ經濟的分野ニ於テノミナラス軍事的分野ニ於テモ  
帝國ト完全ナル提携及協力ニ進ムコト必要ナリト思考ス  
佛政府カ世界ノ大勢ヲ明察シ何處迄モ日本ヲ信賴シテ本  
提議ヲ虚心坦懷ニ受入ルルコト眞ニ佛印ヲ混亂ヨリ救フ  
唯一ノ道ナリト信ス

三、就テハ帝國政府ハ佛國政府ニ對シ佛印共同防衛ノ爲ニ左  
記事項ヲ應諾セラレ直チニ必要ナル措置ヲ採ラレンコト  
ヲ要請ス

#### 左 記

(イ)所要兵力竝ニ艦艇若干及所要航空部隊ノ南部佛印ヘノ  
派遣

(ロ)航空基地トシテ「シエム・レアブ」「ブノンベン」「ツ  
ーラン」「ニヤトラン」「ビエンホア」「サイゴン」「ソ  
クトラン」及「コンボン・トラツシュ」ノ八個所、海  
運基地トシテ「サイゴン」及「カムラン」灣ノ二個所  
ノ使用竝我方ニ於テ之ニ伴フ諸施設ヲ爲スコト

(ハ)駐屯軍隊ノ演習居住及行動ノ自由ヲ認メ且之ニ對スル  
特別ノ便宜供與(西原「マルタン」協定中駐屯軍隊ノ  
居住行動ノ制限ニ關スル事項全部ノ撤廢ヲ含ム)

(二) 佛印軍ヲシテ日本軍ト衝突セサル如ク別ニ電報スヘキ  
上陸地附近守備兵及航空部隊ヲ一時撤去スル等適當ノ  
措置ヲ講スルコト

(ホ) 派遣部隊行動ノ大綱(上陸地點、上陸部隊等前記(二)、  
ノ地點ト同シ)ノ承認(但シ此點ハ重要軍機ニ屬スルヲ  
以テ先方ノ全面的承諾アル迄提示スヘカラサルニ付派  
遣後ノ兵力配置ト共ニ當方ヨリ電報ヲ待ツテ先方ニ明  
示スルコト)

(ヘ) 派遣部隊行動ノ細部ニ關シテハ佛側應諾後直ニ現地大  
本營機關(澄田機關)ト佛印側トノ間ニ協議ヲ開始セシ  
ムルコト但シ部隊カ上陸地附近ニ至ルモ右ノ細目協定  
終了シ居ラサル時ハ上陸後之ヲ行フ

(ト) 派遣部隊ノ使用通貨ノ提供(詳細別電第二七五號)

獨ニ轉電アリ度

(別電二)

本省 7月12日午後9時30分發

第二七五號(極秘、館長符號扱)

佛印派遣軍ノ所要貨幣ニ付テハ

(一) 派遣期間ヲ通シ「ピアストル」貨ヲ佛印當局ヲシテ供給  
方確約セシムルコト但シ之カ具体的方法ハ別途協議ノコ  
ト

(二) 不取敢今年末迄ノ所要額ハ之ヲ二千三百萬(23,000,000)  
「ピアストル」(月額約四百五十萬「ピアストル」)トシ、  
自由圓(Transcend)或ハ米弗又ハ金ノ内佛印側ノ希望  
スルモノヲ以テ之ヲ支拂フ(尙北部進駐軍ノ借入金月百  
萬「ピ」ハ含マズ)

(別電三)

本省 7月12日發

第二七六號

以書翰啓上致候陳者本使ハ本國政府ノ訓令ニ依リ佛領印度  
支那ニ關シ貴國政府ニ對シ左記提案ヲ爲スノ光榮ヲ有シ候  
一、佛領印度支那ノ共同防衛ノ目的ヲ以テ日佛兩國ハ軍事的  
協力ヲ爲スモノトス

二、前記軍事的協力ノ爲佛國政府ハ佛領印度支那ニ於テ日本  
國ニ對シ左記ヲ許容ス

往電第二七四號ノ(イ)(ロ)(ハ)及(ト)(ニ)付テハ往電第二七五



號ノ内容ヲ加フノ事項ヲ列記ス

三、前記派遣部隊ノ進駐ニ關聯シ佛國政府ハ右部隊ノ行動ノ大綱ヲ承認シ且右部隊ト佛印軍ノ衝突ヲ回避スル爲日本軍上陸地附近ノ佛印守備兵及航空部隊ヲ一時撤去スル等適當ノ措置ヲ講ス

四、派遣部隊ノ行動ノ細目ニ關シテハ現地兩國軍事當局間ニ協議決定ス

本使ハ貴國政府カ前記提案ニ同意セラレンコトヲ希望致候貴國政府ニ於テ同意ノ場合ニハ本件日佛兩國間ノ合意ハ成ルヘク速ニ正式ノ文書ニ依リ確認セラルヘキモノト了解スル旨茲ニ申添ヘ候  
右申進旁云々

(交渉ノ結果佛側カ共同防衛ヲ拒否スル場合ニハ前記一ハ削除ス又正式文書ノ形式トシテハ本電一(共同防衛)ニ付テハ議定書(案文別電ス)ヲ二乃至四ニ付テハ條約ト同等ノ效力ヲ有スル交換公文ヲ豫想ス御參考迄)

745 昭和16年7月12日

松岡外務大臣より  
在仏国加藤大使宛(電報)

南部仏印進駐に關する対仏交渉成立の場合の  
國際約束取付け手順につき訓令

本省 7月12日發

第二七七號

佛側ハ我方ノ壓迫ノ下ニ窮極ノトコロ我方要求ヲ應諾スルモノト期待スル次第ナルカ佛側應認ノ場合ニハ文書ヲ以テ先方ノ同意ヲ取付ケ置ク必要アリ而シテ右文書ハ内容上日佛間ノ國際約束ニシテ我方トシテ國內法上一定ノ手續ヲ執ル必要アリ、然ル處問題ノ性質上約束成立前所要ノ手續ヲ履行スルハ事實上不可能ナリ仍テ上記ノ國內法上ノ要求ト實際交渉上ノ必要トヲ考慮シ本件ハ左記方針ニ依リ處理スルコトト致度シ(過般ノ調停會議ニ於ケル保障及政治的了解ニ關スル日佛議定書ハ同一方針ニ從ヒ締結セリ)

(イ)貴大使ト佛政府トノ間ニ話合付キタルトキハ貴大使ト「ダurlan」外相トノ間ニ往電第二七六號ノ趣旨ノ通常外交文書ヲ往復シ其ノ中ニ右文書ノ内容ハ直ニ兩國間ノ正式取極ニ作成スヘキ趣旨ヲ明ニス

(ロ)引續キ右往復文書ノ内容ヲ正式取極ノ形式(議定書又ハ交換公文)ニ引移シ國內手續ヲ踏ミタル上署名調印ス

746

昭和16年7月12日

松岡外務大臣より  
在仏国加藤大使宛（電報）

わが方申入れの快諾を切望する旨のペタン仏

国主席宛近衛総理メッセージ手交方訓令

本省 7月12日後9時30分発

第二八〇號（極秘、館長符號扱）

近衛首相ノ個人的「メツセイジ」トシテ「ペタン」元帥ニ  
左記御傳達アリタシ、尤モ貴任國事情ニ依リ「ダルラン」  
副首席ヲ經由スベキモノナル場合ニ於テモ、ナルベク  
「ペ」首相ニ一應直接會見申入レラル、様致度

記

軍事基地其他ノ諸便宜供與方ニ關スル帝國政府今回ノ申入  
レハ帝國ノ自存自衛ト大東亞圈ニ於ケル帝國ノ立場ノ擁護  
上實ニ已ムヲ得ザルニ出ヅルモノナリ

而シテ佛印領土ノ保全及主權ノ尊重ニ關スル嚴肅ナル國際  
取極ニ依リ生ズル帝國ノ責務ハ飽ク迄之ヲ嚴守スル覺悟ニ  
シテ、寸毫ト雖モ之ヲ避ケントスルモノニ非ザルハ申ス迄  
モナキコトナリ

否寧口佛國トノ固キ提携ト佛印ニ於ケル日佛共同防衛ニ依

リ此責務ヲ完全ニ果サント欲スルモノニシテ一方南方ニ於  
ケル現實ノ情勢ハ別ニ吾大使ヲシテ貴國政府當局ニ説明セ  
シメタル通り最早右申入レノ遷延ヲ許サザルニ至ラシメタ  
リ

右帝國政府ノ眞意ト此間ノ事情トヲ御洞察相成世界動亂ノ  
大局ニ着眼セラレ我政府ノ眞意ニ些カノ疑念ヲモ差挾マ  
ル、コトナク、虚心坦懷我申入レヲ快諾セラレンコトヲ切  
望シテ已マズ、

本大臣ハ常ニ閣下ヲ尊敬シ閣下ノ明察勇斷ニ信賴スルカ故  
ニ直接閣下ニ訴フル次第ナリ

~~~~~

747

昭和16年7月12日

松岡外務大臣より
在仏国加藤大使宛（電報）

仏印におけるドゴール派の画策に関する情報

通報

本省 7月12日後9時40分発

第二七九號（極秘、館長符號扱）

佛印「ドコール」派策動ノ顯著ナル事例竝ニ佛側反日的行
動ノ主ナル事例及ヒ急迫セル南洋方面ニ於ケル政治的經濟

的竝軍事の事例左記ノ通りナルニ付交渉上必要ニ應ジ適宜利用セラレ度

(一) 現在佛印政府ノ重要ナル地位ヲ占メ居ル一派ノ人物ハ明瞭ニ「ドゴール」派ニ屬シ且ツ英米側ト常時密接ナル聯絡ヲ採リツツ本國ニ對スル裏切り竝ニ反日策動ヲナシツツアリ

「ジュアン」海軍大佐 總督武官長

「マニアン」陸軍中佐 「カンボヂヤ」軍參謀長

「デルサール」元總督府總務長官 現東京理事長官

「マントヴァニ」總督府政務局長

「シヤールトン」總督府教育部長

「ガネイ」印度支那銀行總裁

「ドラシユヴロチエル」西貢佛紙「デペーシユ」社長

更ニ最近最モ信賴スベキ情報ニ依リ判明セル處ニ依レバ右ノ内「ジュアン」大佐ハ本年一月十八日新嘉坡ニ於テ英側トノ間ニ極祕裡ニ英佛通商航海祕密協定ヲ締結セル處右協定ハ明瞭ニ佛本國ノ主權ヲ侵害スルモノナルノミナラス、客年八月卅日ノ松岡「アンリー」協定ニ違反スル反日的條項ヲ含ミ居レリ

タトヘバ武裝巡洋艦ニ轉用可能ナル「マレシヤル、ジョフル」「ダルタニアン」「アラミース」ノ三隻及將來佛印ニ入港スベキ十四節又ハソレ以上ノ速力ヲ有スル佛國船舶ニ關シ英國海軍司令官ノ事前ノ同意ナクシテ支那警備區域外、日本ノ諸港又ハ上海ノ北方ヘ赴カシメザル旨ヲ英側ニ約束シ其ノ他英國民間飛行機ニ對シテ佛印内飛行場使用ニ付便宜供與ヲ約束シ尙一月廿日英艦隊長官トノ會談ニ於テ對日情勢惡化ノ際ニハ佛印ハ其船舶ヲ香港又ハ新嘉坡ニ入レ英國ノ管理下ニオクベキコトヲ約束シ居レリ

更ニ其後佛印「ドゴール」派要人ノ新嘉坡當局トノ會談ハ益々頻繁トナリ居レリ

(二) 佛印官憲ハ曩ニ客年來進駐中ナル帝國軍人ヲ侮辱シ在留邦人ヲ壓迫シ、或ハ帝國ノ臣民又ハ將兵ト接近セントシ乃至好意ヲ有スル佛印土人ヲ壓迫シ、或ハ重慶政府特派員ノ佛印ニ於ケル反日行動ヲ默認シナカラ帝國ト協力シツツアル南京政府派遣員ニ對シテハ武力ヲ以テ其ノ事務所及個人ノ撤退ヲ強要スル等執拗ナル反日行動ヲ續ケ又最近ニ於テモ例ヘバ佛印經濟調查團ノ佛印行ヲ本來之ト

直接關係ヲ有セザル日佛經濟會議ノ審議ニ係ラシメ以テ暗ニ帝國トノ非協力態度ヲ堅持シ居レリ

(三) 政治軍事方面

1、英米蘭ハ二月上旬太平洋共同防衛ニ關スル協定ヲ遂ゲ、政治經濟軍事等凡ユル方面ニ於テ對日共同戰線結成ノ基地ヲ作レリ右ニ基キ、華府、新嘉坡、「マニラ」等ニテ頻繁ニ之等當局者間ノ會談行ハレタリ(之ヨリ曩英、豪、加ノ間ニ協同作戰ノ話合出來居ルコトハ御承知ノ通り)

2、英米蘭ハ蔣介石ヲ右共同戰線ニ參加セシムベク八方劃策セシカ、商震ヲ首席トスル軍事使節團ノ新嘉坡訪問、新外交部長郭泰旗^(張力)ノ歸途華府「マニラ」新嘉坡ニ於ケル首腦部ノ協議、英米専門家ノ重慶訪問等ヲ經テ、遂ニ三月十二日蘭貢ニ英支共同「ゲリラ」戰指導者養成學校設立協定、三月十九日英支軍事協定調印(英ノ對支援助及緬甸ノ協同防衛)三月下旬緬甸鐵道敷設協定又米國ハ「コンロー」少佐以下航空士ヲ支那ニ派遣スルト共ニ支那空軍援助ト引換ヘニ支那航空基地ノ共同使用ニ關スル協定ヲ締結セリ尙最近英米支軍事協定

ニ基キ新嘉坡ニ聯合軍參謀部設立準備中ニシテ重慶側ヨリハ七名ヲ派遣スル事トナリ、差當リ商震外一名ヲ派遣シツツアル外日本トノ武力衝突後一週間内ニ蔣軍六萬ヲ馬來ニ派遣スルコトニ合意成立シタリ更ニ確實ナル報道ニ依レバ本月中旬英支軍事同盟締結ノ見込ニシテ右ニヨレバ同盟ハ日本ノ南進開始ト同時ニ發動セラレ重慶側ハ「ビルマ」ニ特定部隊ヲ進駐セシムル規定ナリ

3、英ノ對泰政策ハ一方國境方面ニ於ケル兵力集中、反「ピブン」派華僑及共產黨ノ煽動ニ依ル「ピブン」暗殺又ハ「ピブン」政權顛覆運動使噤竝麻袋ノ輸出制限又ハ「タイ」ノ在倫敦正貨凍結ヲ廻リテノ經濟壓迫等凡ユル政治經濟及軍事的壓迫ヲ加ヘツツ、他方石油ノ供給(最初六千屯)等ニ依リ極力懷柔ヲ試ミ、硬軟相俟チテ「タイ」ヲ自己陣營内ニ惹キツケ以テ日泰離間ヲ策シツツアリ

(四) 經濟方面

1、米國ガ石油其他若干ヲ除ク外對日禁輸ヲ實施シ來リタルハ衆知ノ通ナル所、五月卅日以降比島ニモ右輸出

制限法ヲ適用スルニ至レリ

2、英領ニ於テハ屑鐵、「ニツケル」、麻袋、「ジユート」、「マンガン」、護謄、錫、「ボーキサイト」等ヲ禁止シ、其他羊毛、小麥、鐵ニ付テモ逐次輸出制限ヲ強化シツツアリ

3、日蘭印交渉ガ英米ノ使囑ニヨリ決裂ニ至リタルハ衆知ノ如シ

4、「タイ」佛印亦英米ノ壓迫ニ依リ米、「ゴム」、錫等ニ付キ條約上ノ義務ナキモノハ勿論義務アルモノニ付テ迄我方ニ對スル供給ヲ濫リ居レリ

5、更ニ英米支蘭等ノ軍備施設ニ至リテハ日ヲ逐ヒテ擴充整備セラレツツアルハ敢テ統計ヲ引用スル迄モナシ
(五)情勢前述ノ如クニシテ對日包圍陣ハ我方ガ此際南部佛印ニ實力ヲ扶植セザル限り、「タイ」佛印ヲモ其陣營内ニ引キ入レラレ結局「シリヤ」ノ如キ形勢ニ陥ル虞アリ右ハ帝國トシテ默止シ得ザルルハ勿論佛蘭西ニ取リテモ危險ナル事態ニシテ是レ皇國ガ機先ヲ制シテ今回ノ舉ニ出タル理由ナリ

獨ニ轉電アリ度

748

昭和16年7月12日

在広東高津(富雄)総領事より
松岡外務大臣宛(電報)

仏印進駐の準備状況に関する軍関係者からの
聞き込み情報報告

広 東 7月12日後発
本 省 7月12日後着

第二五三號(外機密、館長符號扱)

往電第二五二號ニ關シ

其ノ後軍側及軍側關係者ヨリ湯谷ノ聞込ヲ綜合スルニ左ノ通り

(一)日佛印通商條約ハ事實上佛印側ノ空手形(邦人ノ佛印内地旅行ニ對シ旅券ノ提示ヲ求メ内國民待遇ヲ拒否シ米弗決濟ヲ要求シ正金ト佛印銀行トノ相互勘定制度ヲ破壊シ又ハ碎米ノ故意的製造ニ依リ日本向佛印米ノ受渡シ拒否等)ニ終リ西貢ニ於ケル「ドゴール」派ノ勢力ハ英米ノ暗躍ト共ニ益々増大シ佛印内ノ反日傾向ハ愈々顯著トナル等佛印ノ事態相當逼迫セルモノアリ

(二)本月初メヨリ當地ハ佛印進駐部隊ノ基地トナリ軍司令部ハ南支軍ヨリノ佛印進駐部隊ノ編成(從テ當地殘留部隊

モ再編成セラル)物資ノ買付資金ノ準備(本年二月頃決定セル南支軍系統中ニ七月作戰經費トシテ二千萬圓(月間經費五百萬圓見當)計上シ居ル外軍票ロゴウ券百四十萬圓及佛印貨四百萬「ペソ」ノ準備アリ)等進駐準備ニ忙殺セラレ居リ

(三)南支軍飛行部隊ハ大部分既ニ南方基地ニ向ヒ暹羅ニハ既ニ飛行場四箇所又福州駐屯中川兵團ノ一部(相當機械化セル由)モ進駐ノ趣ナリ

749

昭和16年7月14日

在広東高津総領事より
松岡外務大臣宛(電報)

仏印進駐の目的や蘭印・シンガポールに対する 軍側意向に関する聞き込み情報報告

広東 7月14日後発

本省 7月14日後着

第二五五號(館長符號扱、外機密)

往電第二五三號ニ關シ

其ノ後軍側ヨリノ湯谷ノ聞込左ノ通り

(一)今次ノ全國的總動員ハ内外ニ對シ日本カ時局克服ニ對ス

(欄外記入)

ル英米ノ援助ニ對シ見切ヲ付ケ樞軸側ヲ背景トシ獨力之ヲ實行セントスル不退轉ノ決意ヲ表明セルモノニシテ應召者ニ對スル宴會又ハ見送り等ノ儀禮ヲ差控ヘシメタルハ國內人心ニ相當ノ刺戟ヲ與ヘ眞ニ戰時體制下ニ在ルコトヲ冷靜ニ認識セシムル爲ナリ

(二)今回ノ佛印進駐ハ差當リ佛印側ニ對スル重壓トシテ敢行スルモノナルカ更ニ國際情勢ノ推移ニ即應シテ飛躍的發展ヲ行フコトヲ豫想シ萬全ヲ期シテ行フモノナリ佛印ニ對シテハ進駐ノ建前ハ堅持シタキモ事情ノ如何ニ依リテハ實力ヲ以テ之ヲ占領シ後軍政ヲ布クコトナルヘク又佛印進駐ノ次ニ來ルモノハ蘭印ニ對スル最後通牒突キ付ケナルカ新嘉坡攻略ニハ海軍側主トシテ之ヲ擔當スルコトナルヘク陸軍トシテハ新嘉坡自體ニハ一箇師團蘭印ニハ二箇師團ヲ派遣スレハ足ルヘク主トシテ飛行隊(基地新南群島「パラオ」「タイ」國ノ「シンゴラ」葡萄牙領「チムジヨル」佛印)及潛水艦隊(南洋委任統治領、海南島及佛印)ノ活動ニ依リ英米ノ實力援助ヲ排除シ得ヘシ

(三)今回ノ佛印進駐部隊ハ第二十五軍團トシテ編成セラレ

(一軍團ハ四箇師團ヲ以テ成リ外ニ飛行機戰車山砲等ノ
特科隊配屬セラル南支軍ハ第二十三軍團)飯田中將(前電
飯田兵團ハ西村部隊トナレリ)(ニ任セラレ西貢ニ軍司令
部ヲ設置スルコトトナリ居リ諸般ノ準備整ヒ船舶ノ手當
モ了リタル由ニテ最近當地出發ノ趣ナリ

(欄外記入)

配布先

齋藤顧問、松宮大使、局部長、祕書官(官房各課長回覽)ノ小範
園ニ限ラレ居レリ

750

昭和16年7月15日

松岡外務大臣より
在独国大島大使宛(電報)

南部仏印進駐に関するわが方対仏要求につき

独伊両政府へ側面援助を要請方訓令

本省 7月15日発

第六四六號(極秘、館長符號扱)

在佛大使ヨリ轉電セル通り愈々堅キ決意ヲ以テ佛國政府ト
交渉ヲ開始シタルトコロ右ハ我方南進ノ第一歩ナルトモ

ニ英米ニ對スル重大ナル牽制手段ニシテ三國條約ノ趣旨ニ
依リ獨伊ニ協力スル所以ナルニ付テハ交渉ノ過程ニ於テ佛
政府ヨリ貴任國政府ニ對シ我方要求ノ拒絶乃至緩和等取ナ
シ方頼込ミ來ル場合ニハ之ヲ斥クルハ勿論側面ヨリ我方ヲ
援助シ我方要求受諾方佛側ヲ説得スル様申入ラレ度シ
本電訓令トシテ伊ニ轉電アリ度シ
佛ニ轉電アリ度シ

751

昭和16年7月15日

在仏国加藤大使より
松岡外務大臣宛(電報)

南部仏印進駐に関するわが方要求事項を仏国

副総理へ手交について

付記一

昭和十六年七月十四日発在仏国加藤大使より

松岡外務大臣宛電報第三六四号

右わが方要求事項

二 右仮訳文

ヴィシー 7月15日後発

本省 7月15日後着

第三六六號(至急、館長符號扱)

往電第三六三號ニ關シ⁽¹⁾

十四日「ダルラン」副總理ヲ往訪本日ハ本國政府ヨリノ重大ナル訓令ニ基キ申入ルル次第ナリト前提シ最近極東ニ於ケル英米ノ我ニ對スル包圍陣ハ多分ニ英米蘭支共同ノ軍事的色彩ヲ帶ブルニ至リ事態緊迫ヲ告ケツツアリ日本政府ニ於テハ之力對策熟考ノ結果佛印ニ確乎タル軍事的地歩ヲ築クノ緊要ナルヲ認メ今回佛國ニ對シ日本軍ノ南部佛印ヘノ進駐及基地獲得ヲ要スルコトナリタル次第ナリトテ往電第三六四號ノ書物ヲ手交シ我方トシテハ右軍事の措置ヲ容易ナラシムル爲佛印ト協同防衛ノ地位ニ立ツコトヲ欲スルモノナルカ茲ニ充分御了解アリタキコトハ我方トシテハ今回ノ措置ヲ以テ曩ニ我方ノ保障シタル佛印ノ領土主權尊重ノ方針ニハ何等變更ヲ來ササルモノト思考シ居リ從テ佛印ノ完全ナル同意ノ下ニ之ヲ實行シタキ所存ニシテ勿論日本トシテハ從來ノ日佛間諸協定ノ精神ヲ何所迄モ維持尊重シ行キタキ決心ナリト説明シタルニ

「ダ」⁽²⁾ハ前掲書物ヲ一讀ノ上右ハ甚タ重大ナル御提案ナルカ佛側ハ日本ニ對シ一方のニ讓ルノミニシテ何等得ル所ナシ又斯カル提案ヲ休戰條約下ノ特殊ノ地位ニ在ル佛國カ受

諾セハ英米等ヨリモ種々要求起ルヘク結局佛印ノミナラス他ノ植民地ヲモ新ニ混亂ノ危險ニ晒スコトナルヘク自分等カ困難ナル事態ノ下ニ佛帝國ヲ一切ノ紛争ヨリ避ケントスル建前カ崩レル譯ニシテ自分ハ獨逸ニ對シテモ此ノ建前丈ハ堅持シ來リタルモノナリ右提案ハ直ニ「ベタン」元帥ニ報告スヘキモ元帥ハ到底受諾セサルヘシト述ヘタルヲ以テ本使ヨリ佛側カ一方のニ讓ルノミナリト言ハルルモ今回ノ措置ニ依リテ寧ろ佛印ノ保全カ可能ナル譯ナリ又英米カ干涉スヘシトセラルル(モ?)例ヘハ「マルチニツク」又ハ「タイチ」ハ佛印トハ全ク狀況ヲ異ニシ居リ特ニ佛印ニハ英米側ニ對スル同情者モ多數アリ之等カ佛本國ヨリノ離脱ヲ計ルカ如キ危險モアリ日本トシテハ佛印カ佛熱帶阿弗利加植民地及「シリヤ」ノ如キ事態ニ立至ルコトハ到底默過シ得サル所ナリト述ヘタル上

實ハ⁽³⁾日本政府ニ於テハ佛側ノ困難ナル事情ハ充分承知シ居リ殊ニ曩ニ佛國トノ協定締結ニ當リ屢讓歩ヲ求メタルコトニモアリ又モヤ新ナル要求ヲ出スハ最モ好マサル所ナルカ前記緊迫ノ情勢ニ鑑ミ已ムヲ得ス決意シタル次第ナルヲ以テ佛側ニ於テモ本件ニ對シ慎重考慮ヲ加ヘラレタル上受諾

ノ回答ヲ與ヘラレ度シ日本側トシテハ今回ノ軍事的措置ニ對スル準備ハ既ニ完了シ居ル様承知シ居リ又現下ノ情況ニ於テハ我方トシテハ如何ナル困難ヲ排シテモ之ヲ決行スル決意ヲ有スルモノニシテ殊ニ事態急迫シ居ルニ付來ル十九日土曜迄ニ御回答ヲ得タシト申入レ更ニ申添ヘタキハ日本側トシテハ佛側ト協定ニ達シタル場合佛印ニ對シ充分軍事の便宜ヲ與フル用意アリ又本件カ英米側ニ洩ルレハ必スヤ邪魔ヲ入ルヘキヲ以テ機密保持亦嚴重注意アリタク本件申出ヲ當地ニ提出シタル所以モ一ニハ此ノ點ニアルモノナリト述ヘタルニ「ダルラン」ハ委曲了承シ成ルヘク速ニ御返事スヘシト答ヘリ

尙「ダルラン」トモ打合セノ上明日中ニモ「ペタン」ニ面會更ニ申入ヲ爲スト共ニ近衛大臣ノ「メッセイヂ」ヲ手交スル豫定ナリ

獨ヘ轉電セリ

(付記一)

ウイシー	7月14日後発
本省	7月15日後着

第三六四號(至急、館長符號扱)

1. France et Japan s'engagent à coopérer militairement pour défense en commun de Indo-Chine Française.

2. A cet effet, Gouvernement français accordera au Japon faculté de prendre disposition suivantes:

(A) envoi en Indo-Chine méridionale du nombre de troupes, unites navales et formations aérienne japonaises nécessaire.

(B) utilisation, comme bases aériennes, des huit localités suivantes: Siemreap, Phnompenh, Tourane, Nhattrang, Bienhoa, Saigon, Soctrang et Kompong trach, comme bases navales, de Saigon et de baie de Camranh, aménagements nécessaires y seront apportés par forces japonaises.

(C) ces forces auront toute liberté concernant logement, manoeuvres et mouvements. Il leur sera accordé des facilités particulières pour accomplissement de leur tâche. Ceci comprend suppression des restrictions prévues

par accord Nishihara-Martin.

(D) Gouvernement Français fournira aux forces japonaises devises dont elles auront besoin. Gouvernement Japonais est prêt à les payer selon modalités à établir en commun.

3. Gouvernement Français donnera son accord au dispositif général d'entrée de ces forces. Modalités de cette entrée feront objet de délibérations entre autorités japonaises sur place et autorités indo-chinoises.

Pour éviter possibilité d'un conflit fortuit, des mesures appropriées, comme éloignement momentané des forces indo-chinoises de proximité des points de débarquement des forces japonaises, seront prises par autorités françaises.

(付記)

七月十四日午後「ヴィシー」發、十五日午後本省着

加藤大使發松岡大臣宛來電第三六四號假譯

一、佛國竝日本國ハ佛領印度支那ノ共同防衛ノ爲軍事的協力

ヲ爲スコトヲ約ス

二、前記目的ノ爲佛國政府ハ日本國ニ對シ左記措置ヲ取ルノ自由ヲ供與ス

(イ)必要數ノ日本軍隊、艦隊及空軍編隊ノ南部印度支那ヘノ派遣

(ロ)「シエム・ラップ」、「ブノンペン」、「ツーラヌ」、「ナトラン」、「ビエン・ホア」、西貢、「ソクトラン」及「コムボン・トラック」ノ空軍基地トシテノ使用、西貢及「カムラン」灣ノ海軍基地トシテノ使用

日本軍ハ前記各地ニ於テ所要ノ裝備ヲ爲スベシ

(ハ)該日本軍ハ居住、演習及行動ニ關シ一切ノ自由ヲ享有スベク其任務ノ遂行ノ爲特別ノ便宜ヲ供與セラルベシ
右ハ西原・「マルタン」協定ニ依リ予見セラレ居ル制限ノ撤廢ヲ包ム(含ム)

(ニ)佛國政府ハ日本軍ノ必要トスル貨弊(需カ)ヲ提供スベシ日本國政府ハ合議ヲ以テ決定セラルベキ方法ニ依リ之ガ支拂ヲ行フノ用意アリ

三、佛國政府ハ日本軍入國ニ關スル一般的措置ニ對シ同意ヲ與フベシ右入國方法ニ就テハ現地日本當局及印度支那當

局間ニ於テ協議セラルベシ

不慮ノ紛争ヲ防止センガ爲佛國當局ハ日本軍上陸地附近ヨリ印度支那兵力ヲ一時撤去スル等適當ノ措置ヲ講スベシ

752

昭和16年7月16日
松岡外務大臣より
在独国大島大使宛(電報)

南部仏印進駐に関する対仏交渉の開始を独伊

両国大使へ通報について

本省 7月16日後5時発

第六五五號

十五日午後大橋次官ハ獨、伊兩大使ヲ個別ニ招致シ佛印南部ノ情勢及日本ヲ繞ル西南太平洋ノ情勢ニ鑑ミ帝國政府ハ愈々「ヴィシー」政府ニ對シ佛印南部ニ於ケル二個ノ海軍基地及數個ノ空軍基地獲得竝ニ皇軍進駐ノ件ヲ共同防衛ノ名目ヲ以テ要求スルコトトナリ又敵性國家ノ策動ヲ防止スル爲時日ニ余裕ヲ與ヘズ二十日頃迄ニ本交渉ヲ終了シタキ意嚮ナリ其ノ際佛印ガ假ニ應諾セザル場合ニ於テモ將又英米ガ妨害スル場合ニ於テモ之ヲ強行スル方針ナルガ之ガ爲

佛印ヲ占領シ若クハ主權ヲ侵犯シ或ハ佛印ニ關スル條約ヲ

犯ス等ノ意圖ヲ有セズ本件ハ獨側ノ久シク待望シアリシ我方ノ南進政策ノ第一歩ナル處現下ノ獨佛ノ緊密ナル關係ニモ鑑ミ成ルベク平和裡ニ其ノ目的ヲ達成シタキニ付佛側ニ對シ我方要求ヲ受諾スル様勸告アリタシト述べ置キタルガ其ノ際兩大使ハ其ノ旨直ニ本國政府ニ報告スベシト答ヘ引取りタリ

獨ヨリ伊、佛ニ轉電アリタシ

753

昭和16年7月16日
松岡外務大臣より
在ハノイ林總領事、在サイゴン袁田
(不二夫)總領事宛(電報)

対仏交渉に伴うサイゴン在留邦人の引揚げ措置につき訓令

置につき訓令

本省 7月16日後7時発

合第一五一八號(極秘)

帝國政府ハ最近ノ緊迫セル國際情勢ニ對處シ東亞共榮圈確立ニ邁進センガ爲佛印南部ニ軍事基地ヲ獲得シ皇軍ヲ進駐セシムルコトニ廟議決定シ十四日「ヴィシー」政府ニ其ノ

旨申入レタルガ右ハ英米ノ妨害アルトモ之ヲ排除シテ實現セントスル帝國政府ノ固キ決意ノ下ニナサレタル決定ニシテ佛政府及佛印當局ノ反對アル場合ニ於テモ之ヲ強行セントスルモノナリ

右申入ニ對スル諾否ノ回答ハ日本時間二十日中ニ之ヲ取りツクル様目下交渉中ナルモ帝國トシテハ進駐ガ平和的ナルト武力的ナルトニ拘ハラズ在留民ハ一應高雄迄引揚グル方針ナルニ付貴官ハ右御含ミノ上左記ヲメ準備シオカレタシ

記

甲、西貢(舊管轄區域ニ依ル)

一、引揚勸告(命令ニ非ザルモ全員引揚ゲシムルコト)ハ二十一日之ヲ發シ二十三日迄ニ乗船ヲ了シ二十四日未明出帆ノコト但シ本項ハ追ツテ電報スル迄絶對外部ニ洩レザル様注意アリタシ

一、引揚者收容ノ爲大阪商船^{カンジュ}干珠丸(七月十八日西貢發ノ予定)ヲ貴地ニ待機セシム、本件ニ就テハ遞信省ト打合セ同船出帆延期ノ理由ニ付テハ荷役ノ遅延等適當理由ヲ附シ我方企圖ヲ佛側ニ感得セザル様注意アリタシ

一、御眞影ハ館員ヲシテ奉戴セシメ高雄着ノ上ハ州廳へ保管

方依頼ノコト、右館員ハ高雄ニテ命令アル迄待機セシムルコト

一、電信暗號ハ絶對必要ノモノノミ殘シ他ハ燒棄ノコト、燒棄目錄ハ直ニ電報ノコト

一、電信文書竝ニ機密文書ニ就テハ前項同様

一、貴官及其ノ他ノ館員ノ行動ニ付テハ更ニ電報スベシ

乙、河内(舊管轄區域ニ依ル)

原則トシテ引揚ゲヲ行ハザルモ順化等遠隔ノ地ニ在ル者ハ河内ニ引揚ゲシムルコト

丙、西貢ニハ別便ニテ托送スミ



754

昭和16年7月16日

在仏国加藤大使より
松岡外務大臣宛(電報)

ペタン仏国主席へ近衛総理メッセージを手交

しわが方申入れの快諾を要請について

ヴィシー 7月16日前発

本省 7月16日夜着

第三七〇號(館長符號扱、至急)

往電第三六六號ニ關シ

十五日「ペタン」元帥ニ面會近衛總理ノ「メツセージ」ヲ傳達シタル上昨日「ダルラン」副總理ニ申入レタル日本政府ノ提議ニ付テハ既ニ御承知ノコトト存セラルル處右ハ日本カ英米其ノ他諸國ノ包圍下ニアリ緊迫ノ情勢已ムナキニ出テタル措置ナレトモ同時ニ佛印ノ主權尊重ハ何處迄モ之ヲ嚴守スル意嚮ナリト説明シタルニ元帥ハ「メツセージ」ヲ一讀ノ上本問題ニ關シテハ今朝「ダ」ヨリ報告ヲ受ケタルモ事重大ニシテ目下政府ニ於テ慎重審議中ナリ近衛總理ノ理解アル(態度)ノ表示ハ自分ノ多トスル所ナリ又「メツセージ」中ニモ言及シアル佛印ノ主權尊重ノ點コソハ本問題解決ノ出發點タルヘシト信ス自分ハ先年 天皇陛下御外遊中戰地ヲ親シク御案内申上ケタルコトアリ其ノ後度々陛下カ當時ノ御記憶ヲ御話遊サルコトヲ傳聞シ恐懼シ居ル次第ニシテ日本ニ對シテハ多年深キ友誼ノ念ヲ懷キ居ル者ナリ近時佛印ヲ繞リ日本トノ間ニ種々困難ナル問題起リ居ルモ自分ハ常ニ兩國ノ友好關係ヲ保持セントノ念慮ヨリ善處シ來リタル者ナルカ今回モ此ノ見地ヨリ何等カ適當ナル解決ノ途ヲ發見スル要アリト信ス日本側ニ於テモ佛國カ現ニ國土ノ大半ヲ占領サレ居ルカ爲國民ノ感情ハ甚シク低

調過敏トナリ居ル實情ニ付御留意アリ度次々ニ困難ナル問題ヲ國民ノ前ニ提供スルコトハ政府トシテ絶對ニ避ケサルヘカラサルコトヲモ御了解アリタシ自分ハ日本カ佛國現下ノ弱身ニ突込ム如キコトナキヲ信スト述ヘタルニ付本使ハ夫レ等ノコトハ日本側ニ於テ充分承知シ居ル上ニ今回ノ提議ヲ爲スニ當リテモ佛國政府ト完全ナル協議ノ下ニ本件措置ヲ實施シタシトノ特ニ強キ希望ヲ有シ居ル次第ハ昨日「ダ」副總理ニモ申述ヘタル次第ナリト答ヘ置キタリ尙元帥ハ近衛首相ノ「メツセージ」ニ對シテハ政府トモ協議ノ上今週中ニモ回答ヲ發シタキ心算ナリト述ヘ居リタリ獨ヘ轉電セリ

~~~~~

755 昭和16年7月17日 松岡外務大臣より  
在タイニ見公使宛(電報)

### 南部仏印進駐に関する対仏交渉につきタイ政府への説明振り訓令

付記 昭和十六年六月十二日、陸軍作成

「泰へ英國ノ武力進駐成起スルヤ否ヤノ判斷」

本省 7月17日後8時30分發

## 第四〇三號(極秘、館長符號扱)

今般帝國政府ハ共同防衛ノ名目ニテ南部佛印ニ於テ軍事基地ノ設定竝ニ皇軍進駐ノ爲佛政府ト交渉ヲ開始セリ本件ハ出來得ル限り平和裡ニ行フ所存ナルモ佛側之ニ應セサル場合ニ於テモ又英米ノ妨害アル場合ニ於テモ強行セントスルモノナル處其ノ結果必然「タイ」國ニ於テ日本ノ實力ニ信賴シテ日本トノ提携ニ進マントスル傾向ト逆ニ其ノ獨立ニ不安ヲ感じ第三國ヲ利用セントスル傾向トヲ生スベク且ツ本件措置ヲ楔機トシテ英國ノ對「タイ」施策ハ一層強化セラレ差シ當リ「タイ」ニ對シ軍事行動ヲ起スカ如キコトナシトスルモ政治的經濟的ニ新手ヲ打ち來リ結局「タイ」ハ日英ノ間ニ處シテ態度決定ヲ迫ラルルノ窮地ニ陥ルコトナルベシ仍ツテ我方トシテハ此ノ際「タイ」ニ對スル獨立ヲ脅カサントスル意圖ナキコトヲ明ニシ不必要ナル恐怖ヲ與ヘサル様注意スルトトモニ緊迫セル我實力ヲ背景トシテ彼等ヲシテ日「タイ」提携ノ已ムナキヲ觀念セシムルノ要アリ是ガタメニハ極メテ微妙ナル考慮ヲ要スルニ付若シ「ビアン」等ヨリ本件ニ關シ何等情報ヲ基トシ質問シ來ル場合ニハ左記趣旨ニ依リ應酬竝ニ指導セラレタシ

一、印度支那ハ大東亞共榮圈ノ不可缺ノ一環ニシテ重要物資ノ供給地トシテ我方ノ最モ重視スル地域ナル處最近英佛關係ノ惡化トトモニ佛印南部ニ於ケル「ドゴール」派ノ策動激化シ英國ノ外部ヨリノ策動ト相俟ツテ我方ノ地位ヲ脅カシ一步ヲ誤レバ「シリヤ」ノ如クナル處アル一方英米蘭支ノ經濟的軍事的ノ對日包圍陣ノ強化ニ起因スル事態ハ帝國ノ自存自衛上最早猶豫シ難キ迄ニ切迫セリ今回ノ措置ハ右ノ如キ事態ニ對スル豫防的手段ナルコト

二、日本ハ佛印ヲ占領シ若クハ其ノ主權ヲ侵害シ又ハ帝國ノ佛印ニ關シテ締結セル諸條約ヲ侵犯セントスルモノニ非ズ唯佛本國ノ現狀ニ於テ佛印ヲ有效ニ敵性國家若ハ敵性分子ノ攻撃乃至策動ニ對シ防衛シ得サル立場ナルニ鑑ミ帝國ハ佛ト共同シ若クハ要スレバ單獨ニ之ヲ防衛セントスルモノナルコト

三、右帝國ノ措置カ「タイ」國ニ脅威ヲ及ホサス又帝國トシテ脅威ヲ及ホス意思毫末モナキコトハ申ス迄モナシ否寧ロ本措置カ「タイ」ニ對シ佛印ヨリ來ル脅威ヲ除キ且ツ其ノ他ノ第三國ヨリ來ルヘキ脅威ニ對シ帝國トシテ「タイ」ヲ有效ニ擁護シ進ンテ機至ラバ再ビ「タイ」ノ失地

回復ヲ援助シ得ル立場ニ立チ得ル次第ナルコト

## (付記)

泰へ英國ノ武力進駐成起スルヤ否ヤノ判斷

昭一六、六、一二

## 判決

英國ハ現情勢下ニ於テ泰國へ武力進駐ヲ企ツルコトナシ猶帝國軍カ南部佛印又ハ泰國領内へ進駐スルコトアリトスルモ之カ對抗措置トシテ英國軍ノ泰國進駐ヲ見ルコトナシ

## 理由

一、英國ハ本年初頭帝國カ泰、佛印紛争ノ調停ニ乘リ出スヤ泰國境増兵說ヲ盛ンニ宣傳シ且極東危機說ヲ大イニ世界ニ放送シテ米國ノ關心ヲ刺戟スルト共ニ帝國ノ對南方積極的企圖ヲ挫折セシメントセリ

猶最近英、支同盟ヲ宣傳シテ重慶側武力ノ「ビルマ」來援等ヲ放送シアルモ之レ極東ニ於テ實力ヲ有セサル英國カ畢竟宣傳ニヨリ馬來及「ビルマ」等其領土ヲ保全セントスル一企圖ノ現ハレニ過キスシテ結局宣傳ハ宣傳以上ノ何者ニモアラス

馬來、「ビルマ」方面ニ於ケル英國ノ全兵力ヲ以テスルモ目下泰ヲ屈伏セシムルノ實力ナク而カモ斯カル事態生起センカ「ピピン」泰首相ハ全力ヲ擧ケテ抗争之ヲ擊退セント聲明セル事實モアリ加フルニ英軍ノ泰國侵入ハ即チ日本軍ニ對シ泰國進駐ノ有力ナル口實ヲ提供スル所以タルヲヨク熟知シアル英國當局カ現下直ニ之ヲ企圖スルノ公算ハ無キモノト判斷ス殊ニ泰國ノ對英經濟依存ヲ對日依存へ轉換セシメントスル帝國ノ意圖ヲ反映シ最近特ニ顯著トナリ來レル泰國ノ對英經濟攻勢(從來英國ニ主トシテ供給シアリシ「ゴム」、錫等ノ大部ヲ帝國へ供給セントシアルハ其一例)ニ狼狽シ且帝國ノ前記決意ノ下ニ於テハ到底對泰經濟壓迫ノ成立セサル所以ヲ十分諒解シアル英當局カ最近石油ノ對泰供給等ヲ好餌トシ泰國無任所大臣「ナイビラ」等ノ經濟的懷柔工作ニ專念シアル點等ヨリ判斷セハ現情勢下ニ於テハ英軍ノ對泰侵入等ハ到底想像シ得サルトコロナリトス

二、猶帝國軍カ南部佛印及泰國へ進駐スルコトアリトスルモ歐洲戰爭ノ現事態下ニ於テハ米國ハ帝國ニ對シ開戦スルカ如キコト無カルヘク米國ノ右決意及協同動作ナクシテ

又英國カ帝國ト武力衝突ニ至ル虞アル泰國進駐ヲ敢行ス  
ルカ如キコト無カルヘシ

然レトモ支那人其他ノ東洋民族ヲ以テスル遊撃戦法ヲ以  
テ泰國ノ内部攪亂ニ出ツルカ如キハ必スシモ其公算無シ  
トセサルヘシ

~~~~~

756

昭和16年7月17日 松岡外務大臣より
在仏国加藤大使宛(電報)

わが方申入れを仏国側が応諾した後に両国間
で取り結ぶべき正式文書の案文通報について

別電一 昭和十六年七月十七日發松岡外務大臣より在

仏国加藤大使宛第二八七号

共同防衛に関する議定書案

二 昭和十六年七月十七日發松岡外務大臣より在

仏国加藤大使宛第二八八号

軍事上の協力に関する交換公文案

本省 7月17日午後10時30分發

第二八六號(極秘、館長符號扱、外機密)

往電第二七六號ニ關シ

一、共同防衛ニ關スル議定書案及軍事上ノ協力ニ關スル交換
公文案別電甲號及乙號ノ通

二、兩文書ハ署名又ハ交換ト同時ニ實施セラルモノナルヲ
以テ事前ニ樞密院御諮詢ノ手續ヲ執ルヘキモノナリ依テ
案文確定ノ上ハ直ニ全文電報アリ度シ

三、議定書ハ公表シ交換公文ハ不公表トス

四、共同防衛ヲ「ドロップ」スル場合ニハ軍事上ノ協力ニ關
スル取極ハ祕密議定書ノ形式ニ依ルコトト致度シ

(別電一)

本省 7月17日午後10時30分發

第二八七號(極秘、館長符號扱、外機密)

別電甲號

佛領印度支那ノ共同防衛ニ關スル日本國「フランス」國間

議定書案

大日本帝國政府及「フランス」國政府ハ現下ノ國際情勢ニ
鑑ミ佛領印度支那ノ領土及治安ニ對スル一切ノ脅威ハ同時
ニ日本國ノ安寧及存立ニ對スル脅威タルノ事實ヲ確認シ右
脅威ニ對シ佛領印度支那ノ安全ヲ確保センコトヲ希望シ左

ノ如ク協定セリ

(新章)

一 兩國政府ハ共同シテ佛領印度支那ノ防衛ニ當ルコトヲ約ス

二 右共同防衛ヲ實行スル爲必要ナル軍事上ノ協力其ノ他ニ關シテハ兩國間ニ別ニ協議決定セラルル所ニ據ルモノトス

(新章)

本議定書ハ署名ノ日ヨリ實施セラルヘシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本議定書ニ署名調印セリ

昭和十六年、月、日即チ千九百四十一年、月、日「ヴィツシー」ニ於テ日本文及「フランス」文ヲ以テ本書ニ通ヲ作成ス

(別電二)

本省 7月17日後10時30分発

第二八八號(極秘、館長符號扱、外機密)

別電乙號

軍事上ノ協力ニ關スル祕密交換公文案

(往翰)

以書翰啓上致候陳者本使ハ佛領印度支那ノ共同防衛ニ關スル日本國「フランス」國間議定書ニノ規定ニ從ヒ佛領印度支那ニ於ケル日佛間軍事上ノ協力ニ關シ兩國政府ニ到達セラレタル左記了解ヲ本國政府ノ爲確認スルノ光榮ヲ有シ候

(新章)

(往電第二七六號ノ二、三、四ヲ列記ス)

(新章)

本使ハ閣下ニ於テ右了解ヲ確認セラレンコトヲ希望致候

(新章)

右申進旁本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

(新章)

昭和十六年(千九百四十一年) 月 日「ヴィツシー」ニ於テ

(返翰)

以書翰啓上致候陳者本日附貴翰ヲ以テ左記御通報相成敬承致候

(新章)

(往翰全文ヲ繰返ス)

本大臣ハ「フランス」國政府ノ爲右了解ヲ茲ニ確認スル旨閣下ニ通報スルノ光榮ヲ有シ候

(新章)

本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百四十一年 月 日「ヴイツシー」ニ於テ

~~~~~

757 昭和16年7月17日

在仏國加藤大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

南部仏印進駐に仏側の承諾を得られなければ  
軍事措置をとるのやむなきに至る旨仏國副総  
理へ説示について

ヴィシー 7月17日後発

本省 7月18日後着

第三七六號(大至急、館長符號扱)

往電第三七五號ニ關シ

十七日午前「ダurlan」副總理ヲ往訪本使ヨリ今回ノ提案ハ緊迫セル情況ノ下ニ爲サレタルモノニテ帝國トシテハ至急南方ニ強キ地歩ヲ堅ムルコト絶對ニ必要ナレハ不幸萬一

ニモ佛國ノ協力ヲ得ル能ハス否定ノ回答アル如キ場合ニモ我方トシテハ既定ノ方針及用意ニ從ヒ軍事的措置ヲ執ルノ已ムナキニ至ルヘク右ハ帝國政府ノ最モ好マサル所ナルモ斯クセハ悲ムヘキ結果ヲ惹起スヘキヲ以テ佛側ニ於テモ右ノ事情ヲ斟酌セラレ是非共我要求ヲ受諾セラルル様致度シト説示シ更ニ今次申入ハ軍事行動ニ關スルコトニモアリ帝國政府トシテハ重大ナル手續ヲ踏ミテ決定シタルコトナレハ内閣辭職ノ如キ場合ニモ何等影響ナカルヘキコトニ就キ附言致度シト述ヘタルニ「ダ」ハ本件申入力重大決意ヲ以テ爲サレ居ルコトハヨク承知シ居ルモ本件ハ直接佛帝國全般ノ重要政策ニ關聯アレハ佛側トシテモ困難ナル點御了解アリ度ク何レニセヨ慎重審議ノ上土曜日迄ニハ御回答スヘシト答ヘタリ

獨ニ轉電セリ

~~~~~

758

昭和16年7月18日
豊田外務大臣より
在仏國加藤大使宛(電報)

南部仏印進駐に関するわが方要求の具体的内容について

本省 7月18日後9時0分發

第二九三號(至急、極秘、館長符號扱)

往電第二七四號ニ關シ

一、(イ)ノ所要兵力ハ約四萬ナリ(右ハ軍事基地ノ警戒、整備等南部佛印防備ニ要スル最低必要兵力ニシテ先方ヨリ派遣兵數如何トノ質問ニ對シテハ明示セラレ度)

二、(ホ)ノ派遣部隊行動ノ大綱左ノ如シ、陸軍部隊ノ一部及海軍艦艇、陸海軍航空部隊ノ各一部ヲ「ニヤトラン」ニ入ラシメ且ツ陸軍部隊ノ一部ヲ「カプサンジャツク」附近ニ上陸セシメ又陸海軍航空部隊ヲ以テ上陸部隊トノ連絡ノ爲(本件連絡ハ我陸海軍航空部隊ヲ以テ佛印航空基地ヲ監視シ其ノ警戒裡ニ我部隊ヲシテ安全ニ上陸セシムル爲絶對ニ必要ナル措置ナリ貴使御含迄)佛印航空基地ヲ使用シ其ノ連絡ノ下ニ陸軍部隊主力ハ直接西貢及「ニヤトラン」ニ上陸シテ駐屯豫定地ニ至ル(本項ハ先方ノ全面的承諾アル迄絶對ニ提示スベカラザルコト、三及四項モ同ジ)

三、(ニ)ノ佛印軍トノ衝突ヲ避ケ度キ地點右ニ同シ

四、派遣後ノ兵力配置狀況左ノ如シ、主力ヲ西貢附近(西貢

市ヲ中心トスル相當廣範圍ノ地域ニ亘ル)ニ一部(約一ケ大隊御含ミ迄)ヲ夫々「ニヤトラン」及「プノムベン」附近ニ配置シ航空及海運基地ニハ當該關係部隊及艦船(上陸ニ必要ナル總數ハ數十隻ニ達スルモ殘置艦船數ハ十隻以內ナリ航空機ハ當初二、三十臺御含迄)及所要ノ警備部隊ヲ配置ス

五、尙話合マトマリ平和的ニ進駐スル際軍入國方法ニ關スル現地細目協定終了シ居ラザル場合ハ上陸後之ヲ行フ意向ニシテ(往電第二七四號三ノ(ハ)末段參照)實際上右現地細目協定未終了ノ場合ト雖モ上陸ハ決行スル次第ナルヲ以テ佛側ニ於テ此ノ點誤解ナキ様特ニ注意シ置カレ度

六、以上五項全部ハ往電第二七六號書翰案ニハ含マレ居ラザル事項ナルモ平和進駐ニ關スル絶對條件ナルニ付爲念

759

昭和16年7月19日

豊田外務大臣より
在仏國加藤大使宛(電報)

松岡外相更迭がわが方対仏印政策に変化を及ぼすと仏側が期待しないよう措置方訓令

本省 7月19日後3時30分發

第二九四號(至急、極秘、館長符號)

今次政變ニヨリ外交政策ニ變化ナキハ素ヨリ對佛印施策ハ廟議ノ決定ニシテ内閣更迭ニヨリ變更ナキハ勿論ナリ若シ佛政府ガ外相更迭ニヨリ我方態度ニ緩和乃至變化アルベシト期待スルコトアラバ却ヘツテ事態ヲ惡化セシムルニ過ギザルヲ以テカ、ル誤解ヲ抱カシメザル様御措置アリ度シ



760

昭和16年7月19日

豊田外務大臣より
在仏国加藤大使宛(電報)

日本軍の進発日時に基づく対仏交渉期限と仏

側の諾否両様に対する措置振り訓令

本省 7月19日後7時0分発

第二九五號(大至急、極秘、館長符號扱)

往電第二七三號ニ關シ

其ノ後軍ノ準備全ク整ヒ進發ノ時期ハ佛側ノ諾否ニ拘ラズ二十四日ト決定シ進發命令ハ日本時間二十三日中ニ發令セラルルニ付貴使ハ左記ニ依リ措置セラレ度

一、貴電第三六六號ニ對スル佛側回答ガ應諾ノ場合ハ直ニ往電第二七六號文書交換ノ上往電第二九三號第一項乃至第

五項ヲ併セ承諾セシメ結果回電ノコト

二、右ガ拒絶又ハ條件附回答ノ場合ニハ之ヲ拒絶ト見テ(佛側條件カ我方要求ヲ改變セザル字句其ノ他形式的ナル性質ノモノナル場合ニハ之ヲ拒絶ト見ルヲ要セザルモ其ノ際ハ本國政府ノ承認ヲ要スト留保附ニテ承諾セラレ差支ナシ)直チニ「事茲ニ至リテハ吾方トシテ自由行動ニ出ヅルノ外ナク軍ハ豫定ノ行動ニ基キ南部佛印進駐ヲ開始スベシ就テハ進駐ニ際シ極力武力衝突ヲ避クル如ク有效適切ナル手段ヲ採ル様至急佛印當局ニ指令ヲ發セラレ度シ若シ佛政府カ右我方要請ノ手段ヲ講ゼズ武力衝突等ノ不祥事發生ノ場合ニ於テハ遺憾乍ラ佛印ノ地位ニ重大ナル變革ヲ來サザルナキヲ保シ難シ、但シ帝國政府トシテカカル事態ノ發生ヲ欲セザルハ勿論ナルヲ以テ佛政府ガ前記軍進發命令發出ノ時期迄ニ我方要求ヲ全面的(往電第二九三號ヲ含ム)ニ容認スルニ於テハ話合ニ依リ平和裡ニ事態ヲ收拾シ得ル可能性アルニ付特ニ強く佛政府ノ反省竝ニ再考ヲ促シ度シ」トノ趣旨ニテ強く佛側ノ再考ヲ促シ極力佛側ノ全面的受諾ニ付努力セラレ結果回電ノコト

三、右一及二ニ基ク佛側最後の態度ノ回電ハ何レノ場合ニ於
テモ日本時間二十三日中(時差、電信發受竝ニ解讀ノ時
間ヲ考慮アリ度)ニ當方ニ到達スルヲ要スル次第ナリ
獨ニ轉電アリ度

761

昭和16年7月19日 在仏国加藤大使より
豊田外務大臣宛(電報)

南部仏印進駐に関する回答は独国意向を確認
しなければ実行不可能との仏国行政大臣の説
明について

付記 昭和十六年七月二十一日發豊田外務大臣より

在独国大島大使電報第六七〇号

わが方要求受諾を仏国政府へ勧告方在本邦独
国大使へ要請について

ヴィシー 7月19日後發

本省 7月20日前着

第三八一號(至急、館長符號扱)

行政大臣トシ最近國際問題特ニ獨佛關係ノ機務ニ參劃シ居
ル「ブノア、メシアン」(Benoist Mechin)ニ今十九日午前

面會シタル處「ブ」ハ佛印ニ關スル日本側提案ニ付テハ唯
今ヨリ「ダルラン」副總理ト協議スル筈ニシテ今日午後ノ
閣議ニ於テ審議ノ上「ダ」ヨリ何分ノ回答ヲ爲ス様承知シ
居ルモ自分ノ考ニテハ休戰條約ノ束縛下ニ在ル佛トシテハ
斯ノ如キ重大問題殊ニ共同防衛ノ約束ノ如キハ獨側ト豫メ
充分ナル協議ヲ遂クルコト必要ニシテ佛側ノミノ考ニテハ
法律的ニモ亦實際問題トシテモ單獨ニ決定シ得サル事態ニ
在リ他方獨側ヨリハ本件ニ關シ未タ何等話合ナク從テ今回
突然貴方ヨリ提案アリタルモ今日直ニ應諾ノ回答ヲ發スル
コトハ不可能ナリト述ヘタルヲ以テ本使ヨリ獨側ニハ既ニ
充分話シアリ本件ニ關シ獨側ニ異存ナキコトハ自分ノ確言
シ得ル所ナリト答ヘタルニ

「ブ」ハ佛印カ他國領土ノコトナル故獨側トシテハ問題ハ
簡單ナルヘキモ佛トシテハ英米其ノ他世界各方面ニ與フル
反射作用殊ニ米側ノ阿弗利加植民地ニ對スル今後ノ出方ニ
付テモ考慮セサルヘカラス簡單ニハ行キ難キ次第ニテ是等
ノ點ニ付テモ獨側ト充分協議セサレハ何レトモ決定シ難キ
地位ニ在リ突然日本ヨリ至急至急ト喉ヲ締メラレテモ何ト
モ致方ナキ情狀御了解アリタシト述ヘタル

依⁽²⁾テ本使ハ重ネテ日本ハ御承知ノ通り最近ノ國際情勢ノ急激ナル展開ニ直面シ自衛上已ムナク今回ノ措置ヲ執ラサルヲ得サルニ至リタルモノナルモ他面佛側ノ立場ヲ十分考慮シ何ントカシテ佛ノ完全ナル同意ヲ得テ本件措置ヲ實行シ度キ強キ希望ヲ有シ居ルモノナリトテ「ダurlan」「ペタン」ニ説明シタル所ヲ繰返シ更ニ軍事行動ノ豫定期日ハ絕對ニ變更ヲ許サス我方モ急キ居ル次第ナレバ今日ノ御審議ニ際シ其ノ邊ノコトヲモ十分考慮ニ容レ置カレタシト申入レ置タリ

尙「ブ」ハ獨側ト話合フニシテモ「アベツツ」大使ハ目下露西亞戰線ニ在リ來週ナラテハ歸巴セサルヘキ趣ナルカ時日サヘアラハ本件ニ付何ントカ御相談モ出來得ル様思考スルモ今日ノ回答ニ於テ直ニ受諾ヲ申述ルコトハ事實上不可能ト信スル旨述ヘ居リタリ御參考迄

(付記)

本省 7月21日前3時発

第六七〇號(極秘、至急、館長符號扱)

加藤大使ヨリノ來電ニ依レハ佛側ハ獨佛休戰條約ノ關係上

獨側ト充分協議スルノ必要アリ等ノ口實ニ依リ本件回答ヲ遷延セントシツツアリト見受ケラルルニ付本日大橋次官「オット」大使ヲ訪問シ我方ハ既ニ諸般ノ準備ヲ完了シ佛ノ諾否ニ拘ラス行動ニ出ツル決心ニテ若シ實力ヲ行使スルノ已ムヲ得サルニ至ル如キ場合ニ於テハ佛印ノ「ステータス」ニ影響ヲ及ホスコトナキヲ保シ難ク斯克テハ日佛間ハ勿論獨佛關係ニモ面白カラサル影響アルヘキニ鑑ミ獨トシテ此ノ際進ンテ至急佛ニ日本案受諾方勸告アリタシト述べタリ

右ニ對シ「オット」大使ハ獨逸ハ現在對蘇戰爭ノ關係上佛ニ對シ強キ態度ヲ取り得サル立場ニ在リ右申入レニ對シ獨政府カ如何ナル態度ニ出ツルヤハ確言致シ兼ヌルモ唯今ノ御趣旨ハ至急本國政府ニ電報スベキ旨答ヘタリ

就テハ貴使ヨリモ前記趣旨ニ基キ獨政府ノ勸告方至急御申入レ相成結果回電アリ度

尙貴電第九一六號ニ依ルモ十四日我方申入以來佛ハ獨側ニ協議シ居ラズ例ノ遷延策ト認メラル爲念

佛ニ轉電セリ

762

昭和16年7月19日

在仏国加藤大使より
豊田外務大臣宛(電報)

南部仏印進駐に関する回答は独伊兩國の意向
確認が必要であり数日間の回答猶予を仏国副
総理要望について

ヴィシー 7月19日後発

本省 7月20日夜着

第三八二號(大至急、館長符號扱)

往電⁽¹⁾第三七六號二關シ

十九日午後七時求メニ依リ「ダルラン」副總理ニ面會シタル處「ダ」ハ今回ノ日本側提案ハ事柄ノ性質上休戰條約ノ相手國タル獨伊ニ豫メ協議スルニ非サレハ佛限リニテ何事モ決定シ難キ次第ニシテ日本側力急キ居ラルル事情ハ充分承知シ居ルニ付十四日提案ヲ受領スルヤ直チニ巴里ニアリシ「ブア、メシアン」ヲシテ「アベツツ」大使ニ協議方ヲ命シタルモ同大使力旅行不在等ノ事情ニテ今日迄未タ聯絡スル能ハス左リトテ本件ヲ休戰委員會ニ諮ルコトハ事態ヲ

紛糾セシムルノミナラス祕密漏洩ノ危険アリト思考シタルカ「ア」ハ今明日中ニ歸巴ストノコトナレハ今日ノ閣議終了後「ブア、メシアン」ヲ直チニ巴里ヘ赴カシムルコトトセル様ノ次第ニテ今日決定的ナル御回答ヲスルコトハ實際問題トシテ不可能ナリ佛側トシテモ急キ事ヲ進メ居ル次第ニテ數日間回答ノ御猶豫ヲ得タシトテ別電第三八三號⁽²⁾ノ書物ヲ手交セリ

仍テ本使ヨリ獨側ニハ既ニ我方ヨリ通報モシ協議モシアリ「リ」外相モ「ア」大使モ本件ヲ良ク承知シ居ル筈ニテ獨側ニハ毛頭異論ナキ次第ナルカ我々ノ承知シタキハ佛側ノ御考ヘニシテ少クモ主義上諸否ノ御意嚮ナリトモ承知致度シト述ヘタルニ對シ

「ダ」ハ佛側トシテハ前述ノ如キ先ツ獨ト話合ヲシタル後其ノ意見ヲ決スル外方法ナク獨側ニ於テ本件ヲ既ニ承知シ居ルトセハ尙更其ノ協議ニハ暇ヲ取ルマシク僅カ數日ノ猶豫ニテ事濟ムモノト思考スト述ヘタルヲ以テ本使ハ前回モ繰返ヘシ述ヘタル如ク目下ノ緊迫セル國際關係ニ鑑ミ我方ニテハ本件措置ヲ急キ居ルニ加ヘ軍事行動ハ豫定ノ計畫ニ依リ實行セラルヘク變更ハ絕對ニ出來難キヲ以テ若シ時日

遷延セハ却テ日本側ニ於テ自主的ニ行動スルノ外ナキニ至ルヘキニ付至急手續ヲ進メラレタク今日御回答ノ次第ハ兎モ角政府ニ報告スヘシト答ヘ置キタリ
獨、伊ヘ轉電セリ

763

昭和16年7月20日

在仏国加藤大使より
豊田外務大臣宛(電報)

南部仏印への派兵期日切迫を仏国副総理へ伝

えわが方提案の全面受諾を要請について

ヴィシー 7月20日後発

本省 7月21日夜着

第三八九號(大至急、館長符號扱)

往電第三八六號ニ關シ

十九日午後「ダルラン」トノ會見後貴電第二九五號ヲ接取シタルニ付二十日午前再ヒ「ダ」ニ會見ノ上本使ヨリ昨日ノ會談直後接受シタル本國政府ノ通報ニ依レハ我方派兵ノ期日ハ極メテ切迫シ居リ昨日御回答ノ如キ猶豫ハ絶對ニ許ササル事態明瞭トナリタルニ付テハ我カ派兵ニ際シ不祥事件ヲ避ケル爲武力衝突ヲ回避スヘキ旨佛印側現地官憲へ必

要ナル指令ヲ發セラレタク若シ不幸ナル事故發生スルカ如キコトナラハ佛印ノ地位ニ重大ナル變化ヲ及ホスニ至ルコトアルヤモ測リ難ク右ハ日本政府ノ欲セサル所ナルコトハ屢々申シ述ヘ置キタル通りニシテ派兵ノ期日モ切迫シ居ルニ付來ル二十二日火曜午后六時迄ニ我方提案ニ對スル佛側ノ全面的受諾ヲ得タシト申入レ佛側ノ再考ヲ促シタル處「ダ」ハ右ハ(一)昨日ノ佛側回答ニ對スル抗議(二)佛印當局ニ對スル無抵抗ノ指令申達ノ要求及(三)提案受諾ノ再要求ト承知スル處其ノ通りナリヤト質シタルニ付本使ハ然リト應ヘタルニ「ダ」ハ良ク了解セリ「ペタン」元帥トモ協議ノ上明日ニモ何分ノ回答ヲ致スヘシト答ヘタリ
獨、伊ヘ轉電セリ

764

昭和16年7月20日

在仏国加藤大使より
豊田外務大臣宛(電報)

仏国行政大臣が要求受諾を内示しが方へ仏

印領土保全の声明発出を要望について

ヴィシー 7月20日後発

本省 7月21日夜着

第三九二號(大至急、館長符號扱)

二十日往電第三八九號「ダ」外相ト會見後「ブノア、メシ
ーン」ト面會シ本使ヨリ先刻「ダ」ニ申入ヲ爲シタルコト
ハ御聞キ及ヒナリヤト尋ネタルニ「ブ」ハ右ニ關シ唯今迄
「ダ」ノ所ニテ「プラトン」植民大臣ヲモ呼ヒ協議シ居リ
タル處ナルカ其ノ結果大體左ノ通り決定セリ

(一)佛國ハ日本ノ要求ヲ承認ス

(二)佛印領土ノ保衛ニ關シ日本側ニ於テ新ニ聲明ヲ公表サル
ルコト

(三)佛領印度支那軍ハ第三國ノ侵犯ニ對シテノミ日本軍ト協
力シテ防衛ニ當ルモノナレトモ一切ノ攻撃的企圖ニハ協
力セス

右ニ關シテハ何レ今明日中ニ「ダ」外相ヨリ公式ノ回答ア
ル筈ナレトモ右ノ中(二)ノ聲明ハ佛領印度支那當局ニ無抵抗
ヲ命令スル以上其ノ根據ヲ示ササレハ軍人トシテノ榮譽ヲ
保チツツ行動セシムルコト不可能ニシテ此ノ邊ノ軍人氣質
ニ付テハ日本側ニ於テモ良ク御理解アルコトト存ス尙右ハ
佛國一般ノ民心指導上ニモ絶對ニ必要ニシテ例ヘハ近衛總
理ノ「ベタン」元帥宛「メツセージ」ノ要旨公表ノ如キコ

トヲ豫想ス然シテ右公表ハ即時行ハルコト必要ナリト認ム
又(三)ノ軍事協力ハ防禦の意味ニ於テノミノ同意ニシテ攻撃
的企圖ニ佛領印度支那軍ヲ參劃セシメ得サル佛國現下ノ立
場ニ於テハ日本側ニ於テモ良ク了解セラル所ナルヘシト述
ヘタリ右不取敢
獨、伊ヘ轉電セリ



765 昭和16年7月20日 在仏国加藤大使ヨリ
豊田外務大臣宛(電報)

仏印領土保全の確認および仏印軍は攻撃的企
図には協力しないとの仏側申入れに対する容
認の可否回答方請訓

ヴィシー 7月20日後發
本省 7月21日前着

第三九三號(大至急、館長符號扱)

往電第三九二號中

(二)佛印領土保全ニ關シテハ佛側ヨリ議定書若クハ交換公文
又ハ其ノ他ノ形式ニテ再確認ヲ要求シ來ルコトアルヘク又
(三)佛印軍ハ攻撃的企圖ニハ協力シ得ストノ趣旨ヲ議定書又

ハ佛側回答文中ニ記載スルヲ望ムコトアルヘク尙取極ノ期限確定ヲ要望スルコトアルヘシト想像セラルル處右容認ノ可否其形式等豫メ御詮議相成リ折返シ御回電請フ獨、伊へ轉電セリ

~~~~~

766

昭和16年7月21日  
在仏国加藤大使より  
豊田外務大臣宛(電報)

# 南部仏印進駐に関する日本側提案を仏側受諾について

別電一 昭和十六年七月二十一日発在仏国加藤大使より

り豊田外務大臣宛第三九六号

右受諾回答

二 昭和十六年七月二十一日発在仏国加藤大使より

り豊田外務大臣宛第三九七号

仏印の領土保全・主権尊重の宣言公表を求め

た仏側口上書

三 昭和十六年七月二十一日発在仏国加藤大使より

り豊田外務大臣宛第三九八号

仏印共同防衛に際しての要望に関する仏側口

上書

付記一 別電第三九六号仮訳文

二 別電第三九七号仮訳文

三 別電第三九八号仮訳文

ヴィシー 7月21日後発

本 省 7月22日前着

第三九五號(大至急、館長符號扱)

往電<sup>(1)</sup>第三八九號ニ關シ

二十一日午前求メニ依リ「ダルラン」ニ面會シタル處「ダ」ハ佛國政府ハ日本政府ノ要求ニ應シ佛印ノ防禦ニ協力スルコトト決定セリトテ別電第三九六號ヲ讀ミタル後茲ニ日本ノ要請ニ *sinciner* スルノ外無シトノ文字ヲ使用シタルハ御推察アルヘキ通り「シリヤ」ニテハ英軍ニ抵抗シ乍ラ佛印ニテハ日本ニ進テ手ヲ延ハシタリト内外ヨリ非難サルコトニ同意シ日本ノ要求サルル所ニ異議ヲ稱ヘサルノ趣旨ナルニ付御承知アリ度ク又佛印ノ主権尊重ニ關シ近衛總理ノ「ペタン」元帥宛「メツセージ」ニアルカ如キ趣旨ノ聲明ヲ日本側ニ於テ至急發表サレルコトハ佛側ニ於テ特

二重要視シ居ル所ニシテ此ノ點ハ特ニ回答附屬トシ置キタ  
リトテ別電第三九七號ヲ讀ミ上ケ今一ノ重要ナル點ハ日本  
側ニ於テ現ニ佛印ニ在ル佛印軍ヲ追ヒ立テ佛軍カ使用シ居  
ル諸設備ヲ要求シ又ハ艦船ノ立退キ等ヲ要求セラレサルコ  
トナリ

佛側<sup>(2)</sup>トシテハ現地佛軍ニ對スル日本軍進駐ニ際シ抵抗セサ  
ルコトハ勿論進シテ充分協力スヘキ旨言明スヘキモ彼等ニ  
現在駐屯ノ地點ヨリ立退キヲ命スルトキハ彼等ヲ激憤セシ  
ムルニ至ルヘク其ノ結果如何ナル不祥事件トナルヤモ知レ  
サルニ付此ノ點ハ日本軍到着ニ際シ最重要ナル點ナリト思  
考ストテ別電第三九八號ヲ讀ミタルニ付

本使ハ武器等ノ供與ニ關シテハ過日申述ヘタル通り日本側  
ニ於テモ當初ヨリ其ノ積リナルカ佛軍ノ駐屯地ヨリ立退キ  
ノ件ハ現地兩軍當局間ニ於テ協議スルコト適當ナルヘク要  
ハ到着ニ際シ不祥事件ノ發生ヲ避クルニアリ御話ノ次第ハ  
政府ニ申送クルヘシト答ヘ置キタリ

尙別電第三九六號中今回ノ派兵ハ臨時的性質ノモノニシテ  
危機解消次第撤兵サルモノト了承ストノ點ニ關シテハ今  
日之ヲ問題トシテモ埒明カスト思考シタルニ付意見ヲ申述

フルコトハ差控ヘ置キタリ  
獨、伊ヘ轉電セリ

編 注 本電の分割第二電は七月二十二日夜に本省へ到着した。

(別電一)

ヴィシー 7月21日後発  
本 省 7月22日前着

第三九六號(館長符號扱)

(1) Gouvernement Français prend acte de nouvelle  
démarche effectuée 20 juillet par Ambassadeur du Japon et  
exigeant avant mardi 22 juillet à 6 heures réponse formelle  
au memorandum, remis 14 juillet.

(2) Bien qu'il comprenne nécessités qui déterminent cette  
démarche Gouvernement français doit attirer de nouveau  
instantement attention du Gouvernement Impérial sur  
gravité des conséquences qui peuvent résulter de mise en  
oeuvre du projet éqioné dans memorandum du 14 juillet.

(3) Circonstances sont cependant telles que, compte tenu

de ferme assurance donnée par Son Excellence Prince Konoye dans lettre adressée à Monsieur Maréchal Pétain 13 juillet, il ne peut que s'incliner devant exigence du Gouvernement Japonais.

(4) C'est dans cet esprit qu'en coopération avec Gouvernement Japonais, Gouvernement Français, fidèle à politique qu'il a toujours affirmée, assurera défense du territoire indochinois contre toute attaque et participera, à exclusion de toute opération offensive, aux actions défensives ayant pour objet cette sauvegarde, après accord des commandements français et japonais locaux.

(5) Il doit être d'autre part bien entendu que présence des forces japonaises sur territoire ou dans eaux de l'Union n'a qu'un caractère temporaire et que Gouvernement Impérial procédera au retrait total de ces forces dès que sera écarté danger en vue duquel elles y ont été admises.

(6) Se référant à lettre adressée par Son Excellence Prince Konoye Monsieur Maréchal, Gouvernement Français tient à souligner qu'une telle coopération

défensive n'implique aucune renonciation, ni aucune limitation des droits politiques de France sur territoires de l'Union. D'impérieuses considérations obligent Gouvernement Français à demander au Gouvernement Impérial de bien vouloir clairement manifester dans une déclaration publique, en des termes analogues à ceux qui figurent dans message de Son Excellence Prince Konoye, ferme détermination du Japon "de remolir devoirs et de porter responsabilités découlant du solennel engagement pris par lui concernant respect de intégrité territoriale de Indochine et de souveraineté de France sur cette Union".

(7) Gouvernement Français insiste sur extrême urgence de cette déclaration, indispensable dans circonstances nouvelles au maintien de ordre en Indochine et à bonne exécution des premières mesures rendues nécessaires par arrivée des forces armées japonaises.

(別電Ⅱ)

ヴィシー 7月21日後発

本省 7月22日前着

第三九七號(館長符號扱)

(1) Gouvernement Français souligne extrême importance qui il attache à déclaration publique relative au respect de intégrité de Indo-Chine et de souveraineté de France sur cette Union.

(2) Faut de cette déclaration, l'arrivée de forces étrangères sur des territoires dont il doit précisément assurer la garde ne saurait être compris et par conséquent admisé par opinion française et par troupes stationnées en Indo Chine elles—mêmes.

獨、伊ニ轉電セリ

(別電Ⅲ)

ヴィシー 7月21日後発

本省 7月22日夜着

第三九八號(館長符號扱)

(1) Gouvernement Français entendant, aux termes de sa communication en date de ce jour, participer à défense commune du territoire indo-chinois, compte que Gouvernement Impérial pourra fournir aux forces armées françaises en Indo-Chine moyens de défense supplémentaires de toute nature que conjoncture n'a pas jusqu'ici permis à France de se procurer ailleurs. Gouvernement Français serait heureux de connaître dans les plus brefs délais sentiment du Gouvernement Impérial sur suggestions qui précèdent.

(2) Dans même esprit Gouvernement Français donnera au Gouvernement général d'Indo-Chine toutes instructions pour que restent utilisées à défense tous organismes militaires actuellement en place-ouvrages de défense des côtes notamment.

獨、伊へ轉電セリ

(付記Ⅰ)

七月二十二日加藤大使來電第三九六號(佛文)假譯

(二十一日午後「ヴィシー」發二十二日午前本省着)

一、「フランス」國政府ハ七月十四日覺書ニ對スル正式回答  
方ヲ七月二十二日火曜日迄ニ要求セラルル七月二十日ノ  
日本國大使再度ノ申出ヲ受領セリ

二、「フランス」國政府ハ右御申出ノ事情ハ之ヲ諒解シ得ル  
モノナルモ七月十四日覺書記載ノ計畫ノ實行ヨリ生ズル  
重大ナル結果ニ就キ特ニ日本國政府ノ注意ヲ茲ニ再ビ喚  
起セザルヲ得ズ

三、但シ「フランス」國政府ハ緊迫セル事態ニ鑑ミ且七月十  
三日近衛公爵閣下發「ペタン」元帥宛書翰ニ依ル確固タ  
ル保障ヲ考量シ日本國政府ノ要求ニ服スルノ外ナシ

四、敍上ノ趣旨ニ於テ「フランス」國政府ハ「フランス」國  
政府ノ常ニ堅持シ來レル政策ニ從ヒ且日本國政府ノ協力  
ノ下ニ印度支那領土ニ加ヘラルル一切ノ攻撃ニ對シ之ガ  
防衛ヲ確保スベク又現地佛國軍司令部及日本國軍司令部  
間ノ合意成立後前記保全ヲ目的トスル防禦の行動ニ參加  
スベシ但シ右ハ一切ノ攻撃の作戰ヘノ參加ヲ除外ス

五、尙聯邦ノ領土又ハ領水内ニ於ケル日本軍ノ存在ハ一時的  
ニシテ日本國政府ハ右軍ノ駐屯ヲ必要トスル危險(狀態)

ノ解消次第速ニ之ガ全面的撤退ヲ行フベキコト當然ナル  
ベシ

六、「フランス」國政府ハ近衛公爵閣下ノ元帥宛書翰ニ關シ  
テハ斯ノ如キ防禦の協力ハ毫モ聯邦領土ニ對スル「フラ  
ンス」國ノ政治的の權限ノ拋棄乃至ハ制限ヲ伴フモノニ非  
サル點ヲ特ニ指摘シ度シ「フランス」國政府ハ已ムヲ得  
サル事情ニ因リ日本國政府ニ對シ「印度支那ノ領土保全  
竝印度支那聯邦ニ對スル「フランス」國主權ノ尊重ニ關  
シ日本國政府ハソノ嚴肅ニ締結セル約束ニ基ク義務ヲ履  
行シ且責任ヲ負フ」旨ノ鞏固ナル決意ヲ近衛閣下ノ「メ  
ツセイジ」ト同様ノ辭句ヲ以テ公開宣言ニ依リ闡明セラ  
レンコトヲ要請ス

七、「フランス」國政府ハ右宣言カ最モ緊急ニ爲サルヘキ必  
要アルコトヲ強調スルモノナリ但シ右宣言ハ新狀態下ニ  
於テ印度支那ノ秩序ヲ維持シ且日本軍ノ到着ニ依リ必要  
トナルベキ第一次の措置ヲ有效ニ實施スル爲絕對必要ナ  
レバナリ

(付記二)

七月廿二日加藤大使來電第三九七號(佛文)假譯

(七月廿一日午後「ヴィシー」發廿二日午前本省着)

一、「フランス」國政府ハ印度支那ノ領土保全竝印度支那聯邦ニ對スル「フランス」國主權ノ尊重ニ關スル宣言ノ公表ヲ最モ重要視スルモノナル旨指摘ス

二、右宣言ナキニ於テハ「フランス」國輿論及印度支那駐屯軍自身ハ正ニ(印度支那)領土保全確保ノ爲來レル外國軍ノ到來ヲ諒解セザルベク從而之ヲ容認セザルベシ

(付記三)

七月廿二日加藤大使來電第三九八號(佛文)假譯

一、「フランス」國政府ハ其ノ本日附通報ニ基キ印度支那領土ノ共同防衛ニ參加セントシ日本國政府ガ印度支那駐在佛國軍ニ對シ「フランス」國ガ現在迄諸般ノ事情ノ爲他國ニ仰グヲ得ザリシ各種ノ補足的防禦手段ヲ提供センコトヲ期待ス

「フランス」國政府ハ成ル可ク速ニ右提言ニ對スル日本國政府ノ意嚮ヲ承知シ度シ

二、「フランス」國政府ハ右ト同一趣旨ニ於テ印度支那總督

府ニ對シ現存ノ軍事施設―就中沿岸防禦施設―ガ引續キ防禦ノ爲ニ使用セラルル様所要ノ訓令ヲ與フベシ



767 昭和16年7月21日 在仏国加藤大使より 豊田外務大臣宛(電報)

南部仏印進駐の合意に関する書簡案を仏国副  
總理へ提示し至急了承方要求について

付記 右交換公文案仮訳

ヴィシー 7月21日後發  
本省 7月22日夜着

第三九九號(館長符號扱)

往電第三九五號ニ關シ

佛國政府今日ノ回答ニハ若干ノ希望事項附帶シ居ルモ實質的ニハ我提案ニ對スル全面的受諾ト認メラルルニ付豫メ用意シ置キタル往電第三九一號<sup>(編註)</sup>ノ書翰ヲ今朝會談ノ節「ダ」ニ手交シ右ニ對シ至急了承ノ回答ヲ送ラレタシト述ヘ又我方ニ於テハ本件合意ヲ正式外交文書ニ爲シ置キタキ意嚮ナリトテ議定書案及交換公文案ヲ手交シタル處「ダ」ハ前顯書翰ヲ閱讀ノ上佛側トシテハ日本軍ノ進駐ヲ應諾シ將來ノ

協力ヲモ約束シ居ル譯ニテ日本軍ノ上陸ニ際シテモ相當ノ儀禮ヲ以テ迎ヘタク不祥事ノ勃發防止ニ付テハ佛側ニ於テ責任ヲ以テ之ニ任スルコト勿論ナリ從テ上陸ノ際特ニ佛印軍ノ撤退ヲ要求セラルル必要ハナカルヘク右ハ土人ニ對スル關係等ニ顧ミ却テ佛印軍ノ威信ヲ損スルモノトシテ憤慨ノ餘不慮ノ事故ヲ惹起スルコトナルヘキニ付同書翰 *comme nement momentane* <sup>(l'engagement a)</sup> 以下 *forces japonaises* 迄ヲ削除アリタシト申出テタルモ本使ハ書翰ハ其ノ儘ト爲シ置キ佛側返翰ニ於テ右ノ趣旨ヲ織込マレテハ如何ト述ヘ置キタリ

獨、伊ヘ轉電セリ

編 注 往電第三九一号(仏文)は省略。右仮訳文を本文書付記

として採録。

# (付 記)

七月二十一日加藤大使來電第三九一號(佛文)假譯

(二十日午后「ヴィシー」發三十一日夜本省着)

以書翰啓上致候陳者本使ハ本國政府ノ命ニ依リ閣下ニ對シ

左記ヲ考慮セラレンコトヲ提議スルノ光榮ヲ有シ候  
「フランス」國及日本國ハ佛領印度支那共同防衛ノ爲軍事  
的ニ協力スルコトヲ約ス。

ニ、右目的ノ爲「フランス」國政府ハ日本國ニ對シ左記措置  
ヲ取ルノ權限ヲ賦與スベシ

(イ) 必要數ノ日本陸軍、海軍及空軍編隊ノ南部印度支那ヘ  
ノ派遣。

(ロ) 「シエム・レアップ」、「プノン・ペン」、「ツーラン」、  
「ニヤトラン」、「ビエンホア」、西貢、「ソクトラン」、

「コムボン・トラック」ノ八個所ノ空軍基地トシテノ  
使用、西貢及「カムラン」灣ノ海軍基地トシテノ使用。

日本軍ハ前記各地ニ於テ所要ノ裝備ヲ施スベシ。  
(ハ) 前記日本軍ハ其ノ居住、演習及訓練ノ權能ヲ賦與セラ

レ且行動ノ自由ヲ容認セラルベシ。

以上ノ外同軍ハ其ノ職務遂行上特別ノ便宜ヲ供與セラ  
ルベク右ハ西原「マルタン」協定ノ規定スル諸制限ノ  
撤廢ヲ含ムモノトス

(ニ) 「フランス」國政府ハ本年內ニ最高二千三百萬印度支  
那比弗即チ毎月四百五十萬印度支那比弗ノ限度ニ於テ



日本軍ノ必要トスル貨幣ヲ供給スベシ、但シ右ハ既存諸協定ニ基キ東京駐在日本軍ニ供給セラルベキ金額ヲ含マズ。日本國政府ハ前記貨幣ヲ「フランス」國政府ノ選擇ニ依リ自由圓又ハ米弗若ハ金ヲ以テ支拂フノ用意アリ。

三、「フランス」國政府ハ日本軍ノ入國ニ關スル一般的措置ニ同意シ、佛印軍トノ不慮ノ衝突ヲ回避スル爲佛印軍ヲ日本軍上陸地點附近ヨリ一時遠ザケル等一切ノ適當措置ヲ講ズベシ。

四、日本軍行動ノ細目ハ現地ニ於ケル日本軍及佛國軍當事者間ノ會議ニ依リ決定セラルベシ

本使ハ「フランス」國政府ガ出來得ル限り速ニ前記提案ニ同意セラレンコトヲ閣下ニ對シ特ニ懇請致候而シテ帝國政府トシテハ右同意セラルベキ了解ヲ成ル可ク速ニ正式協定ト爲シ度キ意嚮ニ有之候

右申進旁本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向ツテ敬意ヲ表シ候

敬 具

768 昭和16年7月21日 在仏國加藤大使より  
豊田外務大臣宛(電報)

### 仏印領土保全の公表形式等に関する方針回示

#### 方請訓

ヴィシー 7月21日後発  
本 省 7月22日夜着

第四〇〇號(館長符號扱)  
往電第三九五號ニ關シ

佛側カ佛印領土保全ニ關スル我方保障ノ再確認ノ公表ヲ急キ居ル理由ハ昨今佛印ニ於テ風說橫行人心不安ナルノミナラス佛印官憲ニ對シ日本軍ト協力方ヲ命令スル以上右日本側意嚮ヲ徹底ノ二理解セシムルコト必要ナリトスルニ(往電第三九二號及第三九五號參照)アル處其ノ形式時期等ニ關シテハ軍事行動ニ關スルコトニモアリ又國內ニ對スル政府公表トノ關係モアルコトト存セラルルニ付右ニ關スル御方針至急御決定ノ上御回電請フ

769 昭和16年7月22日 豊田外務大臣より  
在仏國加藤大使宛(電報)

仏印領土保全の確認など仏国行政大臣側が内  
示した希望事項への対処振り訓令

本省 7月22日発

第二九八號(至急、極祕、館長符號扱)

貴電第三九三號ニ關シ

一、佛印ノ領土保全並主權尊重ニ關シテハ我方ニ於テ保障ヲ與フル用意アリ其ノ形式ハ貴使ノ往信ニ對スル先方ノ受諾回答中ニ佛側ヨリ之ヲ要求セシメ、正式文書作成ノ際共同防衛ニ關スル議定書ノ名稱ヲ「佛領印度支那ノ領土保全及共同防衛ニ關スル、、、」ト改メ且一及二ヲ夫々二及三トシ一トシテ「日本國政府ハ佛領印度支那ノ領土保全及印度支那聯邦ニ對スル「フランス」國ノ主權ヲ尊重スヘキコトヲ聲明ス」ヲ加フルコトト致度

二、佛印軍ハ第三國ニ對スル攻撃的企圖ニハ協力シ得ストノ趣旨ヲ明ニスル點ニ付テハ先方ノ受諾回答中ニ佛側力此ノ趣旨ヲ言フコトニハ反對セス而シテ佛側力正式文書中ニ之ヲ明記センコトヲ要求スル場合ニハ我方ノ議定書原案ノ前文及第一項ニ於テ其ノ趣旨カ明瞭ニサレ居ルコトヲ指摘シテ其ノ要求ヲ押ヘラレ度ク佛側ニテ固執スル場

合ニハ議定書第一項ニ關スル祕密交換公文又ハ佛側ノ一方聲明トシテ「佛領印度支那ノ共同防衛ニ關スル議定書第一項ニヨリ豫見セラルル日佛兩國間ノ軍事上ノ協力ハ純粹ニ防禦的性質ノモノニシテ第三國ニ對スル攻撃的企圖ヲ包含セサルモノトス」トノ趣旨ヲ明ニスルカ最後案トシテハ右ノ趣旨ヲ議定書第一項ニ但書トシテ附加スルコトト致度

三、取極ノ期限ニ付テハ我方議定書案ニハ期限ノ規定ナキモ右ハ永久ノ約束ヲ取結フ趣意ニ非ス何時ニテモ兩國間ノ新ナル合意ニ依リ議定書變更ノ餘地ヲ存スル爲ナリトノ趣旨ニテ應酬セラレ度ク先方ニテ期限ヲ固執スル場合ニハ「佛領印度支那ノ共同防衛ヲ必要ナラシムル國際情勢ノ解消シタル場合ニハ兩國政府ハ本議定書ノ廢止ノ爲協議スヘシ」トノ案文ヲ以テ臨ミ度ク我方最後ノ腹ハ五年ニテ取纏メ度キ所存ナリ

~~~~~

770

昭和16年7月22日 豊田外務大臣より
在仏国加藤大使宛(電報)

南部仏印進駐に関する仏側受諾回答への措置

振り訓令

本省 7月22日午後0時40分発

第二九九號(大至急、極秘、館長符號扱)

貴電第三九二號ニ關シ

「ダ」ノ正式回答ガ冒頭貴電「ブ」ノ貴使ニ述ベタルト相違ナキ場合ニ於テハ直チニ左記ニ依リ措置セラレ結果至急回電アリ度シ

一、先方ノ申出ヲ承諾セラルルト共ニ(二)ノ聲明公表ハ速ニ日本側ニ於テ之ヲナスコト及(三)ノ佛印軍ガ攻撃的企圖ニ協力セザルノ點ハ佛側ノ希望ニ添フ如ク適當ナル形式ニテ確認スベシ(往電第二九八號參照)ト申添ヘラレ度キコト
二、貴電第三九一號文書ヲ交換スルト共ニ往電第二九三號ヲ承認セシムコト(但シ往電第二九三號ノ所要兵力量ヲ先方ガ不問ニ附スル場合ニハ四萬ノ兵數ハ明示ヲ要セズ爲念)

獨、伊ニ轉電アリ度シ

771 昭和16年7月22日

在仏国加藤大使より
豊田外務大臣宛(電報)

南部仏印進駐の合意に関する往復書簡の交換
完了について

付記一 昭和十六年七月二十一日付在仏国加藤大使より

リダラン仏国外務大臣宛公信

右合意に関するわが方往信

二 昭和十六年七月二十二日付ダラン仏国外務

大臣より在仏国加藤大使宛公信

右合意に関する仏側返信

ヴィシー 7月22日後発

本省 7月22日夜着

第四〇二號(館長符號扱)

往電第三九九號ニ關シ

二十二日午前往電第三九一號ノ公文ノ交換ヲ了セリ但シ佛側ヨリハ往電第三九六號ノ佛側回答ヲ右ウケジヨウ後段ニ記載シ且別信ヲ以テ往電第三九八號第三九七號及別電第四〇三號^(編注)ノ希望條項ヲ送付越セリ

獨、伊へ轉電セリ

編注 別電第四〇三号は本文書付記二の仏側返信中の別信丙

号と同文のため省略。

(付記一)

七月二十一日附加藤大使發「ダルラン」外相宛往信

以書翰啓上致候陳者本使ハ本國政府ノ訓令ニ依リ閣下ニ對シ左記ヲ考慮セラレンコトヲ提議スルノ光榮ヲ有シ候

一「フランス」國及日本國ハ佛領印度支那ノ共同防衛ノ爲軍事ニ協力スルコトヲ約ス

二右目的ノ爲「フランス」國政府ハ日本國ニ對シ左記措置ヲ執ルノ權限ヲ賦與スベシ

イ必要數ノ日本國軍隊、艦艇及航空部隊ノ南部印度支那ヘノ派遣

ロ「シエムレアップ」、「ブノン・ベン」、「ツーラン」、

「ニヤトラン」、「ビエンホア」、「サイゴン」、「ソクト

ラン」及「コンボン・トラック」ノ八個所ノ空軍基地

トシテノ使用竝ニ「サイゴン」及「カムラン」灣ノ海

軍基地トシテノ使用

日本軍ハ前記各地ニ於テ所要ノ施設ヲ實施スベシ

ハ前記日本軍ハ居住シ、演習シ及訓練スルノ權能ヲ賦與

セラレ且行動ノ自由ヲ容認セラルベシ同様ニ右軍ハ其ノ職務遂行上特別ノ便宜ヲ供與セラルベク右ハ西原「マルタン」協定ノ規定スル諸制限ノ撤廢ヲ含ムモノトス

ニ「フランス」國政府ハ本年ニ付二千三百萬印度支那「ピアストル」即チ毎月四百五十萬印度支那「ピアストル」ノ限度迄前記日本軍ノ必要トスル貨幣ヲ供給スベシ但シ右額ハ既存諸協定ニ基キ「トンキン」駐屯日本軍ニ供給セラルベキ貨幣ヲ含マザルモノトス日本國政府ハ前記貨幣ヲ「フランス」國政府ノ選擇ニ依リ自由圓又ハ米弗又ハ金ヲ以テ支拂フノ用意アリ

三「フランス」國政府ハ前記日本軍ノ進駐ノ大綱ヲ承認シ且佛印軍トノ不慮ノ衝突ノ發生ヲ回避スル爲佛印軍ノ日本軍上陸地點附近ヨリノ一時的隔離ノ如キ一切ノ適當ナル措置ヲ講ズベシ

四日本軍ノ行動ノ細目ハ現地ニ於ケル日本軍及佛國軍當事者間ニ協議決定セラルベシ

本使ハ「フランス」國政府ガ成ルベク速ニ前記提案ニ同意セラレンコトヲ閣下ニ對シ特ニ懇請致候而シテ到達セラル

ベキ了解ハ帝國政府ノ所見ニ依レバ成ルベク速ニ正式協定
ト爲サルベキモノニ有之候

右申進等本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

D'ordre de mon gouvernement, j'ai l'honneur de présenter à
la considération de Votre Excellence les propositions
suivantes:

1- La France et le Japon s'engagent à coopérer
militairement pour la défense en commun de l'Indochine
Française.

2- A cet effet, le Gouvernement Française accordera au
Japon la faculté de prendre les dispositions suivantes:

a) Envoi en Indochine méridionale du nombre de troupes,
d'unités navales et de formations aériennes japonaises jugé
nécessaire.

b) Utilisation, comme bases aériennes, des huit localités
suivantes:

Siemreap, Phnom-penh, Tourane, Nhatrang, Bienhoa,
Saigon, Soc Trang et Kompong-trach; comme bases navales:

de Saigon et de la baie de Camranh. Les aménagements
nécessaires y seront apportés par les forces japonaises.

c) Il sera accordé à ces forces la faculté de se loger, de faire
des manoeuvres et exercices, leur liberté de mouvements
sera reconnue.

Il leur sera également accordé des facilités particulières
pour l'accomplissement de leur tâche; ceci comprend la
suppression des restrictions prévues par l'accord
Nishihara-Martin.

d) Le Gouvernement Français fournira les devises
nécessaires à ces forces japonaises, jusqu'à concurrence de
vingt trois millions de piastres indochinoises pour l'année
en cours, soit quatre millions cinq cent mille piastres
indochinoises par mois, cette somme ne comprenant pas les
devises devant être fournies aux forces japonaises du
Tonkin selon les accords antérieurs.

Le Gouvernement Japonais est disposé à payer les devises
sus-visées, au choix du Gouvernement Français, soit en
yens transférables, soit en dollars américains, soit en or.

3- Le Gouvernement Français donnera son accord au dispositif général d'entrée de ces forces et prendre toutes les mesures utiles pour éviter la possibilité d'un conflit fortuit avec les forces indochinoises, comme l'éloignement momentané de ces dernières de la proximité des points de débarquement des forces japonaises.

4- Les détails concernant les mouvements des forces japonaises seront établis d'accord entre les autorités militaires japonaises et françaises sur place.

Je me permets d'insister vivement auprès de Votre Excellence pour que le Gouvernement Français veuille bien accorder son adhésion aux propositions ci-dessus dans le plus bref délai possible, l'entente intervenue devant, dans l'esprit de mon gouvernement, faire objet, le plus tôt possible, d'un accord formel.

Je saisis etc.

(付記1)

七月二十二日附「ダルラン」外相發加藤大使宛返信

七月二十二日ノ「ダルラン」外相ノ返信ハ前段ニ於テ前掲加藤大使ノ往信ニ對スル受狀ヲ記載シ後段ニ左記佛側ノ回答ヲ記載シタリ同時ニ同外相ハ別信ヲ以テ左記ノ甲、乙、丙ノ希望條項ヲ送付越シタリ

記

一「フランス」國政府ハ七月十四日手交セラレタル覺書ニ對スル正式回答ヲ七月二十二日火曜日午後六時迄ニ要求セラルル七月二十日ノ日本國大使再度ノ申入ヲ了承ス

二「フランス」國政府ハ右申入ヲ必要トスル事情ハ之ヲ諒解スルモ七月十四日ノ覺書記載ノ計畫ノ實施ヨリ生スベキ結果ノ重大性ニ付切ニ再ヒ日本國政府ノ注意ヲ喚起セザルヲ得ス

三然レドモ四圍ノ情勢ニ鑑ミ「フランス」國政府ハ七月十三日「ペタン」元帥ニ宛テラレタル其ノ書翰中近衛公爵閣下ニ依リ與ヘラレタル確固タル保障ヲ考慮シテ日本國政府ノ要請ヲ容ルルノ已ムナキ次第ナリ

四敍上ノ精神ニ於テ「フランス」國政府ハ其ノ常ニ堅持シ來レル政策ニ從ヒ、日本國政府ト協力シテ一切ノ攻撃ニ對シ印度支那領土ノ防衛ヲ確保シ且現地佛國軍司令部及

日本國軍司令部間ニ合意成立後前記保全ヲ目的トスル防禦的行動ニ參加スベシ但シ右ハ一切ノ攻撃的作戰ヘノ參加ヲ除外スルモノトス

五 尙聯邦ノ領土又ハ領水内ニ於ケル日本國軍ノ存在ハ一時のニシテ帝國政府ハ右軍ノ駐屯ヲ必要ナラシメタル危險ガ解消シタルトキハ直ニ之ヲ全面的ニ撤退スベキモノトス

六 近衛公爵閣下ヨリ元帥ニ宛テラレタル書翰ニ關聯シ「フランス」國政府ハ斯ノ如キ防禦的協力ガ如何ナル意味ニ於テモ聯邦領土ニ對スル「フランス」國ノ政治的權限ノ拋棄又ハ制限ヲ伴フモノニ非ザルコトヲ特ニ申述ベタシ「フランス」國政府ハ緊迫セル諸情勢ヲ考慮セル結果已ムナク帝國政府ニ對シ「印度支那ノ領土保全及印度支那聯邦ニ對スル「フランス」國ノ主權ノ尊重ニ付嚴肅ニ締結セラレタル約束ヨリ生ズル義務ヲ履行シ且其ノ責任ニ任ズル」ノ日本國ノ鞏固ナル決意ヲ近衛公爵閣下ノ「メッセイヂ」ニ在ルト同様ノ辭句ヲ以テ公ノ宣言ニ依リ闡明セラレンコトヲ要求セザルヲ得ズ

七 「フランス」國政府ハ右宣言ガ極メテ緊急必要ナルコト

ヲ強調ス右宣言ハ新情勢下ニ於テ印度支那ノ秩序ヲ維持シ且日本國軍隊ノ到着ニ依リ必要ト爲レル第一次的措置ノ實施ニ善處スル爲絶對必要ナリ

(甲號)

「フランス」國政府ハ本日附通報ノ通印度支那領土ノ共同防禦ニ參加スル意嚮ナルニ依リ帝國政府ニ於テ諸般ノ事情上「フランス」國ガ從來他國ヨリ其ノ供給ヲ受ケ得ザリシ一切ノ補助的防禦手段ヲ印度支那ニ於ケル「フランス」國軍ニ供給セラレンコトヲ期待ス「フランス」國政府ハ成ルベク速ニ右提案ニ對スル帝國政府ノ意嚮ヲ承知シ度シ

「フランス」國政府ハ前項同様ノ精神ヲ以テ印度支那總督府ニ對シ一切ノ現在軍事施設(就中沿岸防禦施設)ガ引續キ防禦用トシテ使用セラルル様所要ノ訓令ヲ發スベシ

(乙號)

「フランス」國政府ハ印度支那ノ領土保全及印度支那聯邦ニ對スル「フランス」國ノ主權ノ尊重ニ關スル公ノ宣

言ヲ極メテ重要視スルモノナルコトヲ指摘ス
右宣言ナキニ於テハ「フランス」國輿論及印度支那駐屯
軍自身ハ「フランス」國政府ガ正ニ其ノ守備ヲ確保スベ
キ領土ニ外國軍ガ入り來ルコトヲ諒解セザルベク從テ之
ヲ容認セザルベシ

(丙號)

七月二十一日附日本國大使閣下ノ書翰ニ記載セラレアル
日本國提案中ノ技術的措置ニ關シテハ日本國政府ハ恐ラ
ク「フランス」國政府ト同様之ガ調整ハ特ニ第三項末段
ニ於テ述ベラレタル「日本國軍ノ上陸地點附近ヨリノ印
度支那軍ノ一時的隔離」ニ付テノ提言ニ關シテハ權限ア
ル官憲間ノ審議ノ對象ト爲ルベキモノト思料セラルルナ
ルベシ

(1) Le Gouvernement Français prend acte de la nouvelle
démarche effectuée le 20 juillet par l'Ambassadeur du
Japon et exigeant avant le mardi 22 juillet à 6 heures la
reponse formelle au memorandum remis le 14 juillet.

(2) Bien qu'il comprenne les nécessités qui déterminent
cette démarche, le Gouvernement Français doit attirer de
nouveau instamment l'attention du Gouvernement
Impérial sur la gravité des conséquences qui peuvent
résulter de la mise en oeuvre du projet énoncé dans le
memorandum du 14 juillet.

(3) Les circonstances sont cependant telles que, compte
tenu de la ferme assurance donnée par Son Excellence le
Prince Konoye dans sa lettre adressée à Monsieur le
Maréchal Pétain le 13 juillet, il ne peut que s'incliner devant
l'exigence du Gouvernement Japonais.

(4) C'est dans cet esprit qu'en coopération avec le
Gouvernement Japonais, le Gouvernement Français, fidèle
à la politique qu'il a toujours affirmée, assurera la défense
du territoire indochinois contre toute attaque et
participera à l'exclusion de toute opération offensive, aux
actions défensives ayant pour objet cette sauvegarde, après
l'accord des commandements français et japonais locaux.

(5) Il doit être d'autre part bien entendu que la présence

des forces japonaises sur le territoire ou dans les eaux de l'Union n'a qu'un caractère temporaire et que le Gouvernement Impérial procédera au retrait total de ces forces dès que sera écarté le danger en vue duquel elles y ont été admises.

(6) Se référant à la lettre adressée par Son Excellence le Prince Konoye à Monsieur le Maréchal, le Gouvernement Français tient à souligner qu'une telle coopération défensive n'implique aucune renonciation, ni aucune limitation des droits politiques de la France sur les territoires de l'Union. D'impérieuses considérations obligent le Gouvernement Français à demander au Gouvernement Impérial de bien vouloir clairement manifester dans une déclaration publique, en des termes analogues à ceux qui figurent dans le message de Son Excellence le Prince Konoye, la ferme détermination du Japon "de remplir les devoirs et de porter les responsabilités découlant du solennel engagement pris par lui concernant le respect de l'intégrité territoriale de

l'Indochine et de la souveraineté de la France sur cette Union".

(7) Le Gouvernement Français insiste sur l'extrême urgence de cette déclaration, indispensable dans les circonstances nouvelles au maintien de l'ordre en Indochine et à la bonne exécution des premières mesures rendues nécessaires par l'arrivée des forces armées japonaises.

(田端)

(1) Le Gouvernement Français entendait, aux termes de sa communication en date de ce jour, participer à la défense commune du territoire indochinois, compte que le Gouvernement Impérial pourra fournir aux forces armées françaises en Indochine les moyens de défense supplémentaires de toute nature que la conjoncture n'a pas jusqu'ici permis à la France de se procurer ailleurs. Le Gouvernement Français serait heureux de connaître dans les plus brefs délais le sentiment du Gouvernement Impérial sur les suggestions qui précèdent.

(2) Dans le même esprit le Gouvernement Français donnera au Gouvernement Général d'Indochine toutes instructions pour que restent utilisés à la défense tous organismes militaires actuellement en place, — ouvrages de défense des côtes notamment.

(ニ號)

(1) Le Gouvernement Français souligne l'extrême importance qu'il attache à la déclaration publique relative au respect de l'intégrité de l'Indochine et de la souveraineté de la France sur cette Union.

(2) Faute de cette déclaration, l'arrivée de forces étrangères sur des territoires dont il doit précisément assurer la garde ne saurait être comprise et par conséquent admise par l'opinion française et par les troupes stationnées en Indochine elles-mêmes.

(丙號)

Pour ce qui est des dispositions de caractère

technique figurant dans les propositions japonaises énoncées dans la lettre du 21 juillet de Son Excellence l'Ambassadeur du Japon. le Gouvernement Japonais estimera sans doute, comme le Gouvernement Français, que leur mise au point doit donner lieu à un examen entre les autorités compétentes, plus particulièrement en ce qui concerne la suggestion émise dans l'article 3 in fine, relative à "l'éloignement momentané des forces indochinoises de la proximité des points de débarquement des forces japonaises".

~~~~~

772 昭和16年7月22日

在仏国加藤大使より  
豊田外務大臣宛(電報)

南部仏印進駐に関し現地軍へ必要命令を發出  
するよう仏側へ申入れについて

ヴィシー 7月22日後発  
本省 7月23日夜着

第四〇六號(至急、館長符號扱)

往電第四〇二號ニ關シ

公文ノ交換ヲ了シタルヲ以テ二十日午後原田ヲシテ(陸海軍武官帶同)「ロシアン」次官(佛側陸海軍將官同席)ヲ往訪セシメ貴電第二九三號軍進駐ニ關スル我方手筈ヲ申入レセシムルト共ニ現地佛印軍ニ對シ必要ナル命令ヲ發出スル様及右ニ關スル兩國現地軍憲問ニ於テ直ニ交渉ヲ開始スル様致度キ旨申入レシメタル處佛側右ヲ諒承シタルニ付右現地帝國關係機關ヘ通報方至急御取計請フ  
尙兵力ニ關シテハ佛側不問ニ付内示セサリシ趣ナリ  
獨、伊ヘ轉電セリ

773

昭和16年7月22日

在仏国加藤大使より  
豊田外務大臣宛(電報)

南部仏印進駐の実施に当たっては仏側感情に  
十分の理解を示すよう配慮方意見具申

ヴィシー 7月22日後発

本省 7月23日夜着

第四〇九號(至急、館長符號扱)

<sup>(1)</sup>佛側カ今回ノ日本提案ヲ應諾スルニ至リタルハ我方ノ確乎タル決意ト軍事行動ノ急速發動トヲ見越シ已ムナク屈服シ

タルモノニシテ佛側トシテハ「シリヤ」問題ノ苦キ最近ノ體驗モアリ日本側ニ於テ佛印領土ノ保全ヲ保障シ居ルヲ頼ミトシ日佛合意ノ形式ニテ日本軍ノ進駐ニ應スルコトニ決シタルモノニシテ決シテ欣然我方ノ申出ニ贊同シタルモノニアラサルコトハ申ス迄モナキ次第ナルカ我方トシテハ此ノ間ニ於ケル佛側感情ノ機微ニ付相當ノ理解ヲ以テ臨メハ佛ハ何處迄モ追隨スヘシト云フカ如キ態度ヲ執ルコトハ佛國國民感情ノ上ニ扞ヒ難キ怨嗟ノ種ヲ遺スコトトナリ皇國百年ノ計ノ爲採ラサル所ナリ

今回ノ交渉中「ダルラン」ハ佛側ニ於テ日本軍ノ進駐ヲ認ムル場合ニ於テ日本側カ佛印ノ行政ニ迄干渉スルカ如キコト絶對ニナカルヘキヲ期待スト強ク駄目ヲ押シタルコトアリ「ダ」ハ又日本軍ノ駐屯ニ際シ兵營等如何カセラルル意嚮ナリヤ萬一佛國軍隊ノ立退ヲ要求シ又ハ個人財産ノ徵發ヲ要求サルルカ如キコトアランカ南部佛印ニ於ケル佛人ノ對日惡感情ヲ激發シ憂慮スヘキ事態トナルヤモ計リ難シト述ヘタルコトアリ

<sup>(2)</sup>我方トシテハ今次交渉ニ於テ實質的ニ我カ要求ヲ貫徹セル次第二モアリ出來得ル限り佛側ノ面目ヲ尊重スルト共ニ東

亞ニ於テハ日本ト協力以外ニ途ナキコトヲ諦メ居ル佛側ハ現在ノ氣持ヲ誘導シ佛ヲシテ進ンテ我政策ニ同調セシムル様仕向クルコト肝要ナリト存ス

今次派兵ハ日佛兩軍カ共同目的ノ爲協力スルコトヲ建前ト爲シ居ルコトニモ鑑ミ日佛ノ友好關係ヲ高調シテ佛國ヲ我方ニ引着クル爲ニハ絶好ノ機會ト認メラルル處佛本國ニ於ケル獨占領軍ノ態度ハ客年往電第七六二號報告ノ通り極メテ嚴正ニシテ禮儀正シク佛人ノ感歎ヲ招キ居ル際佛印ニ駐屯スル日本軍ノ態度ハ本國ニ於ケル獨逸軍ノ夫ニ比較シテ佛人ノ目ニ映スヘキニ付今回佛印ノ心臟部タル南部佛印ニ派遣セラルル我方軍隊ハ特ニ軍規嚴正ニシテ且友誼的ナルコトヲ佛側ニ印象付ケルコト緊要ナリト認ム

就テハ進發命令發出ニ際シテモ右ノ趣旨カ充分徹底スル様致度又今後現地軍民ニ於テモ其ノ行動ニ細心ノ注意ヲ拂ヒ苟シクモ東亞ノ盟主タル帝國ノ威信ヲ傷ツケサルコト絶對肝要ト存セラル  
獨、伊へ轉電セリ

774

昭和16年7月22日

在独国大島大使より  
豊田外務大臣宛(電報)

南部仏印進駐に関する対日回答の内容を仏国  
が対独通報した旨独国外相より通報について

ベルリン 7月22日後発

本 省 7月24日前着

第九三九號(館長符號扱)

往電第九三三號ニ關シ

二十二日午前「スターマー」加瀬ノ來訪ヲ求メ御申越ノ次  
第二十一日午後「リ」外相ニ傳ヘタル處本日午前一時外相  
ヨリ次ノ點ヲ至急大島大使へ傳達セヨト申越シタリトテ在  
巴里大使「アベッツ」ヨリノ電報ニ依レハ二十一日正午  
「メシアン」「ダルラン」ノ命ニ依ル趣ヲ以テ同大使ニ「ノ  
ートブエルバル」ヲ手交シタルカ右ハ去ル十四日ノ日本  
側要求ノ内容近衛首相ヨリ「ペタン」元帥ニ宛テ「メツセ  
ージ」及「ヴィシー」ニ於ケル日佛話合ノ模様ヲ説明シタ  
ル上佛政府ハ日本ノ要求ヲ容レサルヲ得サルコトトナレル  
カ佛政府ハ右ニ關聯シ日本政府ニ對シ

(一)此ノ際佛印ノ領土保全ニ關スル聲明ヲ公表アリタキコト

(二)佛印北部ニ於テ日本軍ノ駐屯地點以外ノ要地ハ支那側ノ

侵犯ニ備フル爲佛印軍隊ヲ以テ守備スルコト

(三)日本軍ノ南部進駐ハ一時的タルコト

(四)佛印軍ハ防禦ノ爲ニノミ日本軍ト協力スルコト

(五)日本軍進駐ノ細目ハ双方軍憲ノ間ニ打合スルコト

ノ五點ヲ要請シタリト述ヘ居ルモノナリト語レリ

其ノ際「スターマー」ハ外相ノ命ニ依リ此ノ報道ヲ御傳ヘ

シ得ルヲ喜フト言ヒ尤モ個人的印象トシテ前記佛側要望ノ

五點ハ困難ナカルヘク殊ニ(一)ノ聲明公表ハ佛國ノ體面ヲ立

テテヤラルル上ニ宜敷カラント申シ居タル趣ナリ

佛ヘ轉電セリ



775 昭和16年7月23日 在ハノイ林総領事より  
豊田外務大臣宛(電報)

### 南部仏印進駐に関する澄田機關の細目協議開

#### 始について

付記一 昭和十六年七月六日付

「陸軍少將澄田曄四郎ニ與フル訓令」

二 昭和十六年七月二十二日着澄田(曄四郎)機關

長發信電報

細目協議に向けた仏印總督との意見交換

ハノイ 7月23日前発

本省 7月23日後着

#### 第二六四號

二十三日午前七時ヨリ今般ノ皇軍進駐ニ關シ澄田機關ハ細

目交渉ヲ開始ス

西貢ヘ轉電セリ

#### (付記一)

陸軍少將澄田曄四郎ニ與フル訓令

#### 訓令

一、帝國ハ日佛印間軍事的結合關係設定ノ爲一部兵力ヲ佛印

ノ要地ニ進駐セシムル爲外交交渉ヲ開始スルニ決定セリ

二、前號外交交渉成立シ平和進駐スル場合ノ進駐要領ハ別冊

第一ノ如シ

三、平和進駐ノ場合貴官ハ別冊第一及別ニ指示スル所(東京

ニ於ケル對佛外交接衝ノ腹案ハ別冊第二ノ如シ)ニ基キ

進駐實施ニ伴フ細項ニ關シ佛印當局ト交渉スベシ

我豫定進駐期日ハ右交渉ノ進捗如何ニ依リテ延期スルコトナシ

本交渉開始ノ時期ハ東京ニ於ケル外交交渉妥結直後トシ別ニ指示ス

四、第三號ニヨル外交交渉成立セズシテ武力行使ヲ決意シテ進駐スル場合進駐部隊ノ三亞出港後佛側ガ我が要求ヲ應諾セル時ハ貴官ハ『對佛印作戰ニ關スル陸海軍中央協定別冊武力行使ノ時機決定要領』（別冊第三）ニ基キ佛印當局ト交渉スベシ

前記ニ基ク佛印側ノ措置ハ第二十五軍司令官及第二遣支艦隊司令長官ニ對シ成ルベク速カニ通報スベシ

五、何レノ場合ニ於テモ佛印軍ヲシテ日本軍トノ衝突回避ノ爲適宜ノ措置ヲ講ゼシムル如ク努ムベシ

六、細項ニ關シテハ別ニ指示ス

昭和十六年七月六日

軍令部總長 永野 修身

參謀總長 杉山 元

陸軍少將 澄田 曄四郎殿

別冊第一、  
（編注）

對佛印平和進駐ニ關スル陸海軍中央協定

別冊第二、（別添）

南部佛印二軍隊駐屯ノ爲外交ト統帥トノ連繫ニ關スル覺

別冊第三、

對佛印作戰ニ關スル陸海軍中央協定別冊

武力行使ノ時機決定要領

（別 添）

別冊第二

南部佛印二軍隊駐屯ノ爲外交ト統帥トノ

連繫ニ關スル説明事項（案）

昭和十六年七月三日

大本營陸軍部

大本營海軍部

今次佛印ヘノ軍隊派遣ハ爲シ得ル限り平和的ニ行フ如ク努ムルモ彼ノ遷延策ニ乗セラレサルヲ絕對ノ要件トシ派遣部隊三亞集結待機期間（概ネ七月十八日集結シ爾後最大限六日間待機シ得ルモノトシ從テ三亞出港ハ遅クモ七月二十四

日以前トス尙其ノ日時ハ行事ノ進捗ニ伴ヒ追テ確報スノ  
終期迄ニ左記要求ヲ受諾セシムル如ク外交交渉ヲ進メラレ  
度換言セハ派遣部隊ノ三亞出發迄ニ外交交渉ヲ一段落セシ  
メ平和進駐ナルヤ實力進駐ナルヤ決定セラレ得ル様外交交  
渉ヲ進メラレ度

而シテ實力進駐ト決定シ派遣部隊三亞出港セル以後ハ我方  
ヨリ求メテ外交交渉ヲ行フコトナク統帥部トシテハ三亞出  
港後ニ於テ若シ佛側ヨリ受諾シ來レル場合ハ洋上ノ現地軍  
ニ對スル通信連絡所要時間ヲ顧慮シナシ得ル限り武力衝突  
ヲ避クル如ク現地軍ヲ指導スル所存ナリ

## 左 記

一、派遣兵力ハ約四萬竝ニ艦艇若干及所要航空部隊トス

二、左記航空海運基地ノ使用竝ニ之ニ伴フ諸施設ノ設定ヲ認  
ム

航空基地ハ「シエムレア」「プノムペン」「ツーラン」

「ナトラン」「ビエンホア」「サイゴン」「ソクトラン」

「コンボントラツシユ」ノ八個トシ海運基地ハ「サイゴ

ン」「カムラン」灣トス

三、駐屯軍隊ノ演習居住及行動ノ自由ヲ認メ且之ニ對スル特

別ノ便宜ヲ供與セシム

(西原「マルタン」協定中駐屯軍隊ノ居住行動ノ制限ニ  
關スル事項全部ノ撤廢ヲ含ム)

四、派遣部隊行動ノ大綱(別紙第一)ハ外交交渉ニ依リ三亞進  
發期日マテニ應諾セシム但シ本件ハ交渉ノ終期ニ佛側ニ  
通告スルニ努ムルコト

五、派遣部隊行動ノ細部ニ關シテハ佛側應諾後直ニ現地大本  
營機關ト佛印側トノ間ニ協議ヲ開始セシム

六、前項第四、第五項ノ爲我力豫定ノ行動期日ヲ延期スルコ  
ト無シ

七、佛印軍ヲシテ日本軍ト衝突セサル如ク別紙第一ノ上陸地  
附近守備兵及部隊ヲ撤去スル等適宜ノ措置ヲ講シ七月二  
十三日迄ニ現地大本營機關ニ通告セシムルコト

八、派遣後ノ兵力配置ハ主力ヲ西貢附近、一部ヲ夫々「ナト  
ラン」「プノムペン」附近ニ配置シ航空海運基地ニハ各  
當該關係部隊艦船及所要ノ警備部隊ヲ配置ス

九、派遣部隊上陸地附近ニ至ルモ第五項ノ細目協定終了シア  
ラサル時ハ先ツ上陸後細目ノ協定ヲ行フ

十、派遣部隊使用通貨提供其ノ他ニ關スル件(別紙第二)ヲ認

メシム

二、前第一項乃至第十項ノ要求ニ對シ七月二十三日迄ニ應  
諾セサル時ハ日本軍隊ハ武力行使ヲ決意シテ自由行動ヲ  
執ルヘシ

(終)

別紙第一

派遣部隊行動ノ大綱

陸軍部隊ノ一部及海軍艦艇陸海軍航空部隊ノ各一部ヲ西貢  
及「ナトラン」ニ入ラシメ且陸軍部隊ノ一部ヲ「サンジヤ  
ック」附近ニ上陸セシメテ又陸海軍航空部隊ヲ以テ佛印航  
空基地ヲ監視シ其ノ警戒リニ陸軍部隊主力ハ直接西貢及  
「ナトラン」ニ上陸シテ駐屯豫定地ニ至ル

別紙第二

佛印派遣軍使用貨幣ニ關スル件

佛印派遣軍力派遣地ニテ所要スル貨幣ハ左記要領ニヨリ取  
得スルモノトス

左記

一、派遣期間ヲ通シ軍カ所要トスル「ピアストル」貨ハ佛印  
當局ニ於テ之ヲ供給スルコトヲ確約セシムルコト、之カ  
具体的方法ハ別途協議スルコト

二、取不敢本年十二月末日迄ノ所要分ニ就テハ左記ニヨルコ  
ト

イ所要金額二千三百萬「ピアストル」

毎月ノ所要額ハ概ネ四百五十萬「ピアストル」トス

現在既ニ先方ノ供給方ヲ約シ居レル月額百萬「ピアス  
トル」ハ右金額ニ含マサルモノトス

ロ取得ノ方法

(1)自由圓(何時ニテモ先方ノ要求ニヨリ金又ハ先方ノ

希望スル外貨ニ轉換セラルル圓)ヲ對價トスル方法

ニヨルコト

(2)又ハ直接米弗又ハ金ト交換スル方法ニヨルコト

備考

前記三、ノイノ所要金額ノ内譯ハ陸軍二千萬「ピアスト  
ル」、海軍三百萬「ピアストル」トス

編注 別冊第一および別冊第三は見当らない。



昭和一六、七、二二着

## 電報寫

澄田機關長

東京ニ於ケル現地工作ヲ開始スル時期ニ關シ諒解アリ總督<sup>トシキ</sup>ノ河内歸還ヲ待チ本二十一日午後之ト會見十六日加藤大使ノ「ビシー」ニテ説明セル改修の事項ノ範圍内ニ於テ種々日本ノ意圖ヲ説明スルト共ニ我要求受諾ヲ有利トスベキヲ説キ而モ「ビシー」ガ受諾セザル場合其通知ヲ受ケタル後ニハ現地工作ノ時日極メテ短カキ關係上豫メ此場合ニ應ズル對策トシテ「本官ハ軍人ナルヲ以テ率直且單のニ申シ上グルコトヲ許サレ度ト前提シ本國敗戰シ世界ノ情勢混沌タル此時局ニ於テ極東ニ隔離セル佛印ニ佛領ノ二字ヲ冠スルヲ得バ假令一時的ニハ「ビシー」ノ意志ニ反スルモ佛印指導者ノ至大ノ功績ト云フヲ得ベク爲之ニハ多大ノ犠牲ヲ拂フモ日本ノ要求ヲ受諾シ之ト徹底の協調關係ニ入ル外無ク本官ニシテ若シ貴官ノ立場ニアラバ「ビシー」ガ受諾セザル場合自己ノ責任ヲ以テ獨斷日本ノ要求ヲ受諾シ以テ戰禍

ヲ避ケ且佛印ノ領土ヲ保持シ主權ヲ維持スルノ策ヲ執ルナラン」云々ト述べ尙「ビシー」ノ應諾回答時期遷延ノ場合ニハ日本軍ノ進駐迄二時日ノ余裕逐次減少スルヲ以テ不慮ノ衝突ヲ惹起スル公算アルベク豫メ警告スル旨附加スルト共ニ本件内容ヲ絕對英米側ニ洩サザルヲ要求シ置ケリ右ニ關シ總督ハ「ビシー」ノ對日回答全文ハ恐ラク今夜中ニ到着スベシ其際ハ直チニ通報スベキモ日本提案ノ原則ハ之ヲ受諾スルコト確實ナルヲ以テ不祥事ヲ避クル爲成ルベク速カニ細部協定ニ入り度キ旨述べタルモ小官ハ正式受諾無キ限リ細部ニ立入ル權利ヲ有セズト應酬シタルニ總督ハ原則ヲ受諾シ一種ノ同盟關係ニ入ル以上佛軍ノ名譽ヲ毀損スルガ如キ條件ナラザルヲ希望スルト共ニ物資其他ノ供給ヲ受ケ度旨ヲ繰返シ且英米ニハ内容ヲ漏スガ如キコトハ絕對無キヲ信ゼラレ度ト附言セリ

終

編 注 本電報は受信者が記されていない。

776

昭和16年7月23日

在ハノイ林総領事より  
豊田外務大臣宛(電報)

南部仏印進駐に関する現地協定調印について

ハノイ 7月23日後発

本省 7月24日前着

第二六八號(至急、館長符號扱)

二十三日午後八時澄田少將、總督閣ニ皇軍南部佛印進駐ニ  
關スル協定ノ調印ヲ見タリ  
西貢ヘ轉電セリ



777

昭和16年7月23日

豊田外務大臣より  
在シンガポール鶴見(憲)総領事、在バ  
タビア石沢総領事宛(電報)

南部仏印進駐に関する宣伝方針について

本省 7月23日後9時10分発

合第一五八八號(外機密)

貴官ハ今次佛印進駐ニ關聯シ軍出先トモ協調ノ上貴地方實  
情ニ適スル方法ヲ以テ左記方針ニ基キ宣傳ヲ開始セラレ度  
尙本件ハ軍側トモ打合濟ナリ  
一、本方針ハ進駐ニ關スル帝國政府聲明發表ト同時ニ發動ス  
ニ、本宣傳ノ目的ハ佛印ニ於ケル經濟及行政機構ニ對シ過激

ナル「シヨツク」ヲ與ヘス同時ニ電撃行動ヲ容易ナラシ  
メンカ爲積極的ニ佛印側ヲ我ニ協力セシメ且他ノ南方諸  
地域就中「タイ」ノ對日依頼心ヲ助長スルニアリ

三、佛印及「タイ」國ヲ本宣傳ノ主要目標トスルモ英、米、  
重慶、蘭ノ對日惡宣傳ハ之ニ依リ愈々活躍化スヘキヲ以  
テ本宣傳ハ全世界ヲ對象トシテ展開スヘキモノトス又馬  
來、緬甸、印度、濠洲、蘭印等ニ於テハ現地宣傳不可能  
ナルヘキヲ覺悟シ右諸地方ニ對スル「タイ」、佛印ヨリ  
ノ宣傳ヲ強化シ特ニ濠洲ニ對シテハ英國ヨリノ獨立心助  
長、又蘭印ニ對シテハ石油資源ノ確保ノ爲謀略宣傳ヲ強  
化セ<sup>(ス)</sup>

四、一般宣傳ハ進駐ニ關スル政府聲明等ノ趣旨ヲ基調トシ運  
命共同體ノ理念ヲ骨子トシテ東亞ノ防衛、英米金權主義  
打破、被壓迫民族解放論等ヲ鼓吹スヘキモ特殊ノ事態ニ  
立至ラサル限り土人ノ獨立蜂起ヲ促ス如キ宣傳乃至報道  
ヲ戒シム

五、支那ニ對シテハ今次進駐ニ依リ大東亞共榮圈態勢整ヒタ  
ルニヨリ爾後支那事變處理ニ全力ヲ擧ケ邁進スヘキコト  
等ヲ強調以テ重慶側壓迫汪政權鞭撻ニ資シ且又南洋土人

及華僑ノ對日依存氣運ヲ助長ス

六、英米蘭及重慶等ノ敵性國家ノナス日獨離間又ハ帝國ノ國  
際不信ニ關スル謀略宣傳ニ對シテハ大東亞自衛權ノ發動  
ヲ高調、彼等ノ對日包圍攻勢陣ヲ糾彈ソノ惡性宣傳ヲ假  
藉ナク駁撃ス但シ今後引續キ本邦カ南方強力進出或ハ軍  
事的ニ「タイ」國トノ結合ヲ策シ居ルヤノ印象ヲ與ヘサ  
ル様留意ス

七、米國ニ對シテハ我肇國ノ本義ニ基ク世界新秩序建設ノ理  
想ヲ強調シ米國ノ唱フル外交上ノ主義乃至政策カ眞ノ世  
界平和建設ニハ毫末モ貢獻シ得サルコトヲ指摘シ又中南  
米ニ對シテハ民族主義ヲ強調以テ北米ヨリノ離反促進ヲ  
策ス

八、蘇聯ニ對シテハ帝國政策ハ專ラ南方ヲ指向シ居ルカ如ク  
宣傳ス

追而本件ニ關聯シ東京ヨリノ海外放送等ニ使用シ得ル材料  
アラハ適宜電報アリ度シ



778

昭和16年7月23日

豊田外務大臣より  
在仏国加藤大使宛(電報)

### 南部仏印進駐に関する仏側希望事項への措置 振り訓令

本省 7月23日午後11時55分発

第三〇四號(大至急、極秘、館長符號扱)

貴電第三九九號乃至第四〇二號ニ關シ

(一)佛印軍ノ一時的撤退ノ件ハ佛政府ノ言ヲ信賴シ武力衝突  
等不祥事件發生ハ之ヲ回避シ得ルモノト認メ佛側ノ希望  
通り削除セラレ差支ナシ

唯特定ノ場合又ハ場所ニ於テハ或ハ例外的ニ佛印軍ノ一  
時的撤退ヲ要求スルノ必要生ズルヤモ計リ難キニ付キ斯  
ル場合ハ現地兩軍當局間ニ於テ協議セシムルコトト致度  
(二)佛印ノ領土保全及主權ノ尊重ニ關スル聲明ノ件ハ一應廿  
六日正午(日本時間)ト予定シ居ルニ付佛側ニテモ發表ノ  
場合ハ可成同時刻ト致度尙獨伊及英米ニ對シテハ右聲明  
ノ趣旨ヲ事前ニ内報ノ意嚮ナリ御含意迄聲明追電ス(追而  
往電第二九八號第一項ハ一應沙汰止ミト諒解セラレタ  
シ)

(三)佛印軍ノ協力ノ範圍ガ防禦ノ場合ニ限ル事ヲ明ニスルノ  
點ハ往電第二九八號第二項ノ通り

(四) 佛印軍ノ補助的防禦手段供給方ノ件ハ出來ル丈佛側希望  
ニ副ヒ度キ意向ナリ

貴使ハ以上ニ依リ速カニ其ノ後ノ交渉ヲ遂ゲラレ度當方ニ  
於テハ既ニ貴地ニ於ケル交渉ハ妥結セルモノト認メテ諸般  
ノ國內手續ヲ進ムルト共ニ現地大本營機關ニ對シテハ細目  
ノ交渉開始方統帥部ヨリ命令ズミ  
獨、伊ニ轉電アリ度

~~~~~

779

昭和16年7月23日 在仏国加藤大使より
豊田外務大臣宛(電報)

仏印共同防衛に関する議定書のわが方第二次
案を仏側へ提議について

別電一 昭和十六年七月二十三日発在仏国加藤大使よ

り豊田外務大臣宛第四一一号

右第二次案

二 昭和十六年七月二十三日発在仏国加藤大使よ

り豊田外務大臣宛第四一二号

右案につき仏側が固執した諸点

第四一〇號(大至急、館長符號扱)

往電第三九九號ニ關シ

佛側ハ我方提示ノ議定書案ニ對シ相當内容ヲ變更セル對案
ヲ提出シ來リタルニ付貴電第二九八號ノ御趣旨ヲ取入レタ
ル別電第四一一號我方議定書第二案ヲ基礎トシ館員ヲシテ
佛係官ト協議セシメタル處佛側ニ於テ特ニ固執シタル諸點
別電第四一二號ノ如キニ付右ニ關シ何分ノ儀折返シ御回電
相成度シ

尙我方第二案作成ニ際シ考慮セル諸點竝ニ協議ノ際議論ニ
出テタル諸點別電第四一四號^(省略)ノ通りナリ御參考迄

(別電一)

第四一一號(館長符號扱)

PROTOCOLE

ENTRE L'EMPIRE DU JAPON ET L'ETAT FRANÇAIS

ヴィシー 7月23日後発
本省 7月24日後着

ヴィシー 7月23日後発
本省 7月24日前着

CONCERNANT LE MAINTIEN DE L'INTÉGRITÉ
TERRITORIALE ET LA DÉFENSE EN COMMUN DE
L'INDO-CHINE FRANÇAISE.

Le Gouvernement Français et le Gouvernement
Impérial du Japon,

Prenant en considération la situation internationale
actuelle;

Reconnaissant que, dans le cas ou la sécurité de
l'Indo-Chine à estimer que la tranquillité général française
serait menacée, le Japon serait fondé en Asie orientale et sa
propre sécurité se trouveraient en danger;

Renouvelant à cette occasion les engagements pris,
d'une part, par le Japon, concernant le respect de l'intégrité
territoriale de l'Indo-Chine française et de la souveraineté
de la France sur cette Union, de l'autre, par la France, de ne
contracter au sujet de l'Indo-Chine aucun accord au entente
prévoyant une coopération politique, économique ou
militaire de nature à l'opposer directement ou
indirectement au Japon;

Sont convenus des dispositions suivantes:

1°) Les deux Gouvernements s'engagent à coopérer
militairement pour la défense en commun de l'Indo-Chine
française.

2°) Les mesures à prendre pour cette coopération
feront l'objet d'arrangements spéciaux.

En foi de quoi, les soussignes, dument autorisés par
leurs Gouvernements respectifs, ont signé le présent
protocole qui entre en vigueur ce jour même, et y ont
apposé leurs cachets.

Fait en double exemplaire, en langues française et
japonaise, à Vichy, le juillet 1941. Correspondant au jour du
7 ème mois de la 16 ème année de Syowa.

(別電1)

サイシー 7月23日後発
本省 7月24日後着

第四一二號(大至急、館長符號扱)

一、議定書前文中 Souveraineté de la France sur cette Union

トアルニ對シ佛側ハ南部佛印ニ於ケル佛國ノ政治的地位ハ複雑ニシテ主權ノミナラス保護權モアルニ付Souverainetéノ次ニ(droit de Souveraineté de protection et autres droits politiques)ト附加シタシト述ヘタルニ付我方ヨリ本項字句ハ五月六日附保障條約ノ字句ヲ其ノ儘使用シタルモノニ付説明ヲ附加スル要ナシト主張シタルモ佛側ハ上述ノ説明ハ主權ノ意義ヲ明白ニスル爲必要ニ付若シ右加入不適當ナラハ別ノ書翰ニ明白ニセラレタシト申出テタリ(別電第四一五號御參照)

二、⁽²⁾又佛側ハ期限ノ點ヲ固執セルニ付我方ヨリ貴電第二九八號ノ趣旨ヲ挿入スルコトヲ提議シタルニ對シ佛側ハ單ニ協議條項ノミナラハ存在ノ理由ナシト同意セス本文三トシテ左ノ項ノ挿入ヲ申出テタリ

les dispositions ci-dessus ne resteront en vigueur qu'autant que les circonstances ayant motivé leur adoption subsisteront.

佛側カ本項ニ「ネガテイーブ」ノ形式ヲ採ルコトヲ望ムハ實質ニ於テ「アフエマテーブ」ト何等異ナル所ナキモ三ノ撤兵ニ關スル明記ナキ場合輿論ニ幾分ノ安心ヲ與フ

ル爲必要ナリト説明セリ

三、又佛側ハ前項ニ關聯シスル事態トナリタル場合ヲ豫想シ日本軍撤退條項挿入ヲ強ク要求シタルモ我方トシテハ右ハ統帥事項ニ屬スルヲ以テ議定書記入ハ絶對不可能ナル旨ヲ述ヘ押問答ノ末先方ヨリ一案トシテ往電第三九六號「ダルラン」書翰中撤兵ヲ要求スル項ニ對シ日本政府ニ於テ異議ナキ旨ノ受書發送方ヲ要求セリ

佛軍トシテハ日本軍ノ撤兵ニ對シ何等カノ形ニ於テ日本側ノ言明ヲ得サレハ甚タ苦シキ立場ニ陥ルヲ以テ是非共右項挿入ヲ要望シ居ル處右ハ佛側ノ立場トシテハ尤ト存セラルルニ付前記受書ヲ與フル形式ニテ妥結スルコト可然ト存セラル

780

昭和16年7月24日 在仏国加藤大使より
豊田外務大臣宛(電報)

仏側が撤兵時期の明示を希望したため作成した
仏側受諾回答に対するわが方返信案について

別電 昭和十六年七月二十四日発在仏国加藤大使より

豊田外務大臣宛第四二〇号

右返信案

ヴィシー 7月24日前発

本 省 7月24日後着

第四一九號(館長符號扱)

往電第四一二號ノ三ニ關シ

我方受書試案別電第四二〇號ノ通り

(別 電)

ヴィシー 7月24日前発

本 省 7月24日夜着

第四二〇號(館長符號扱)

Monsieur le Vice-Président,

Dans Sa note du 21 juillet 1941 relative au projet de coopération militaire Franco-Japonaise en Indochine, Votre Excellence a tenu à indiquer dans quel esprit le Gouvernement Français conclut cet accord: il entend ne participer qu'à des actions purement défensives ayant pour objet la sauvegarde du territoire indochinois; il remarque aussi que la présence des forces japonaises sur le territoire

ou dans les eaux de l'Union doit être temporaire et cessera lorsque le danger prévu aura été écarté.

Ja M'empresse de porter à la connaissance de Votre Excellence que mon Gouvernement est d'accord sur ces points.

~~~~~

781 昭和16年7月24日 在仏国加藤大使より  
豊田外務大臣宛(電報)

仏印での軍事協力に関する交換公文の協議妥結について

別電一 昭和十六年七月二十四日発在仏国加藤大使よ

り豊田外務大臣宛第四一七号

右往信案

二 昭和十六年七月二十四日発在仏国加藤大使よ

り豊田外務大臣宛第四一八号

右返信案の付加部分

ヴィシー 7月24日前発

本 省 7月24日夜着

第四一六號(至急、館長符號扱)

二十三日「カニント」佛外務省係官ト協議ノ際交換公文案ニ付テハ双方殆ト議論ナク別電第四一七號ノ如キ我方公文ヲ手交セリ佛側公文ハ我方公文ノ前段ニ別電第四一八號ヲ附加スルコトトシ各政府ノ承認ヲ得ルコトトセリ何分ノ儀折返シ御回電相成度シ

(別電一)

ヴィシー 7月24日前発  
本省 7月24日夜着

第四一七號(至急、館長符號扱)

Vichy, le 7 juillet 1941

Monsieur le Vice-Président,

Me référant au protocole signé en date de ce jour entre nos deux Gouvernements, je prie Votre Excellence de bien vouloir me confirmer l'accord du Gouvernements français sur les propositions suivantes:

1° Le Gouvernement français accorde aux Japon la faculté de prendre les mesures suivantes:

a) Envoi en Indochine méridionale du nombre de

troupes, d'unités navales et de formations aériennes Japonaises jugé nécessaires.

b) Utilisation, comme bases aériennes, des huit localités suivantes: Siemreap, Phnom-penh, Tourane, Nhattrang, Bienhoa, Saigon, Soctrang et Kompong-trach, comme bases navales, de Saigon et de la baie de Camranh. Les aménagements nécessaires y seront apportés par les forces japonaises.

c) Il sera accordé à ces forces la faculté de se loger; de faire des manoeuvres et exercices; leur liberté de mouvements sera reconnue. Il leur sera également accordé des facilités particulières pour l'accomplissement de leur tâche. Ceci comprend la suppression des restrictions prévues par l'accord Nishihara-Martin.

d) Le Gouvernement français fournira les devises nécessaires à ces forces japonaises selon les modalités à établir en commun. Pour l'année en cours, le montant de ces devises s'élèvera à 23,000,000 piastres indochinoises, soit environ 4,500,000 piastres indochinoises par mois, cette



somme ne comprenant pas les devises à fournir aux forces japonaises au Tonkin, prévues par les accords antérieurs.

Le Gouvernement japonais est disposé à payer les devises sus-visées, au choix du Gouvernement français, soit en yens transférables, soit en dollars américains, soit en or.

2° Le Gouvernement français donnera son accord au dispositif général d'entrée de ces forces et prendra toutes les mesures utiles pour éviter la possibilité D'un conflit fortuit avec les forces indochinoises.

3° Les dispositions de détail concernant les mouvements des forces japonaises seront établies d'accord entre les autorités militaires japonaises et françaises sur place.

Je saisis cette occasion de renouveler à Votre Excellence Monsieur le Vice-Président les assurances de ma Très haute considération.

(別電11)

ヴィシー 7月24日前発

本省 7月24日夜着

第四一八號(至急)館長符號扱)

Me référant au protocole signé en date de ce jour entre nos deux Gouvernements, j'ai l'honneur de confirmer à Votre Excellence l'accord du Gouvernement Français sur les propositions contenues dans la lettre qu'Elle a bien voulu adresser en date de ce jour et qui se trouvent reproduites ci-après. (以下數行餘白)

Veillez agréer, Monsieur l'Ambassadeur, les assurances de ma très haute considération.

~~~~~

782 昭和16年7月24日 豊田外務大臣より
在タイ二見大使宛(電報)

仏印共同防衛に関する日本政府声明をタイ政府へ内報方訓令

本省 7月24日後9時40分発

第四二七號(館長符號扱)

往電第四〇三號ニ關シ

「ヴィッシー」トノ交渉ハ十四日開始セラレ二十一日意見ノ一致ヲ見二十二日文書ノ交換ヲ了シタルヲ以テ直チニ河

内ニ於ケル現地交渉ニ入り二十三日細目協定成立セリ茲ニ
本件妥結ヲ見タルヲ以テ二十六日正午佛印ノ共同防衛成立
ニ關スル別電第四二八號^{（電報）}帝國政府聲明ヲ發表スルコトトセ
リ

就テハ右聲明發表前ニ「タイ」政府ニ之ヲ内報シ置クコト
今後ノ施策上有效ナリト認メラルルニ付テハ「ビブン」限
リノ含ミトシテ冒頭往電御含ミノ上左記趣旨ニテ二十五日
午後六時頃（「タイ」時間）前記聲明内報セラレ結果回電ア
リ度尙本件發表カ「タイ」輿論ニ及ボスヘキ影響ニ鑑ミ輿
論指導上充分御留意相成度ト共ニ「ビ」ニモ輿論カ反日乃
至恐日のトナサル様釘ヲ打ち置カレ度シ

一、本共同防衛カ「タイ」ヲ目標トセサルハ勿論ニシテ日
「タイ」間傳統的友好關係ハ之ニヨリ毫モ影響セラレサ
ルコト

二、日本トシテハ今後トモ「タイ」ノ興隆發展ノ爲援助スヘ
キ熱意ニ變化ナキコト

三、日「タイ」緊密關係ニ鑑ミ特ニ本件ヲ内報スル次第ナル
コト

編 注 別電第四二八号は省略。政府声明については本書第789
文書参照。

~~~~~

783

昭和16年7月24日

在仏国加藤大使より  
豊田外務大臣宛（電報）

仏印共同防衛に関する議定書の協議がほぼ妥  
結について

ヴィシー 7月24日後発

本 省 7月25日夜着

第四二七號（大至急、館長符號扱）

二十四日館員ヲシテ重ネテ佛側ニ議定書案審議ノ結果ヲ尋  
ネシメタル處佛側ハ左ノ點ヲ除キ往電第四一一號我方第二  
案ヲ全部受諾スル用意アルコトヲ内話セリ案文ニ付テハ双  
方係官ニ於テ充分審議ヲ重ネタル次第ニテ此ノ程度佛側ノ  
希望ヲ容ルルコトハ差支ナカルヘク左スレハ案文ハ確定ス  
ル次第ニ付成ル可ク右御承認ヲ得度ク何分ノ儀至急御回電  
相成度シ

一、前文中 *reconnaissant* ト *que* ノ間 *il en consequence* ヲ  
挿入ノコト

三、本文第三項ハ往電第四一二號ノ二ノ佛案ヲ固執ス但シ往電第四一九號我方受書送付ヲ得ハ本文中ニ撤兵事項ヲ挿入スルコトヲ固執セス



784  
昭和16年7月24日

### 日本軍の南部仏印進駐問題に関する米国务務

#### 次官の声明要訳

付記 日仏合意成立に関する米国外大使への申入れ案

七月二十四日日佛印共同防衛二關スル「ウエルズ」

聲明(要譯、不發表特情ニ依ル)

一九四〇年日本政府ハ數度ニ亘ツテ太平洋地域就中蘭印、佛印ヘノ紛爭狀態ノ波及ヲ希望シナイ旨ヲ重ネテ聲明シタコトカココニ想起セラルヘキテアル。而シテ日本政府ノ右ノ希望表明ハ米國ヲ含ム多數國政府ノ聲明ニヨツテ明確ニ同意サレタ。米國政府ハソノ極右地區<sup>(マヤ)</sup>域ノ現狀ヲ平和的手段ニヨラスニ變更スルコトハ全太平洋地域ノ安全ト平和ヲ阻害スルモノテシカアリ得ナイトノ見解ヲ明確ニ表明シ、且ツコノ結論ハ普遍的適用ヲ受クヘキ主義ニソノ基礎ヲ置

クモノテアルコトヲ併セテ明ラカニシタノテアル。一九四〇年九月二十三日「ハル」長官ハ當時佛印ニ於テ迅速ニ續發シツツアリシ諸事件ニツキ聲明ヲ發表シ、現在ノ事態ハ正シク威壓ノモトニ成就サレツツアルモノテアルコトハ明カト見受ケラレル旨ヲ述ヘタ。今回ノ印度支那二關スル諸事態ノ展開モ亦壓力ノモトニ一層ノ變化カ實現サレツツアルコトヲ明示スルモノテアル。「ヴィシー」政府及ヒ佛印總督府カ現在置カレテキル不幸ナ情勢モ亦勿論周知ノ事實テアル。「ヴィシー」及ヒ佛印ノ佛當局カカツテ外部カラノ壓迫ニ抵抗シ得ル立場ニ在ラナイコトハ餘リニモ明ラカテアル。武力行使又ハソノ脅威ノモトニ行ハレタ侵略行為ニ對スル米國政府及ヒ米國民ノ態度ニツイテハ疑念ノ餘地ハナイソノ態度ハ極メテ明白ニ闡明サレテキル。

日本政府カ佛印ニ對シ採リ來ツタ、又現在採リツツアル方策ハ日本カ斷然タル決意ヲ以テ武力行使ニヨリ或ハ武力ノ脅威ヲ以テ膨脹<sup>(張)</sup>ノ目的遂行ニ向ツテキルコトヲ明示シテキル。米國政府トシテハ日本カ自衛手段トシテ佛印占領或ハ佛印ニ基地獲得ヲ敢行シナケレハナラヌ正當ナル理由ハ見出し得ナイ。又如何ニ輕信のナ人トイヘトモ米、英、蘭三

國政府カ佛印ニ對シ領土の野心ヲ持チ或ハ日本ニ對シテ脅威トナルト見ラレル様ナ措置ヲ考究シテキルトイフ様ナ根據ハ少シモ見出シ得ナイ筈テアル。

從ツテ米政府トシテハ日本ノ行動ハ同地方基地獲得カ今後ノ、今ヨリシテ既ニ明ラカナル同地方隣接地區征服行動上ニ多大ノ價值アリト認メタタメニ行ハレタモノテアルト結論スルノ他ハナイ。

日本ノ從來ノ事態進展ニ徴スルニ、日本政府カ現在トリツツアル手段ハ太平洋ノ平和的國家ノ平和的手段ヲ脅カス底ノモノテアル。

之ニヨリ米國カ平時ノ經濟上及ヒ國防計畫遂行上絕對必要ナ「ゴム」錫ノ如キ重要物資獲得ハ大ナル脅威ヲ受ケルニ至ル惧レカアル。

日本ハコレラ太平洋地域カラ「ゴム」、石油其他原料ヲ、此等ノ必要トスル各國ト同等ノ條件テ購入スルコトヲ拒否サレタコトハ今マテ一度モナカツタノテアル。

日本政府ノ取ツタ措置ハ又比島ヲ含ム其ノ他太平洋地域ノ安全ヲ危殆ニ類セシムルモノテアル。

米政府モ米國民モ共ニカカル事態ノ發展カ國家ノ安全ニ直

接生命の問題ニ包含スル事ヲ充分ニ認識シテキル。

### (付記)

佛印平和進駐ニ關シ在京米國大使ニ對スル申入案

去ル七月二十一日帝國政府ト「ヴィシー」政府トノ間ニ友好裡ニ佛印ノ共同防衛ニ關シ意見ノ一致ヲ見近ク之ニ關スル聲明ヲ發表スル運ヒトナレリ

此ノ機會ニ本大臣ハ日本政府ヲ代表シ貴大使ニ對シ本件措置ニ對シ事前ノ通報ヲ爲スト共ニ海外情報等ニ於テ帝國政府カ「ヴィシー」政府ニ對シ最後通牒ヲ突付ケタリ等無根ノ事實カ報道セラレ居ルニ鑑ミ真相ヲ瞭カニシ本問題ニ依リ不必要ノ誤解ナカラシメムカ爲茲ニ御來訪ヲ願ヒタル次第ナリ

近時帝國ト佛領印度支那トノ關係ハ昨年八月ノ松岡「アンリ」協定ヲ初メ屢次ノ日佛協定ニ依リ急速ニ緊密ノ度ヲ加ヘ來レル處今般更ニ現下ノ複雑多岐ナル國際情勢下ニ於ケル佛印ノ安全ヲ保障シ同地方ニ於ケル平和攪亂ヲ防止スルコトカ日佛ノ共通ノ利害ナルニ鑑ミ今回前述ノ通り日佛兩國政府間ニ佛印ニ關スル共同防衛ノ諒解成立セル次第ナリ

リ

素ヨリ帝國政府ハ日佛間ニ現存スル諸取極就中佛領印度支那ノ領土保全及主權ノ尊重ニ關スル帝國ノ義務ハ飽ク迄之ヲ嚴守シ佛印ノ内政ニ干渉セサルノミナラス佛印ヲ基地トシテ更ニ「シンガポール」、蘭印等ニ武力進出ノ意圖ナキコトヲ本大臣ハ茲ニ確言シ得ル次第ナリ、實ハ我方今次措置ニ對スル報復手段トシテ米國方面ニ於テハ現在以上更ニ在米本邦資金凍結、石油類ノ全面的禁輸等ノ如キ反日的經濟措置ヲ講スヘシトノ情報頻リニ傳ハリ居ル處萬一右カ事實化スルカ如キ場合ハ帝國政府ニ於テ從來折角抑制シ來レル、蔣政權援助及對日包圍陣形成ニ對スル我國民ノ反感カ意外ニ沸騰シ來ルカ如キコトナキヲ保シ難ク本大臣トシテハ衷心憂慮シ居ル次第ナリ

米國內ニ於テ本件措置ニ對シ面白カラサル感情ヲ抱ク向アル如ク見受ケラルルカ客觀的立場ヨリ公平且冷靜ニ觀ルナラハ此ノ程度ノコトハ蘭印交渉ノ結果カ日本ニトリ極メテ不満足ナリシ經緯竝ニ御承知ノ通り殆ト毎日ノ如ク海外ヨリ傳ハリツツアル對日包圍陣強化ノ報道等ニ依リ興奮シツツアル我國民感情ノヨリ以上ノ惡化ヲ防止シ寧ロ太平洋ノ

平和維持ノ大局ヨリ眞ニ已ムヲ得サル措置ナルコトヲ貴大使ニ於テ良ク了解セラレ、日米關係打開ニ對スル本大臣ノ希望ト努力ニ猶餘地アラシムル様御協力アランコトヲ特ニ貴大使ニ對シ切望スル次第ナリ

編 注 本件申入れが行われた昭和十六年七月二十五日の豊田

外務大臣・在本邦グルー米國大使會談については、

『日本外交文書 日米交渉——一九四一年——』上巻第114

文書付記参照。

~~~~~

785 昭和16年7月25日 豊田外務大臣より
在仏国加藤大使宛（電報）

南部仏印進駐に関する仏側受諾回答へのわが方
返信發出を仏側が固執する場合の措置振り訓令

本省 7月25日前6時15分発

第三一七號（大至急、極秘、館長符號扱）

貴電第四一二號及第四二〇號ニ關シ

我方トシテハ撤兵時期ニ關シ何等約束スルコトハ之ヲ欲セザルノミナラズ議定書中ニ既ニ期限ニ關スル取極アル次第

ナルヲ以テ其ノ要ナシト思考スルモ先方ニ於テ右ニ同意セザル場合ハ貴電第四二〇號案文ノ當該部分ヲ la présence des forces japonaises sur le territoire ou dans les eaux de l'Union cessera lorsque le danger aura été écarté トシ temporaire ナル字句ハ絕對ニ避クル様致サレ度尙本件文書ハ不公表トス



786

昭和16年7月25日 豊田外務大臣
在本邦アンリ仏国大使 一 会談

仏印共同防衛の日仏合意に関する日本政府声明を仏国大使へ内報について

七月二十五日午後二時二十五分―四十分豊田外務大臣「アンリー」佛國大使會談要旨(於外務大臣官邸)

豊田大臣―今般前任者松岡氏ノ在任中ヨリ行ハレ居リシ日、佛兩國間交渉ガ圓滿妥結ニ到達セルハ洵ニ御同慶ノ至リナリ而シテ本大臣ハ今次協定及ビ既存文書ノ諸約束ヲ嚴守シ以テ最善ヲ盡シテ日佛親善ノ増進ニ努力セントノ所存ナル旨此ノ際特ニ附言致度シ

「アンリー」大使―唯今閣下ノ言ハレシコトハ之ヲ本國政

府ニ傳達スベキモ本使自身今次妥結ヲ喜ビ居ルモノニシテ佛國政府トシテハ貴國政府再三ノ言明ニ對シテ其ノ誠意ト節義トヲ信賴シ之ヲ記錄スルノ外ナカリシ次第ナリ豊田大臣―本大臣ハ帝國政府言明ノ誠實ハ之ヲ信賴セラレテ然ル可キナル旨斷言スルモノナリ尙交渉妥結ニ關スル「コムミュニケ」ハ明二十六日正午之ヲ發表スル豫定ナルニ付御内報申上グル次第ナルモ右發表迄ハ貴使限りノ御含ミト御承知アリ度シ

「アンリー」大使―本使ハ右發表ニ關シテハ何等承知シ居ラザリシモ右ハ「ヴィシー」政府ノ諒解ノ下ニ爲サルルモノナリヤ

豊田大臣―詳シキコトハ知ラザルモ「ヴィシー」ニ於テモ明日同時刻ニ同様ノ發表アルモノノ如シ

自分ハ「ペタン」元帥ノ人物ニ對シ豫々尊敬シ居リシモノナル處客年危殆ニ瀕セル本國ヲ救ハング爲決然立タレ爾來粉骨碎身甚大ナル努力ヲ續ケ居ラレル元帥ニ對シ益々ソノ念ヲ深メ居レル次第ナリ又「ダルラン」副總理ハ倫敦軍縮會議ノ際同副總理ハ佛側專門委員トシテ自分ハ日本側專門委員トシテ出席シ居リシ關係上ヨリ存ジ上

ケ居ル次第ニシテ御序ノ折宜敷ク御傳ヘアリ度シ

787

昭和16年7月25日

豊田外務大臣より
在独国大島大使宛(電報)

仏印共同防衛に関する日仏合意の成立を独伊

両国大使へ通報について

本省 7月25日後8時20分発

第六九六號

往電合第一五九七號ニ關シ

二十四日午后獨伊大使ヲ各個ニ招致シ本大臣ヨリ今次交渉
ノ成立ヲ内報併セテ本件ニ關シ獨逸側ヨリ與ヘラレタル支
援ニ關シ謝意ヲ表明シ置ケリ尙獨大使ハ其ノ際佛印ノ資源
中其ノ戰爭遂行上必要ナルモノアルニ付我方ノ好意的考慮
ヲ希望スル旨述べタルニ對シ本大臣ヨリ出來ル丈盡力スヘ
キモ現下ノ處米ノ獲得位力可能ナリト答ヘタルニ同大使ハ
獨力關心ヲ有スルハ「ゴム」ナリト述べ居タリ
佛、伊ニ轉電アリ度

788

昭和16年7月25日

在仏国加藤大使より
豊田外務大臣宛(電報)

仏側受諾回答に対するわが方返信につき仏側

同意取付けについて

ヴィシー 7月25日後発

本省 7月26日夜着

第四三三號(大至急、館長符號)

貴電第三一七號ニ關シ

佛側ハ撤兵問題ヲ固執セルニ付當該部分ヲ冒頭貴電末段ノ
通り作成シ佛側係官ノ同意ヲ取付ケタリ佛側確答ハ明朝申
越ノ豫定ナリ

789

昭和16年7月26日

仏印共同防衛の日仏合意に関する日本政府声明

付記 昭和十六年七月二十六日

右に関する外務当局談

帝國政府聲明

近時帝國ト佛領印度支那トノ關係ハ昨年八月松岡「アンリ

「協定ヲ始メ累次ノ日佛協定ニ依リ急速ニ緊密ノ度ヲ加ヘ來レル處今般更ニ佛印ニ關スル共同防衛ニ付友好的話合ニヨリ日、佛兩國政府間ニ完全ニ意見ノ一致ヲ見タリ
帝國ハ日佛間ニ現存スル諸取極就中佛領印度支那ノ領土保全並ニ主權ノ尊重ニ關スル嚴肅ナル約束ニ依リ生ズル帝國ノ責務ハ飽ク迄之ヲ嚴守スルト共ニ今後益々日佛友好關係ノ増進ニ努メ以テ兩國共榮ノ實ヲ擧ゲンコトヲ期ス

(付記)

七月二十六日佛印ノ共同防衛成立ニ關スル外務當局談
印度支那ト帝國トハ隨分古イ時代カラ文化的、歴史的、經濟的關係カ深カツタ。徳川鎖國前ニハ安南、東埔寨ニ夫々ニケ所ノ日本町カアリ日本トノ貿易ハ頗ル盛テアツタカ海禁後コノ關係ハ切斷セラレタノテアル、近代ニ入ツテカラ帝國ノ産業ニ對スル原料供給地トシテ新ナル意味ニ於テ往時ノ關係ヲ復歸スル傾向ヲ辿リツツアツタカ、昨年來頓ニソノ關係ハ緊密トナリ帝國カ其ノ建設ニ邁進シツツアル大東亞共榮圈ノ重要ナル一環トナツテ居ルノテアル
佛國ハ印度支那ノ帝國ニ對スル斯カル緊密ナル關係及重要

性ヲ良ク諒解シ客年八月松岡前外務大臣ト「アンリー」駐日大使トノ間ニ文書ヲ往復シテ帝國ノ佛印ニ於ケル優越セル地位ヲ確認シ更ニ本年五月帝國トノ間ニ經濟協定並ニ政治的了解ニ關スル議定書ヲ締結シテ日佛印間善隣友好關係ノ樹立並ニ政治的・經濟的緊密關係ノ増進ヲ圖ル等終始帝國トノ好意的協力ヲ續ケ來ツタノデアル

然ルニ其後佛印ヲ繞ル内外ノ情勢ハ最近歐洲並ニ東亞ニ於ケル事態ノ變化ニ依リ甚大ナル影響ヲ受ケコノ儘推移セハ佛印ノ安全サヘモ脅カサレントスルノ兆候漸ク濃化シ來ツタノテアル、若シ斯カル情勢カ發展シテ印度支那カ混亂ニ陷ルカ如キコトアラシカ佛國ハ固ヨリ帝國ニトリテモ自衛上看過シ難キ所テアツテ日佛兩國ハ佛印ノ地位ニ關シ最も緊密且共通ナル利害關係ニ立ツコトヲ痛感スルニ至ツタノデアル

以上ノ觀點ヨリシテ帝國政府ハ過般來加藤大使ヲシテ「ヴィシー」政府ト接衝ヲ行ハシメツツアツタカ交渉ハ極メテ友好裡ニ進捗シ去ル七月二十一日日佛兩國政府間ニ佛印ノ共同防衛ニ關シ完全ニ意見ノ一致ヲ見ルニ至ツタノテアル。カクテ佛印ヲ紐帶トシテ日佛兩國ハ一段ト緊密ナル關係ニ

入ツタモノテ大東亞ノ安定竝ニ共存共榮ニ資スルコト大ナルハ言フ迄モナイ

尙帝國政府カ佛印ニ關スル日佛ノ諸取極ヲ嚴肅ニ遵守シ佛印ノ領土保全及主權ヲ尊重スルノ意嚮ヲ有スルコトハ茲ニ更メテ言フ迄モナク、帝國トシテハ今後益々日佛友好關係ノ増進ニ努メ日佛共榮ノ實ヲ舉ケンコトヲ期スル次第デア



790 昭和16年7月26日 豐田外務大臣より
在英国上村臨時代理大使宛(電報)

仏印共同防衛に関する日仏合意の成立を英国

大使へ通報について

付記 右英国大使への申入れ案

本省 7月26日後10時30分発

第二二三號

二十五日英國大使ノ來訪ヲ求メ佛印ノ共同防衛ニ關スル日佛間合意成立セル旨ヲ通告シ右合意ハ最近佛印ノ存立及安全ヲ危殆ナラシムル如キ不穩ナル情報アルニ鑑ミ佛印ノ安全保障及平和維持ヲ圖ルト共ニ對日包圍陣形成ニ對抗スル

爲日佛間ニ於テ友好程ニ成立セルモノニシテ其ノ性質ハ飽ク迄防禦的ニテ如何ナル第三國ヲモ攻撃目標ト爲シ居ラス帝國ハ佛印ノ領土保存及主權尊重義務ヲ嚴守スル意嚮ナル旨説明セルニ對シ同大使ハ所謂不穩情報ハ何等根據ナオ日本ニシテ右ヲ口實トシテ南進スル場合日英間ニ重大ナル事^(重要)想發生スヘキコトハ累次帝國外務當局ニ警告シ來リタルニ拘ラス右通告ニ接シタルヲ遺憾トシ英國カ日本ノ今次佛印ニ對スル措置ヲ以テ極東ニ於ケル英國領土及權益ニ對スル潛在的脅威ト認ムルハ同日「イーデン」外相カ下院ニ於テ演說セル通りナル旨述ヘテ引取りタルカ本二十六日來訪合第一六一五號ノ通告ヲナシタル際自己ノ私見ニ過キサル旨前置^(シカ)ニ今次佛印問題ニ關スル日英間見解ノ相違點ハ前記不穩情報ノ眞儀^(真儀)如何ニ在ルヲ以テ何レカニ判明スル迄派兵ヲ延期セラレ得ハ何等打開策モアルヘシト思考スル旨述ヘタルカ本大臣ハ乍遺憾先方希望ニ應シ得サル旨應酬スルト共ニ今次措置ノ平和的性質及目的ヲ再說シ英國トシテハ何等危惧ノ要ナキ旨述ヘ置キタリ

米、加、濠、南阿、「シムラ」、新嘉坡へ轉電セリ

(付記)

佛印ノ共同防衛成立ニ關シ在京英國大使ニ對スル

申入案

去ル七月二十一日帝國政府ト「ヴィシー」政府トノ間ニ友好裡ニ佛印ノ共同防衛ニ關シ意見ノ一致ヲ見近ク之ニ關スル聲明ヲ發表スル運ヒトナレリ

此ノ機會ニ本大臣ハ貴大使ニ對シ本件措置ニ對シ事前ノ通報ヲ爲スト共ニ海外情報等ニ於テ帝國政府カ「ヴィシー」政府ニ對シ最後通牒ヲ突付ケタリ等無根ノ事實カ報道セラレ居ルニ鑑ミ真相ヲ瞭カニシ本問題ニ依リ不必要ノ誤解ナカラシメムカ爲茲ニ御來訪ヲ願ヒタル次第ナリ

近時帝國ト佛領印度支那トノ關係ハ昨年八月ノ松岡「アンリ」協定ヲ初メ屢次ノ日佛協定ニ依リ急速ニ緊密ノ度ヲ加ヘ來レル處今般更ニ現下ノ複雑多岐ナル國際情勢下ニ於ケル佛印ノ安全ヲ保障シ同地方ニ於ケル平和攪亂ヲ防止スルコトカ日佛ノ共通ノ利害ナルコトヲ認メ今同前述ノ通り日佛兩國政府間ニ佛印ニ關スル共同防衛ノ諒解成立セル次第ナリ

實ハ最近佛印ヲ繞リ例ヘバ「ドゴール」派ノ策動トカ支那

軍ノ侵入トカ佛印自体ノ存立及安全ヲ危殆ナラシムル如キ種々ノ憂慮スベキ情報傳ヘラレ其ノ或ルモノハ必スシモ事實無根ノモノト思ハレサル節アリ前述ノ如ク我方ト最モ緊密ナル關係ニアリ我方ノ最モ重要視スル佛印カ敢ヘテ第二ノ「シリア」トハ言ハサルモ何等類似ノ事態トモナラハ我方トシテ看過シ得ザル次第ハ充分御諒解ヲ得ル事ト存ス

從ツテ本共同防衛ノ取極ハ飽迄防禦の性質ノモノニシテ何レノ第三國ヲモ攻撃目標トスルモノニ非ス又素ヨリ帝國政府ハ佛領印度支那ノ領土保全及主權ノ尊重ニ關スル帝國ノ義務ハ何所迄モ之ヲ嚴守スル意嚮ナルハ本大臣ノ確言シ得ル次第ナリ尙本件話合ハ始メヨリ終リ迄極メテ友好裡ニ行ハレ何等「ヒツチ」ナカリシコトハ特ニ貴閣ニ達シ置キ度シ

就テハ本大臣ハ貴大使カ帝國ノ眞意ト本件共同防衛ノ平和的性質トヲ充分諒解セラレンコトヲ期待シ且切望スルモノニシテ萬一ニモ本件措置カ誤解セラレ之ニ對抗スル如キ對日措置カ講セラレ其ノ結果トシテ左ナキダニ蔣政權援助強化及ヒ對日包圍陣結成ニ關シ我國民ノ胸中ニ深く蟠リ居ル感情カ我當局ノ抑制ニモ不拘沸騰シ來ル如キアランカ日英

國交上憂慮スヘキモノタルハ言フ迄モナキ所ナリ帝國政府ハ素ヨリカカル事態ノ發生ヲ極力避ケ度キ強キ希望ヲ有スルモノニシテ、サレバコソ、茲ニ貴使ノ協力ヲ煩ハス次第ナルコトヲ特ニ附言スルモノナリ

791

昭和16年7月26日

在タイ二見公使より
豊田外務大臣宛(電報)

仏印共同防衛に関する日本政府声明をタイ政
府へ内報について

バンコク 7月26日後発
本省 7月27日前着

第四四九號(至急、外機密、館長符號扱)
貴電第四二七號ニ關シ(佛印ノ共同防衛ニ關スル帝國政府
聲明發表ニ關スル件)

早速「ビブン」ヲ往訪本件ハ日「タイ」特殊友好關係ニ鑑
ミ特ニ政府ノ訓令ニ依リ内報スルモノナリト傳ヘ御來示ノ
次第二依リ適宜説明ヲ加ヘタル處「ビ」ハ帝國政府ノ好意
ニ對シ深甚ナル謝意ヲ表シタリ

右會談ニ於テ「ビブン」ハ初メヨリ何等驚愕ノ色ヲ示サス

甚タ結構ナルコトナリト言ヒ質問釜數キコトモ行ハス極メ
テ平靜ニシテ事態當然ノ歸結ナリト爲シ居レルカ如キ印象
ヲ得タリ或ハ寧口本件ハ遅キニ過キタリト爲スカ如キ口吻
ヲ洩セリ

本使ヨリ「タイ」國內輿論ニ對スル影響ヲ尋ネタルニ
「ビ」ハ日本カ佛印ニ對シ強ク出ラルコトハ一般「タイ」
人ノ歡迎スル所ナリト答ヘ又英國側ノ意嚮如何トノ質問ニ
對シ英國側トシテモ曩ニ御話セル通り大シタ反應ナカルヘ
シ(往電第一〇六號參照)尤モ一應ノ用意トシテ「チウンボ
ーン」ノ防禦陣地ヲ補強シツツアリト答ヘタリ
最後ニ本使ヨリ今後佛印事態落付クニ從ヒ日「タイ」ノ政
治的經濟的協力ハ一層確實ナル根據ノ上ニ立ツコトトナル
ヘシト言ヒタル處「ビ」ハ全ク同感ナリト強ク贊意ヲ表明
シタリ

792

昭和16年7月26日

在仏国加藤大使より
豊田外務大臣宛(電報)

仏側受諾回答に対するわが方返信を議定書の
付属とする提議は仏側が撤回について

第四三五號(大至急)

往電第四三三號ニ關シ

佛側ハ本件書翰ヲ議定書附屬書トスヘキ旨ヲ申出タルモ右
ハ日本側トシテ絶對ニ受諾シ得サルモノナル旨說示シ佛側
モ右申出ヲ撤回只議定書署名ト同日附ニテ書面ヲ發送スル
手筈ニテ折合ヲ附ケ本件確定ヲ見タリ

793 昭和16年7月28日

仏印共同防衛に関する日仏議定書についての

枢密院審査委員会および本会議議事録

昭和十六年七月

佛領印度支那ノ共同防衛ニ關スル日本國「フランス」

國間議定書 樞密院審査委員會及本會議議事録

條約局第一課

佛領印度支那ノ共同防衛ニ關スル日佛議定書

樞密院審査委員會議事録

ヴィシー 7月26日後発
本省 7月27日後着

日時 昭和十六年七月二十八日午前十時ヨリ宮中東三ノ
間ニ於テ

出席者 樞密院側 原議長、鈴木副議長(審査委員長)、河

合、石井、有馬、窪田、石塚、清水、

南、奈良、荒木、菅原、松浦、潮、林、

深井、二上、大島、小幡、竹越、三土、

伊澤各顧問官

政府側

近衛内閣總理大臣、豐田外務大臣、東

條陸軍大臣、及川海軍大臣、小倉大藏

大臣、左近司商工大臣、村田遞信大臣

水野通商局長、松本條約局長、阪本歐

亞局長、寺崎亞米利加局長、齋藤南洋

局長、西村條約一課長、太田東亞一課

長、豐田南洋一課長、東光南洋二課長、

芳賀事務官

鈴木企畫院總裁、宮本次長、上原調査

官 村瀨法制局長官、入江第三部長、宮内

參事官

原口爲替局長

小島商工次官

尾關管船局長、米田海運管理官

鈴木審査委員長 開會ヲ宜ス。

配布濟ノ議定書案ト只今配布セルモノトハ多少異ルヲ以テ書記官長ヲシテ説明セシムベシ。

堀江書記官長

不取敢未確定案ヲ差上ゲ置キタルガ今日御覽願フ確定案ハ第一表題ガ變リ居リ主トシテ變レルハ前文ノ所ナリ。尙文書ノ取扱ニ付當局ノ希望アリ軍事上ノ協力ニ關スル交換公文ト參考ノ西原「マルタン」協定及地圖ノ三種ハ御返戻願ヒタシ。

豐田外務大臣 別紙説明案ニ依リ説明ス。

東條陸軍大臣

佛印派兵ニ關シ陸軍軍隊ノ行動ニ付附加ヘテ御説明申上グベシ。現下ノ情勢ニ基キ南佛印ヘノ派兵ハ六月二十五日ノ大本營政府連絡會議^(ママ)ニ於テ意見一致ヲ見更ニ七月二日ノ御前會議ニ於テ決定シタリ。爾來統帥部及政府ハ緊密ナル連絡ヲ保チ著々準備ヲ進メタリ。即チ陸軍ニ於テ

ハ近衛師團ヲ主体トスル部隊ガ五月一日乃至二十日ニ逐次廣東附近ニ集結シ二十三日頃ヨリ海南島南端三亞ニ推進セリ。此ノ間外交交渉行ハレタルガ平和の二進駐シ得ル場合ト武力ヲ用ヒテ進駐スル場合ト種々ノ場合ヲ想定シテ政府ト密接ナル聯携ノ下ニ準備ヲ整ヘタリ。然ル處外交交渉ハ外務大臣ノ説明ニアリタル通順調ニ行キ二十一日「ヴィツシー」政府ハ我方要求ヲ承諾シタルヲ以テ二十二日ノ連絡會議ニ於テ平和の二派兵スルコトニ決^(決)シ同日其ノ旨命令ヲ發シタリ。二十三日ニハ澄田少將ト「ドクー」佛印總督トノ間ニ派兵ニ關スル現地細目交渉成立セリ。三亞ニ待機中ノ部隊ハ二十五日午後五時同地ヲ出港目下南部佛印ニ前進中ナリ。二十八日未明以後陸軍一部先遣隊ハ「ニアトラン」附近ニ上陸(九時ト豫定)^(未)明二十九日天明以後一部先遣隊ハ「サン、ジャック」岬ニ上陸シ附近ノ陸海軍要塞ヲ警戒シ以テ我陸海軍ヲ「ニアトラン」及「サイゴン」ニ上陸セシムル豫定ナリ。之ヨリ先外交交渉ニ於テ我軍上陸ニ際シ佛印軍ノ誤解ニ基ク不慮ノ衝突ヲ避クル爲佛印軍ヲ前記上陸地點ヨリ一時撤去セシメンコトヲ要求シタルモ佛側ニ於テハ現地ニ於

テ禮儀ヲ盡シテ日本軍ヲ迎フベキヲ以テ右ニ關スル字句ヲ削除サレタキ旨述ベタルニ依リ我方トシテモ佛側ノ誠意ニ信賴シ之ニ同意セリ。

尤モ萬一ノ場合ヲ顧慮シ不覺ヲナラザル様十分注意ハ拂ヒ居レリ而テ上陸後ハ佛側ノ承認セル「ニアトラン」「ブノンペン」ニ一(二?)個大隊ヲ主力ヲ「サイゴン」

附近ニ駐屯セシメ且航空基地八箇所、海軍基地二箇所ヲ作ル豫定ナリ。北部ニハ一部兵力駐屯シ居ル處佛印派遣軍ハ一元指揮ニ屬セシムルコトナリ居レリ派兵ニ關スル發表ハ成ルベク速ニ行フ積リナルモソレ迄ハ軍事機密ニ屬スル事項トシテ御承知置キアリタシ。

松本條約局長 未確定案ト確定案トノ主ナル相違點ヲ別紙^(全略)ニ依リ説明ス。

河合顧問官

「タイ」國ニ對スル帝國ノ態度如何。又在「タイ」公使館ノ昇格ハ何時頃トナルヤ。

豐田外務大臣

在「タイ」ニ見公使ヨリ豫メ本件ヲ内報シタルニ「ピブン」首相ハ頗ル平靜ニテ結構ナリト申シ英米側ノ反應モ

大シタコトハナカルベシト自分ハ思フト述ベタリ。又「タイ」ノ國內輿論ニ對スル影響ニ關シ同首相ハ日本ガ佛印ニ強ク出ラルルコトハ一般「タイ」人ノ歡迎スル所ナリト答ヘタリ。抑モ「タイ」ハ親日ヲ標榜シ居ルモ實際ハ英米ト日本トノ間ニフラツキ居リ帝國トシテモ「タイ」ノ向背ハ注視シ居ルモ從來ノ如ク實力ヲ有セズシテ「タイ」ニ對シ工作ヲ續クルコトハ困難ナルガ佛印ニ我兵力ガ駐屯スルコトニ依リ「タイ」人心ノ動搖ヲ防ギ從テ對「タイ」工作モ有效ニ行ヒ得ベシト存ゼラル。

尙大使館昇格ニ關シテハ此ノ時期ニ直ニ大使ヲ任命スルガ可ナリヤ否ヤハ目下研究中ナリ。之ガ洩レ英國ガ「クロスビー」公使ヲ大使ニ昇格セシムルコトトモナラバ我方遅ルルヲ以テ余リ遅延ハ出來ザルモ只今ノ所ハ祕密トシ狀況ヲ見居リ。新大使ハ詮衡^(南カ)ノ上内定シ居レリ。

河合顧問官

議定書第二項ニ基ク所謂特別取極ノ主ナルモノハ交換公文ニ在リト思ハルル處交換公文ハ佛印南部ヘノ進駐ヲ規定シ共同防衛ニ關シテハ明ナラズ。只今陸軍大臣ノ御說明中全佛印ヲ通ズル司令官ヲ置クコトトナルベシト申サ

レタルガ本交換公文ニハ北部ノコトハ何等記載サレ居ラズ。(一)客年九月「トンキン」ヘノ進駐ノ基礎トナリタル松岡「アンリー」協定及西原「マルタン」協定ハ之トハ性質ヲ異ニスルモ支那ニ對シテモ共同防衛ナルヲ以テ今日ニ於テハ全ク一体ト考ヘ得ザルヤ。交換公文中文ニ「西原「マルタン」協定ノ規定スル諸制限ノ撤廢ヲ含ムモノトス」トアリ之ニテ總括サルルトシテハ不可ナリヤ。(二)「軍隊、艦艇、航空部隊ノ派遣」トアル處廣大ナル佛印ノ防衛ハ日本ガ主体トナリテ行ハザルベカラズ從テ其ノ數モ日本ガ決メザルベカラズト思考スルモ議定書第二項ニ依リ西原「マルタン」協定ノ如ク計數ヲ定メラレタルヤ。(三)「行動ノ自由ヲ容認セラルベシ」トアル處此處ニ謂フ自由トハ共同防衛ニ關スル自由ナリヤ。(四)第三項ノ「日本國軍ノ行動」ハ防衛行動ヨリ廣キモノト思ハルルガ如何。

東條陸軍大臣

御質問ノ第一點(北部佛印ニ駐屯スル日本軍ハ共同防衛ニ包含セラルルヤ)ニオ答ヘスベシ。之ニ付テハ本件ガ佛印ノ共同防衛ヲ定ムルモノナルヲ以テ大キナ意味ヨリ

凡テ包含セラル。第二點(南部佛印ノ進駐兵力)ニ關シテハ「必要數ノ」トアリ必要ト認ムル場合ニハイクラデモ派遣シ得ベシ。交渉ノ經過ニ於テハ大体最低四萬ト考ヘ右ヲ出先大使ニ内示シ置キタルガ佛側ニハ通ジ居ラザルヲ以テ何等制限ナシ。第三點(行動ノ自由)ハ防衛上ノモノヲ指スヤハ仰セノ通りナリ。第四點(日本軍ノ行動)ノ範圍ハ宿營、上陸方法等ヲ指シ之ニ關シテハ澄田少將ト佛印軍トノ間ニ協議スルコトトナリ居レリ。

河合顧問官

然ラバ北部ノ進駐ニ付テハ行動ノ自由ガ制限サレタルモ今回ノハ斯ル制限ナキヤ。

東條陸軍大臣

北部ノハ飛行場ノ使用、軍隊ノ通過ヲ承諾セシメタルモノニシテ重慶ニ對スル作戰ヲ容易ナラシメントスル目的ヲ有スルモノナルヲ以テ今般ノ共同防衛トハ異レリ。但シ今後ハ英米カラ攻撃セラルルト支那ヨリ攻撃セラルルトヲ問ハズ本議定書ハ適用セラル。

河合顧問官

新聞報ニ依ルニ澄田少將ト佛印軍司令官トノ間ノ取極ハ

客年進駐ノ場合ト異リ至極簡單ニ成立セル趣ナルモ本交換公文ト牴觸スルコトナキヤ。

豊田外務大臣

二十一日正午ニ「ヴィシー」ニ於ケル話合成立シ直ニ澄田少將ニ訓令シ其ノ結果二十三日ニ現地取極成立セリ。

石井顧問官

表題ヨリ「領土保全」ガ落チタル理由如何。

松本條約局長

外務大臣ノ説明ニアリタル通佛側ニ於テハ佛印ノ領土保全ノ再確認ヲ強ク望メリ。最初我方ヨリ提示シタル案ノ表題ハ只今ノモノト同様ナリシモ佛側ガ議定書中ニ客年八月三十日ノ松岡「アンリ」協定ニ書カレタル日本國ノ「佛領印度支那ノ領土保全及印度支那聯邦ニ對スル「フランス」國ノ主權ノ尊重」ヲ前文中ニ謳フコトヲ要求シ其ノ結果表題ニモ「領土保全」ヲ入レタルガ最後ニ我方案ヲ承諾セルナリ。

石井顧問官

議定書第三項ニ「前記諸規定ハ、、、情勢ノ存續スル限りニ於テノミ效力ヲ有スベシ」トアル處情勢ガ存續シ

ナクナリタル時ハ諸規定ノミナラズ前文中ノ領土保全及主權尊重ニ關スル帝國ノ約束並ニ帝國ニ對抗スルガ如キ協定又ハ了解ヲ締結セザルベキ佛國ノ約束ハ雙方共解除サルルモノト解シテ可ナリヤ。

豊田外務大臣

御説ノ通諸規定ハ採用ノ動機トナレル事情ガ失ハルレバ效力ヲ失ヒ前文モ消ユルモノト了解ス。

石井顧問官

尙御訊ネシタキガ予テ我國ニハ北守南進、南守北進等種々ノ議論アリ孰レモ一理アル處今般佛印南部ヘノ軍隊派遣ハ北守南進論ノ現レト見ラルル様ナルガ此ノ大問題ニ付政府ノ方針ヲ承知シタシ。

豊田外務大臣

外務大臣就任以來未ダ十日程ニシテ個人トシテハ意見アルモ政府トシテハ明確ナル方針ヲ樹ツルニ至ラズ。先般ノ御前會議ニ於テ國際情勢ガ如何ニ動クモ之ニ應ジテ措置シ得ル如ク決定サレタル趣ニ承知シ居リ從テ今後ノ國際情勢ニ依リハツキリシタル態度ガ決定セラルルモノト了解ス。

松本條約局長

石井顧問官ノ御質問ノ第一點ニ對スル外務大臣ノ答辯ヲ補足スベシ。只今外務大臣ガ申サレタルガ如ク第三項ニ依リ「採用ノ動機トナリタル情勢」ガナクナレバ第一項及第二項ノ規定ハナクナリ從テ議定書ノ目的ハナクナリ議定書全体ハ其ノ存在ノ理由ヲ失フ。其ノ意味ニ於テ日本國ニ依リ爲サレタル領土保全及主權尊重ノ約束竝ニ佛國ニ依リ爲サレタル我國ニ對抗スル協定又ハ了解ヲ結バザル旨ノ約束ハ前文ニ在ル限りニ於テハ消滅ス。然レドモ此等ノ約束ハ夫々現ニ有效ニシテ又今後モ存續スルモノナリ。此等ノ「約束ヲ新ニシ」ト書キタルハ交渉中佛側ガ日本權利利益ヲ認ムル代リトシテ我國ガ佛印ノ領土保全及佛印ニ對スル佛國ノ主權尊重ヲ認ムルコトニ重キヲ置キタル爲此ノ機會ニ保障及政治的了解ニ關スル議定書ニ依リ爲シタル義務ヲ再確認スル意味ニ於テ掲ゲタルナリ。而テ此等ノ約束ハ議定書ノ存否ニ拘ラズ效力ヲ有スルモノナリ。

東條陸軍大臣

北守南進、南守北進ノ問題ハ帝國トシテ眞ニ重大ナル問

題ニシテ今日才答ヘシ得ザルモ要スルニ今回ノ議定書ニ基キ共同防衛ノ措置ニ出デタルハ前文ニアル如ク「現下ノ國際情勢ヲ考慮シ其ノ結果佛領印度支那ノ安全ガ脅威セラルル場合ニ於テハ日本國ガ東亞ニ於ケル一般の靜謐及自國ノ安全ガ危險ニ曝サレタリト爲ス理由アルヲ認メ」タルガ爲ニシテ政府及統帥部トシテ是非トモ必要アリトシテ執リタル措置ナリ。政府トシテハ外務大臣ノ述べラレタル如ク大体ハ適確ナル方針アリ而シテ事態ノ變化ニ應ジ之ニ適合スル様處置ヲ講スル決心ナリ。

石井顧問官

先刻ノ本官ノ質問ニ付テハ條約局長ノ説明ニテ了解セリ。即チ本議定書ニ依リ重ネテ約束セラレタルコトハナクナルモ其ノ根本トナレル客年八月三十日ノ協定及保障及政治的了解ニ關スル議定書其ノモノハ依然效力ヲ有ス。換言セバ我國ノ佛印ニ於ケル佛國主權尊重ノ義務及佛國ノ我國ニ對抗スル協定ヲ結バザル義務ハ勿論殘リ單ニ本議定書ニ依ル更新カナクナルモノト解ス。

今回ノ帝國ノ要求ニ對シ佛國政府ガ承諾ヲ與ヘタルハ寔ニ結構ニシテ若シ承諾ヲ與ヘザリシトセバ帝國ノ行動ニ

少カラズ邪魔トナリタルベシ。之ニハ多少壓迫ガ加ハリタルモノト想像サレルモ兎モ角結構ナルコトナリ。本議定書及交換公文ノ「フランス」文ハヨク出来テ居リ佛國外務省ノ文體ニ似居リ或ハ佛側ニテ案文ヲ作成シタルニ非ズヤトモ思ハル。然リトセバ佛側ヨリ進ンデ共同防衛ヲ希望シタル様ニモ思ハル。外務大臣ノ御説明ニハ佛側ニ對シ「帝國ハ斷乎タル決意」ニ基クモノナリト申入レタリト謂ハレタルガ見様ニ依リテハ右ハ或ハ壓迫トモ映リタルヤモ知レズ。御差支ナクバ如何ナル程度壓迫アリタルヤ心得置キタシ。

豐田外務大臣

本大臣ノ説明ニ使用シタル「斷乎タル決意」トイフ文句ヲ問題トセラレタル處政府ハ加藤大使ニ對シ若シ佛側ニ於テ我方ノ要望ヲ聽カザルトキハ佛國ニトリ好マシカラザル方向ニ向フカモ知レザルコトヲ暗示セヨトノ趣旨ヲ訓令シタリ加藤大使ガコレヲ如何ナル口調ニテ先方ニ傳達シタルヤニ付テハ詳細報告ナキヲ以テ不明ナリ。佛文「テキスト」ニ關シテハ説明員ヨリ御説明申上ゲシムベシ。尙十九日ノ會見ニ於テ「ダルラン」副總理ハ加藤大

使ニ對シ休戰條約ノ關係上獨伊ノ同意ナケレバ何事モ決シ得ズト答ヘタルガ之ヨリ先大島駐獨^和、堀切駐伊大使ヲ通ジ獨伊ニ對シ若シ佛側ヨリ條件ノ緩加^和方^和斡旋ヲ依頼スルガ如キコトアルトキハ我方要求ヲ其儘受入レル様勸告アリタキ旨ヲ申入レ置キタリ。十九日ニ前述ノ如ク述べナガラ二十一日正午ニ全面的受諾ヲナシ來レルニ付テハ獨側ヨリ勸告ヲ受ケタルヤモ知レザルモ獨逸ガ實際ニ「プレツシユアー」ヲ加ヘタリヤ否ヤハ判明セズ。

松本條約局長

議定書作成ノ經緯ニ付申上ゲベシ。最初東京ニ於テ日本文案ヲ作成シ之ヲ「ヴィシー」ニ電報シ右ニ依リ佛文ヲ作成シ二十一日加藤大使ヨリ佛側ニ手交セリ。之ニ對シ佛側ヨリ相當變更ヲ加ヘタル對案ヲ提示シ來レルヲ以テ更ニ我方ヨリ先方ノ希望ヲカナリ採リ入レタル第二案ヲ提出シ之ヲ基礎トシテ案文交渉ヲ行ヒタリ。當方ヨリハ案文起草ニ當リテハ出来得ル限り先方ノ希望ヲ容ルルベキ旨訓令シタルヲ以テ其ノ結果文脈ニ於テ佛案ニ近キモノトナリタルト思ハル。

有馬顧問官 質問ナシ。

窪田顧問官

議定書第三項ノ「情勢」ガ如何ナルモノナリヤ參考迄ニ伺ヒタシ。

豐田外務大臣

外務省關係ニ付テハ詳細説明員ヲシテ説明セシメタシ。

齋藤南洋局長

今次議定書作成ノ動機ト爲レル客觀情勢ニ付御説明致スベシ。先ヅ經濟的方面ニ於テハ英米ハ逐次對日經濟壓迫ヲ強化シ來リ帝國トシテ何等對抗措置ヲ執ラザルトキハ大東亞共榮圈ノ建設ハ勿論支那事變ノ解決モ困難トナリ究極ニ於テ非常ナル難局ニ陥ル虞アリ。即チ重要ナル物資ノ佛印、「タイ」ヨリノ獲得ガ妨ケラルレバ帝國ノ死活ノ問題ニシテ佛印トノ經濟協定ハ折角成立シタルヲ以テ其ノ實施ヲ確實ナラシムル要アルカ勿論「タイ」ニ對シテモ種々施策ノ要アリ。先般ノ調停會議ノ成功ハ「タイ」ニ對スル我國ノ立場ヲ有利ニハシタルモ猶一層努力ヲ要ス。政治的方面ニ於テモ英米ハ蘭印、蔣政權等所謂A、B、C、D線ヲ描キ帝國ノ南方進出ニ備フル包圍陣ヲ形成シ佛印、「タイ」ヲモ捲込マント劃策シツツアリ

之ニ對シ適切有效ナル自衛措置ヲ講スル必要迫リ居レリ。

豐田外務大臣

右ノ如キ判斷ヲ下スニ至リタル各種ノ情報ヲ有スルヲ以テ御希望ナラバ後刻詳シク申上クベシ。

石塚顧問官

政府側御答辯ヲ伺ヒ居ル中ニ段々明白トナリ來レルモ二、三未ダ觸レラザル點ニ付御訊ネシタシ。我國ト佛印トノ關係ハ調停、經濟協定以來頓ニ緊密ヲ加ヘタルモ之ガ爲關係第三國ヲ刺戟シ此等第三國ノ種々ノ策動ヲ誘發シタリ。調停及經濟協定ノ實行ニ關シ不安ヲ抱キ居レルトコロナルヲ以テ本議定書ハ當然ノコトトシテ全面的ニ贊意ヲ表スル次第ナリ。今日迄外交ハ順調ニ進ミ來レルモ將來ニ對スル方案アリヤ。今日ノ狀態ハ支那事變ガ出發點トナリ各方面ニ擴リ「ヨーロッパ」戰爭トナリ獨「ソ」開戦トナリ世界情勢ハ一層我國ニ影響スル如クナレリ。佛印トノ關係ハ結構ナルモ之ニ對シ英米ハ默視セザルベク結局如何ナルヤニ付國民ハ懸念ヲ抱キ居レリ。今次ノ大規模ナル動員ハ已ムヲ得ザルヤモ知レザルモ一方國民ノ犠牲ハ避ケラレズ。故ニ一定ノ方針ヲ以テ進ミ

英米が如何ナル手ニ出ヅルカヲ見極メテ事ヲ爲ス要アリ。前途ヲ考フルニ憂慮ニ耐エズ。其ノ結果ハ國民ヲ苦シムルナリ。政府ハ重大ナル責任ヲ有スルガ將來ニ對シ確信アリヤ。

豐田外務大臣

今回ノ處置ハ議定書前文ニアル通佛印共同防衛ガ主眼目ナルモ當面ノ問題タル支那事變解決ノ目的ヲモ有ス。現在蔣政權ニ對スル援助ハ主トシテ南方「ビルマ、ルーツ」ヨリ爲サレツツアル處今回ノ佛印進駐ハ「ビルマ、ルーツ」ニ對シ大ナル脅威ヲ與フルモノナリ。又佛印ニ於テモ蔣政權ガ策動シ支那事變ノ完遂ヲ阻碍シ居タルガ之ヲ徹底の二斷壓シ得ルコトナリ國民政府ノ育成強化ニ資スルコトナレリ。又南部佛印ニハ約四十萬ノ華僑アリ此等華僑ハ從來蔣政權ニ依リ動カサレ居リタルガ彼等ヲ我方ニ手馴ケレバ「タイ」ニ居ル多數ノ華僑ヲモ同調セシムルコトモ可能ナリ。英米ノ今後ノ出方ニ關シ先ヅ目下進行中ノ英米蘭支ノ軍事協力ガ更ニ強化セラルルコトガ想像セラル。英國ハ「シンガポール」方面ノ防備ヲ強化シ「タイ」ニ對スル反日工作ヲ激シクスベシ。尤

モ「タイ」ニ關シテハ我軍ノ佛印南部進駐ニ依リ却テ安心シ居ル模様ナリ。次ニ米國ニ於テハ我資産ノ凍結、重要物資ノ輸出禁止制限ヲ行ヒ更ニ我船舶ニ對スル壓迫ガ豫想サル。但シ斯ル事態ハ今回ノ處置ガ執ララルト否トニ拘ラズ發動シタルナルベシ。軍ノ行動ハ本大臣ヨリ申上グルコトハ避ケタキモ今回ノ處置ハ已ムヲ得ザル自衛措置ナリ。

東條陸軍大臣

本議定書ノ出發點ニ付テハ先刻申上ゲタル通一定ノ方針ノ下ニ行ハレタルモノナリ。佛印派兵ハ六月二十五日ノ大本營政府連絡會議^(ママ)ニ於テ決定御親裁ヲ經タルガ次デ七月二日ノ御前會議^{編註}ノ決定ニ於テ本件ヲ含ミタル現下ノ情勢ノ下ニ於テ帝國トシテ如何ナル措置ヲ執ルベキヤガ決定セラレ其ノ大ナル決定ニ基キ行ハレタル一措置タルコトヲ御承認願ヒタシ。現在ノ事態ニ於テ如何ニシテ事變ヲ急速ニ解決スルヤ、歐洲戰爭ノ推移、獨「ソ」戰ノ經過ガ如何ニ極東ニ影響ヲ及ボスヤ、英米ノ今後ノ動向如何、又豫期セラルル所ノ東亞ニ對スル三國條約ノ發動ヲ何時行フヤニ關シテハ政府統帥部共慎重考慮シ之ニ對ス

ル施策ヲ適切ニ行ヒツツアリ。今回ノ措置ハ御前會議ニ於テ決定シ居リ現在ハ之ニテ十分ナリト思考ス。今後ニ付テハ事態ノ變化ヲ注視シ得ル樣準備ヲ整ヘ居レリ。勿論之ニハ自國ノ安全、自國ノ發展ヲ基トシテ爲スベキコトハ十分ニ承知シ居リ又凡テノ準備ヲ爲スニ付テモ現在ノ國內ノ狀態ヲ十分斟酌シテ行ヒタルモノナルコトヲ申上ゲタシ。世界情勢ノ變化ハ新聞ニテ御覽ノ通今日ヲ以テ明日ヲ推シ得ズ。此ノ事態ニ善處スル爲政府及統帥部ハ殆ド毎日宮中ニ於テ施策ヲ練リ居リ之モ併セテ御耳ニ入レ置キタシ。

石塚顧問官

只今ノ御答辯ニテ十分満足セリトハ申兼ヌルモ大体了解セリ。先刻石井顧問官ヨリ北守南進、南守北進ニ付オ訊ネアリタル處以前ハ此ノ兩者ヲ分離シ得タルモ現在ニ於テハ獨「ソ」開戦トナリ英米ガ「ソ」聯ヲ援助シ居リ此ノ兩者ハ不可分トナレリ。本件ニハ直接關係ハナキモ「ソ」聯トノ間ニハ種々ノ懸案ガ未解決ノ儘殘リ居リ通商條約モ成立シ漁業條約交渉モ有望視サレタルモ獨「ソ」開戦ノ爲頓座^{挫カ}セリ。「ソ」聯ハ對獨戰爭中ナルモ懸

案解決ノ余裕アルニ相違ナク此ノ機會ヲ利用シテ一氣ニ解決スベキモノト思フモ此ノ點ニ付政府ノ所見ヲ承リタシ。

豐田外務大臣

第一點ノ北モ南モ同ナリトノ御説ニハ同感ナリ。今後ノ對外施策ニ付兩者ヲ切離シテ考フルハ間違ナリト思考ス。第二點ニ關シ日「ソ」中立條約成立以後ノ各般ノ條約交渉ハ全部中斷シ居レリ。之ヲ再開スルコトハ考ヘ居ルモ茲ニ注意ヲ要スルハ三國條約ト中立條約トノ關係ナリ。右ニ關シテハ前外務大臣ヨリ説明アリタルガ本大臣ハ右關係ヲ慎重再檢討シタル上結論ヲ抽出シタク今暫ク余裕ヲ與ヘテ頂キタシ。素ヨリ今日ノ情勢ニ於テハ余リ余裕ナキモ成ルベク其ノ方面ニ於テ手ヲ打チタシト考ヘ居レリ。

清水顧問官 質問ナシ。

南顧問官

總理大臣ニ伺ヒタシ。先刻ヨリ陸軍大臣ハ大本營政府連絡會議決定及御前會議決定ニ屢々言及サレタル處若シ此等決定ノ大綱ニテモ承ルコトヲ得ルニ於テハ本案ヲ考フ

ル上ニ甚ダ參考トナルベシ。

近衛總理大臣

其ノ内容ハ嚴密ナル國家機密ナルヲ以テ機密ヲ守ラルル
條件ニテ御知ラセスベシ。

東條陸軍大臣 六月二十五日連絡會議^(ママ)決定及七月二日御前
會議決定ヲ朗讀ス(省略)。

南顧問官

御前會議ノ決定ト佛印派兵トノ關係ヲ右ニテ明瞭ニ理解
セリ。御前會議ノ決定ニ基キ行ハレタルモノナルコトヲ
伺ヒ置クニ止ムベシ。尙總理大臣ニ伺ヒタキガ民間ニ於
テハ三國條約ノ許ス範圍内ニ於テ米國ト話合ヲ進メ居レ
リト噂シ居ルガ右ハ事實ナリヤ否ヤ之亦本案ヲ考フル上
ニ重要ナルヲ以テ斯ル事實ノ有無ノミニテモ承リタシ。
近衛總理大臣

日米國交調整ニ付テハ前內閣以來最モ熱心ニ之ヲ希望シ
居ルガ交渉ノ具體の内容ニ關シテハ未ダ申上グル域ニ達
シ居ラズ。

南顧問官

夫ヲ聽キテ安心セリ。其ノ方向ニテ充分ニ御活動アラン

コトヲ希望ス。

(晝食ノ爲休憩)

午後一時半再會

南顧問官

議定書末文ノ日附及署名ハ「ブランク」ナル處未ダ署名
調印前ナルヤ。

豐田外務大臣

然リ。

南顧問官

然ラバ御裁可ヲ經タル上其ノ趣ヲ通達シ署名セシムルヤ。

豐田外務大臣

然リ。

南顧問官

然ラバ二十六日ノ聲明トノ關係如何。聲明ニハ「意見ノ
一致ヲ見タリ」トアル處未ダ正式ノ手續ヲ履ミ居ラザル
ニ非ズヤ。

松本條約局長

二十一日正午ニ政府間ノ了解ハ成立セルモ正式ノ文書ニ
依ル確認ハ本議定書ノ調印ニ依リ行ハルルナリ。「意見

ノ一致ヲ見タリ」ト謂フハ本議定書ノ基礎^(礎カ)トナレル共同防衛ニ付兩國政府間ニ意見一致シタルコトヲ指スナリ。

南顧問官

調印前ニ意見一致セリト外部ニ發表シタルハ穩ナラズ。

然レドモ手續中ニ發表セラレタルニハ何等カ理由アリヤ。

豐田外務大臣

御承知ノ通本件ニ關シテハ第三國ニ於テ種々風評アリ恰モ我國ガ武力ヲ以テ進駐スルカノ如キ印象ヲ與ヘタリ。殊ニ米國ニ於テハ斯ル誤判斷ノ下ニ帝國ノ措置ヲ公正ナラザルモノト見タリ。斯ル情報ガ頻々ト入りタルト一方軍ノ準備モ完了シ居リタルヲ以テ今回ノ進駐ガ平和的且防衛のノ共同動作ナルコトヲ公ニ知ラス必要アリタルヲ以テ發表スルコトトシタルナリ。獨伊大使ニハ二十四日英米大使ニハ二十五日本件話合成立ヲ内報シタルガ其ノ程度ニテモ其ノ結果トシテ米國ハ御承知ノ如キ態度ニ出デタリ。我軍上陸前ニ斯ル方法ヲ執ラザリシトセバ米國トシテ更ニ如何ナル措置ヲ執レルヤハ想像ニ余アリ。

南顧問官

只今ノ御説明ニテモ納得シ難シ。二十五日ニ英米ニ通報

シ殊ニ獨伊ニハ事前ニ通報シタルノミナラス協力ヲモ求メタル趣ニテ又二十六日ノ聲明ハ遺憾ナリ。之ハ要スルニ見解ノ相違ナレバ之以上議論ハ差控フベシ。

豐田外務大臣

殊ニ佛側ハ故障ナク日本軍ヲ進駐セシムルニ必要ナル措置ヲ執ル爲速ニ發表センコトヲ希望シタリ。

南顧問官

佛印ニ對スル關係ニ於テ急ギタル事情ハ稍々了解セルモ各國ニ對スル關係ニ於テハ本官ハ依然御説明ニハ満足シ得ズ。

次ニ石塚顧問官ヨリ既ニ質問アリタルカ英米ニ如何ナル影響ヲ及ボシタルヤ。二十二日ノUP「ロンドン」電ニ據レバ本件ニ關シ既ニ「ワシントン」ニ於テ英米カ協議シ完全ニ意見一致セリトアルカ右ハ果シテ事實ナリヤ。協議ノ内容カ判明シ居ルニ於テハ伺ヒタシ。

豐田外務大臣

右ニ關シテハ何等承知セズ。

南顧問官

「タイ」國ニハ佛印南部ノ「ド、ゴール」派ノ如キモノ

ハ存在セザルモ同國ニ對シ英國ハ策動シ居ルヘク從テ同國ニ對シテモ佛印ニ對シテ爲シタルト同様ノ申込カ爲サレテ然ルヘキヤニ思考セラルルカ如何。未タ「タイ」國ニ對シテハ交渉ヲ行ヒ居ラザルヤ交渉ヲ行ハズトセバ如何ナル理由ニ依ルヤ。

豐田外務大臣

軍事協力ノ如キ申込ヲ爲シタリヤ否ヤトイフ御趣旨ナリヤ又共同防衛ノ如キ申込ヲ爲シタリヤ否ヤトノ御趣旨ナリヤ。

南顧問官

佛印ニ對スルト同様ノ申込ヲ爲シタリヤ否ヤト伺ヒ居ルモノニシテ其ノ骨子ハ共同防衛ナリ。

豐田外務大臣

事ニハ自ラ順序アリ。日本ノ防衛、東亞ノ安寧ノ見地ヨリ先ツ手近ニシテ而テ斯ル脅威ヲ最モ感スル所ヨリ始ムベキニテ今後「タイ」ニ付テモ同様ノ事態トナラバ其ノ時ニ考ヘテヨシト思考ス

南顧問官

其ノ點ニ付テモ御説明ニハ満足シ兼ヌ。「タイ」國ニ對

シテモ同様ノ提議ヲ爲ス意思アリヤ或ハ又今日ノ所其處迄ハ考ヘ居ラレザルヤ。

豐田外務大臣

我軍進駐ニ依リ佛印ノ治安維持ハ勿論第三國ノ脅威ヲ妨キ得ルハ素ヨリ佛印ヘノ進駐ハ直ニ「タイ」國ニ反映スルモノト思ハル。

南顧問官

ヨク了解セリ。「タイ」國ニ對シ提議ヲ爲サレザル全面のノ理由トシテハ不可ナルモ部分的ノ理由トシテハ尤モナリ。佛領印度支那ハ佛印全体ヲ指スヤ。

齋藤南洋局長

直轄植民地タル交趾支那、四保護領及租借地タル廣州灣ヲ含ム。

南顧問官

佛領印度支那聯邦トノ差異如何

松本條約局長

廣州灣ヲモ含ムコトヲ明ニシタルナリ。

南顧問官

「情勢」ノ意義ニ關シ英米ヨリ經濟壓迫ヲ受ケ其ノ結果

佛印其ノ他ヨリノ必要物資獲得ガ妨ゲラルルコトモ情勢ノ中ニ入ルトノコトナルモ其ノ字義ヲ明ニスル要アリ。

豊田外務大臣

「情勢」トイフ漠タル字ヲ用ヒタル所ニ此ノ議定書ノ面白味アリ。個々ノ問題ヲ掲ゲ夫レガ消滅シタルトキハ議定書ガ失效スルトスルハ却テ議定書ノ意義ヲナクスモノナリ。又斯ルコトヲ議論シテ居リテハ判底間ニ合ハズ一方話ガ永ビケバ英米ノ策動ニ好都合トナリ種々ナル事情ニ支配セラレ漠然トシ置キタルモノト了解ス。

南顧問官

同感ナリ。我國ノ爲ニモソウアルベキモノト思考ス。

「現下ノ國際情勢ニ鑑ミ、、、、脅威セラレタリト爲ス理由アルヲ認メ」トアリ之ト相對應シテ「情勢」ハ解釋セラルベキモノト思考ス。「情勢ガ存續スル限りニ於テノミ效力ヲ有スベシ」トハ日佛協議ノ上存續スベキヤ否ヤヲ決定スルモノナリヤ。誰ノ意思ニ依リ決ルモノナリヤ明瞭ナラザルガ如何。

豊田外務大臣

結局ハ兩者ノ意見ガ一致スルヲ要ス。コノ點モ餘リ細ク

議論スルコトハ後日ノ禍トナルベシ。

南顧問官

御尤ナリ。交換公文ニ「南部佛印」トアル處北部ト南部トノ限界如何。

齋藤南洋局長

南部佛印トハ「カムラン」灣ヨリ「サイゴン」ニカケテノ地域ヲ指スモノナリ。

南顧問官

先程陸軍大臣ノ御説明ニ依レバ北部モ南部モ共同防衛ノ見地ヨリ一人ノ司令官ヲ置キ統轄スルトノ趣ナルモ斯ルコトハ可能ナリヤ。

東條陸軍大臣

一應御尤ナル御疑問ナリ。北部ニ關シテハ客年ノ協定ニ依リ飛行場使用及軍隊通過ノ權利ガ設定セラレタルガ今次協定ニ依リ南部ニモ兵力ヲ置キ得ルコトトナリタリ。兩者ハ目的ハ異ルモ共同防衛トイフ點ニ於テハ一ナリ。故ニ作戰ノ任務ヲ如何ニスルヤハ目的トハ別問題ナリ。

南顧問官

飛行場ハ掲ゲアルモ陸軍ノ進駐シ得ルハ何レノ場所ニテ

モ宜敷キヤ。

東條陸軍大臣

飛行場、港灣基地ハ明記サレアルモ軍隊ガ何處ニモ進駐シ得ルハ共同防衛ノ性質上當然ナリ。

南顧問官

「自由圓」トハ如何。

原口爲替局長

日本圓ヲ先方ニ積ミ先方希望ノ通貨ニ換へ得ル如キ圓ヲ謂フ。

南顧問官

自由圓ヲモツテ支拂ヲ計算スル譯ニハ行カザリシヤ。

原口爲替局長

細目協定ニ際シテハ仰セノ如ク取計ヒタキ所存ナリ。

南顧問官

西原「マルタン」協定ハ此ノ席上ニテ受領シタルバカリナレバ讀ム暇ナカリシヲ以テ「諸制限」ノ内容ヲ説明アリタシ。

東條陸軍大臣

後刻説明員ヲ呼ビテ御説明申上ゲシムベシ。

奈良顧問官

軍隊等ノ「必要數」ハ我方ニ於テ決メ得ルモノト考へ居ラルル如キモ經費ノ上ヨリ制限ヲ受クルコトトナルベシ。

東條陸軍大臣

此處ニ掲ゲラレタル通貨ノ額ハ現ニ佛印ニ在ル軍隊ノ經費ヲ基礎トシテ割出シタルモノナリ。

奈良顧問官

共同防衛ノ爲軍事行動ヲ爲ス場合ニモ制限ヲ受クルヤコノ場合ニハ金ノコトハ考ヘテ居ラレヌト思フガ如何。

原口爲替局長

何故協定中ニ「ピアストル」貨ノ金額ヲ掲ゲタリヤニ關シテハ當時軍ノ方ヨリ相談アリ兵士ノ給料以外ハ軍票ヲ使用セザルコトニ一致シタリ。何トナレバ兵士ノ給料ハ軍票デ支拂フモ大部分内地ニ返ルニ反シ勞力、材料等ニ對スル支拂ハ返リ來ズ。但シ右金額ニ依リ何等兵力ノ制限ヲ受クルモノニ非ズ。

奈良顧問官

來年ハ如何ニナルヤ。

東條陸軍大臣

來年モ駐屯ノ必要アラバ其ノ時話ヲセバ可ナリ。又金ニヨリ行動ノ制限ヲ受クル心配ナシ。

奈良顧問官

交換公文ハ御諮詢アリタル案件トセバ返却セヨトハ無理ニ非ズヤ。

堀江書記官長 松本條約局長ト相談ノ上祕密嚴守ヲ條件トシテ返却ノ要ナキ旨述ブ。

荒木顧問官 質問ナシ。

菅原顧問官

段々ノ御説明ニ依リ大体了解セリ。兎モ角之ダケノ協定案ニ付佛側ヲ承諾セシメタルハ外交上、軍事上大成功ナリ。(一)西原「マルタン」協定ハ條約トシテノ正當ナル形式ヲ有スルモノナリヤ否ヤ。本官ハ條約トシテハ正式ノ效力ヲ有セザルモノト思フモ交換公文ニ依レバ效力ヲ認メラレ居ル如ク見エ其ノ點甚ダ不明確ナリ。(二)通貨ニ關シ支拂ノ際先方ニ選擇權ヲ認メタルハ不可ナリ。我方ガ選擇スルカ少クトモ協議スルコトトシテハ如何。又「自由圓」トハ何時頃ヨリ使ヒ始メタルヤ。

豐田外務大臣

第一問ニ付才答ヘスベシ。西原「マルタン」協定ハ松岡「アンリー」協定ニ基礎ヲ置ク純粹ノ軍事協定ニシテ國際條約ニ非ズ。

菅原顧問官

然ラバ右ヲ交換公文ニ定ムル必要ナキニ非ズヤ。

松本條約局長

西原「マルタン」協定ハ松岡「アンリー」協定ニ基キ先方ノ司令官ト西原少將トノ間ニ結バレタル統帥權ニ基ク純粹ノ軍事協定ニシテ之ヲ政府間協定ニ引用セルコトニ疑念アル如キモ今回モ交換公文第三項ニ「細目ハ現地ニ於ケル日佛軍當局間ニ協議決定セラルベシ」トアリ現地交渉モ妥結ニ達シ居ルガ右交渉ヲ爲スニ當リ西原「マルタン」協定ノ制限ヲ撤廢スル趣旨ニテ同協定ハ内容ハ軍事協定ナルモ重要事項ナルヲ以テ進駐ノ大綱ヲ定メタル交換公文ニ謳ヒタルナリ。

菅原顧問官

只今ノ説明ニハ釋然トセズ。同協定ハ軍事協定ニテ條約ニ非ズ從テ御諮詢ノ客体トナリ得ズトノ見解ハ果シテ正解ナリヤ。

東條陸軍大臣

條約ニ基礎ヲ置キテ統帥ノ行爲トシテ爲サルル協定ハ諮詢事項ニ非ズ。

菅原顧問官

政府ノ御見解ガ然リトイフコトノミヲ承リ置ク。

石塚顧問官

現地ニ於ケル軍ト軍トノ間ノ協定ハ統帥事項ナルヲ以テ本官ハ同協定ガ御諮詢ニナラザリシハ當然ト考ヘ居タリ。
東條陸軍大臣

條約ニ依リ共同防衛ノ責任ガ生ジタリトセバ之ハ當然統帥事項ニシテ其ノ範圍内ニ於テ出先軍司令官ト先方ノ軍司令官ガ結ブ協定ハ軍事協定ナリ。

二上顧問官

本院ノ權限ニ關スル問題ニ付問答アリタルカ本官ノ了解スル所ト大分見當ガ違ヒ居ルヲ以テ本官ノ意見ヲ述ベテ之ニ對スル諸賢ノ御見解ヲ伺ヒタシ。今次協定ニ依リ一部廢止セラルコトトナリタル西原「マルタン」協定ハ純然タル軍司令官間ノ軍事ニ關スル合意ニ非ズ右ハ松岡「アンリー」間往復文書ニ基クモノナリ。同文書ハ緊迫

セル事情ニ因リ御諮詢ニナラザリシモ兎ニ角條約トシテ成立セリ。之ニ基キテ成立セル軍司令官間ノ合意ナルヲ以テ純然タル第一線ノ軍司令官間ノ合意ニ非ズシテ今回ノ交換公文ト内容ニ變リナク同性質ノモノト思考ス。依テ本交換公文ヲ以テ西原「マルタン」協定ノ一部ヲ廢止シ得ルコトハ當然ナリ。

石塚顧問官

其ノ點ハハツキリシテ置キタシ。本官ハ司令官同志ノ間ノ協定ハ總テ御諮詢ニハナラザルモノト考ヘ居タリ。

二上顧問官

尙爲念申上グルモ、松岡「アンリー」協定ニハ委任條項アリ依テ西原「マルタン」協定ハ條約ノ性質ヲ十分ニ有シ居リ從テ一ノ條約ヲ以テ他ノ條約ヲ廢止スルハ可笑シカラズ。

松本條約局長

西原「マルタン」協定ハ松岡「アンリー」協定ナル外交文書ニ基キ軍事當局間ニ結ビタル協定ニシテ其ノ意味ニ於テ委任ヲ受ケ居ルモノト謂ヒ得ルモ性質ハ軍事協定ナリ。

南顧問官

此ノ點ニ付本官ハ事實ヲオ訊ネシタシ。軍事協定ナルヤ條約ナルヤハ樞密院ノ權限ニ關スル問題ナリ。二上顧問官ノ御説明ニ依レバ總理大臣ハ之ニ付本院ニ辯明サレタル由ナルガ右ガ事實ナラバ軍事協定ナラザルコトガ明瞭ナリ。書記官長ニ斯ル事實アリタルヤ否ヤ伺ヒタシ。

鈴木委員長

今日既ニ兵ヲ出シ居リ緊急ナリ。右ハ重要ナル事項ナルモ我々モ亦緊急ニ處スル様シテハ如何。議論ノ點ハユツクリ交渉サレレバヨク今日ハ今日ノ問題ヲ速ニ解決サレタシ。

南顧問官

事實ノ調査ハ後デ考ヘテヨカルベシ。

松浦顧問官

質問ナシ。

潮顧問官

議定書第三項ノ有効期間ニ付テ南顧問官ガ雙方ガ情勢上必要ナシトノ意見一致セザルトキハ存續スルコトトナルモノト思フト述ベラレタルニ對シ外務大臣ハ肯定トモ否

定トモ取ルル御答ヘヲ爲サレタルガ其ノ場合ニハ寧ロ存續セザルモノトモ解セラルルガ如何。

豐田外務大臣

佛側トシテハ成ルベク早目ニ止メタシト思ヒ居ルナルベク之ニ反シ我方ハ成ルベク永ク居リタシト考ヘ居リ從テ此ノ點ハハツキリシ置カザル方ガ好都合ナリ。

林顧問官 質問ナシ。

深井顧問官

大藏大臣ニ伺ヒタキカ本協定ニ依リ軍事行動力擴大シ又獨「ソ」關係一變ノ結果豫算ノ追加要求ヲ爲ス必要ニ迫ラレ居ルニ非ズヤ。

小倉大藏大臣

軍事費ハ自然増加スルモノト思ハルルカ差當リテハ追加要求ハ考ヘ居ラス。

深井顧問官

軍事行動ノ擴大ニ從ヒ財政計劃及物資計劃ヲ如何ニ行ハルルヤ政府ノ御決心ヲ伺ヒタキモ長クナルヲ以テ夫ハ他日ニ譲リ總括シテ一ツ伺ヒタシ。昨年ノ何時頃ヨリカ記憶ハセザルモ經濟至上主義ヲ止ムルコトカ政府ノ方針ナ

リトイフコトカ傳ヘラレタル處字義ヨリ謂ハバ經濟至上トイフコトハ在リ得ザルコトナルモ殊更之ヲ言ヒ出シタルハ其ノ含蓄トシテハ國策決定上經濟事情ヲ考慮セズ又ハ考慮スルモ極メテ輕微ニシカ考慮セズトイフ風ニ思ハル。右ハ經濟人、財閥(株式、事業家)カ損ヲスルトイフ意味ニ非ズシテ國民ノ生活カ苦シクナルコトヲ意味ス。然ラズシテ經濟問題ニ依然重キヲ置ク御考ナリヤ。

近衛總理大臣

斯ル誤解カ存スルハ寔ニ殘念ナリ。客年以來國策遂行ニ當リ我々カ常ニ考ヘ居ルハ國力ノ限度ニシテ之ト睨合ハセテ國策ノ立案遂行ニ當リ來レリ。先刻石塚顧問官モ大變心配サレタルモ要スルニ北進ニセヨ南進ニセヨ本大臣ハ平和的經濟的ニ爲サネバナラズト思考ス。世間ニテハ武力進出ヲ考ヘ居ルモ武力進出ニ付テハ決シテ國力ヲ無視シ居ラズ。民間ニテハ國力ヲ無視シテ爲シ居ルカ如ク噂シ居ルモ之ニ對シテハ政府トシテモ斷乎トシテ臨ムベシ。

深井顧問官

御答辯ニ満足セリ。

二上顧問官

若干了解セヌ點ニ付伺ヒタシ。第一ハコノ案ノ性質ニ關シテナルモ帝國政府ノ聲明ハ二十六日發表アリ又現地ニ於ケル軍司令官間ニ何等カ合意成立シ本日我軍ハ進駐ヲ開始セル趣ニテ本件ハ爾後承諾ヲ求メラルルヤノ疑ヲ生ズルモ本院ニ於テハ斯ルコトハアリ得ザルヲ以テ爾後承諾ニ非ルコトハ明瞭ナリ。先刻ノ御説明ニ依レバ本件御裁可後調印ノ訓令ヲ發セラルル趣ナルガ訓令ノ日ヲ本議定書ノ日附トスルヤ或ハ又話合成立ノ日ニ邇ルモノナリヤ。

松本條約局長

本件ハ爾後承諾ヲ求ムルモノニ非ズ。本日本院ニ於テ可決上奏御裁可ヲ得ラルルモノトセバ直ニ「ヴィツシー」ニ電報スベク從テ日附ハ本日又ハ明日トナルベシ。

二上顧問官

新聞ニハ國際手續ハ濟ミ國內手續ガ残り居ル様ニ書キ居ルモ國內手續完了前ハ條約トシテ成立セズ。勿論新聞ハ物ヲ知ラズニ書キ居ルモノニシテソウナラ安心ナリ。次ニ内容ニ關シ南部佛印トハ先刻説明員ヨリ「カムラン」

灣ヨリ「サイゴン」ニカケテノ地方ヲ指スト述べラレタルモ「トンキン」ヨリ見テ南ノ方全部ト解シ得ザルヤ。

松本條約局長

心持ハソウ解釋サレテ差支ナシ。

大島顧問官

質問ナシ。

小幡顧問官

蔣政權ト英米トノ間ニ軍事協定成立セリトカ、「ビルマ」方面ニハ二萬以上ノ蔣軍が存在スルトカ、「タイ」國境ニ英國ノ要求ニ依リ蔣政權ハ軍ヲ出シタリトカ新聞ニ報セラレ居リ之ハ重大事ニシテ將來ノ發展如何ニ依リテハ我國モ大ナル脅威ヲ受クルコトトナルガ之ニ關シ正確ナル情報ヲ入手シ居ラルルヤ否ヤ。

東條陸軍大臣

(一)英米支三國協定(二)英支遊撃隊合作(三)「ビルマ、ルー^(英カ)ト」ノ管理補足(四)米支空軍合作等ニ關シ有スル情報ヲ傳ヘスベシ。(一)英米支三國協定——郭大使ガ英外相ニ對シ蔣ノ意圖トシテ軍事協力ヲ申入レ昆明防禦ニ英空軍ノ助力ヲ求メタルモ英外相ハコレ以上支那ニ於ケル協力ヲ強

化スルコトハ困難ナリト答ヘタル趣ナリ。六月下旬ニ「シンガポール」ニ於テ英支陸軍會議開カレ支那側武官モ出席シ英米支間ニ會議ヲ行ヒ郭外交部長ヨリ祝電ヲ發シ居リ三國協定ハ實現可能ノ方向ニ推移シツツアリ。(二)英支遊撃合作——本年三月中旬以來英支間ニ「ゲリラ」戰合作ヲ行ヒ十五個中隊ヲ編成シ英國側ガ指導ニ當リ居ルコトハ確信シ居レリ。(三)「ビルマ」公路ノ管理補足——英國ハ「ビルマ」路ノ管理ニ協力シ其ノ防衛ノ爲支那「ビルマ」國境方面ニ支那軍ヲ配備シ居レリ。(四)英支空軍合作——合辦航空會社ヲ作り「ビルマ」内ニ格納庫ヲ建設シ英國ヨリ戰闘機約百機ヲ支那ニ讓渡シ「ビルマ」經由輸送ヲ考ヘ居レリ。又米國ハ五千萬弗ノ對支輸出借款中ヨリ飛行機提供ヲ爲シツツアリ。

小幡顧問官

我軍ニ於テ遺憾ナク準備セラレ居ルコトヲ確信シテ之以上質問セズ。本官ハ本院ノ或委員會ノ席上前外務大臣ニ對シ三國同盟ノ結果生ズル日米開戰ノ場合年額一千萬圓内外ノ米ノ輸入ノ輸送ヲ脅カサルルコトナキヤト質問シタルニ對シ同大臣ヨリ統帥部ニ於テモ十分關心ヲ以テ研

究中ナリト答辯サレタルガ今日圖ラズ本議定書ニ於テ南部佛印ニ少カラサル航空基地及海軍根據地ヲ得タルコトヲ知リタルガ此ノ機會ニ於テ輸送ハ斷ジテ脅威ヲ受ケズトノ確言ヲ與ヘラレタシ。

及川海軍大臣

仰セノ通右ハ何トシテモヤラネバナラス事ト思考ス。

竹越顧問官

本件ハ「アックコンプリシト、ファクト」ナルヲ以テ個々ノ質問ハ欲セズ。外交ニ付質問シタキコトアルモ他日ニ讓ルベシ。

三土顧問官 質問ナシ。

伊澤顧問官 質問ナシ。

東條陸軍大臣

西原「マルタン」協定ニ規定セラルル制限ニ付係官ヨリ説明セシムルコトト致シタシ。

石井中佐(軍務課支那班)

西原「マルタン」協定ニハ主要項四アリ。東京州ノ數個ノ航空基地ノ使用。日本軍駐屯。對支作戰ノ爲ニスル日本軍ノ東京州通過。日本軍進駐(海ヨリスルモノ及陸ヨ

リスルモノ)ニ關スル事務的制限ノ四者ナリ。以上四者ニ付加ヘラレ居ル制限ハ今般ノ交換公文ニ依リ廢止サルルモノナリ。廢止サルル制限ノ例ヲ擧グレバ(イ)日本軍ハ海防ニ入ツテハナラストノ制限(ロ)日本軍ノ行動區域ハ紅河以北ニ限ルトノ制限(ハ)對支作戰ニ利用シ得ル地點ノ制限(ニ)日本軍ノ利用シ得ル交通線ノ制限ノ如キモノナリ。(尙菅原顧問官ヨリ同協定ニハ日本軍ノ兵數ヲ二萬五千ト限定シ居レルガ、右制限モ撤廢サレタリトノ解釋ナリヤトノ質問ヲ爲シ、石井中佐ヨリ軍トシテハ左様心得居レリト答辯ス)

右ニテ質疑應答ヲ終リ政府側退席ス。

樞密院本會議議事録

日時 昭和十六年七月二十八日 午後四時四十五分ヨリ

宮中東溜ノ間ニ於テ

外務省側説明員 松本條約局長、齋藤南洋局長

委員長ヨリ審査ノ結果ヲ報告、本議定書ノ締結経緯及内容ノ概略ヲ述べタル後本件ハ緊迫セル國際情勢ニ鑑ミ佛領印度支那ニ關シ日佛間ニ共同防衛ヲ爲サントスルモノニシテ

帝國ノ自衛上機宜ノ措置ト認メ之ヲ可決セラルベキモノト
全會一致議決セリト述べ直ニ採結全會一致可決セリ。

編 注 『日本外交文書 日米交渉——一九四一年——』上巻第86

文書。

794 昭和16年7月28日 豊田外務大臣より
在仏国加藤大使宛(電報)

仏印共同防衛に関する日仏議定書調印方および
軍事上の協力に関する公文交換方訓令

本省 7月28日後7時30分発

第三二九號(大至急、館長符號扱)

往電第三三〇號ニ關シ

本二十八日樞密院本會議ニ上程可決直ニ御裁可アリタルニ
付至急議定書ノ署名調印及公文ノ交換ヲ行ハレタシ調印ノ
日時及日佛文ニ於ケル署名振併セテ電報アリタシ

795 昭和16年7月28日 在タイ二見公使より
豊田外務大臣宛(電報)

タイが第三国への軍事基地ないし軍事的便宜
を提供した場合は英タイ不可侵条約を無効と
認めると英国がタイ政府へ通告について

バンコク 7月28日発
本省 着

第四五四號

「ビブ」内報ニ依レハ二十六日「クロスビー」ハ「ビブ
ン」ヲ訪問本國政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ左記通告セル由
「若シ「タイ」政府カ第三國ニ對シ軍事基地ヲ提供或ハ軍
事上便宜ヲ許容スル場合ハ英「タイ」間ノ不可侵條約ハ無
效ト認ム」

796 昭和16年7月29日 在ハノイ林総領事より
豊田外務大臣宛(電報)

日本軍の南部仏印進駐が平穩裡に開始された
ことを伝える仏印新聞発表につき報告

ハノイ 7月29日後発
本省 7月30日前着

第二八二號

二十九日新聞發表左ノ通り

(一)日本軍ハ二十八日朝「ニヤトラン」ニ於テ極メテ規則正シク且平穩裡ニ上陸ヲ開始セリ尙協定ニ依リ日本軍ハ「ニヤトラン」「ツーラン」「ベノア」西貢「ソクトラン」「コンポントラク」「シエムレエプ」ノ飛行基地ヲ利用シ得ルモ何時使用サルルヤ目下不明ナリ

(二)澄田少將總督間ニ現地交渉二十三日开始セラレ同日午後八時友好裡ニ協議纏マレリ

(三)新協定ノ内容ハ日本軍ニ安南南部、交趾支那及「カンボジア」ニ於ケル陸海空ノ基地使用ヲ認ムルニ在リ右日本軍ハ佛印ノ外敵ヲ防ク二十分ノ人員ト資材トヲ兼備ス
(四)英米ノ對日資金凍結及日本ノ報復手段ヲ目立チテ掲ク

797 昭和16年7月29日 在仏国加藤大使より
豊田外務大臣宛(電報)

仏印へのわが方特派大使派遣を仏側承諾に
ついて

ヴィシー 7月29日後発
本省 7月30日前着

第四四二號(館長符號扱)

貴電第三二五號ニ關シ(佛印特派大使派遣申入ニ關スル件)二十九日「ダルラン」ニ申入レタル處「ダ」ハ佛印總督ハ外交交渉ノ權限無キモ其ノ權限ノ範圍内ニ於テ現地諸問題ニ關シ日本側代表ト交渉スルコトハ此ノ際特ニ必要ナリト思考スルヲ以テ特派大使ノ派遣ニ異存無シト述ヘタルニ付本使ヨリ其ノ旨本國政府ヘ報告シ差支ナキヤト質シタルニ異存ナシト答ヘ(タ)リ

尙本件ニ關シ爲念覺書ヲ手交シ置キタルカ右ニ對シテハ書面ニ依リ回答越スヘキ趣ナリ

798 昭和16年7月29日 在仏国加藤大使より
豊田外務大臣宛(電報)

仏印共同防衛に関する日仏議定書の調印完了
について

付記一 昭和十六年七月二十九日調印

仏印共同防衛に関する日仏議定書

二 昭和十六年七月二十九日付在仏国加藤大使より
ダルラン仏国副総理宛公信

軍事上の協力に關する交換公文

ヴィシー 7月29日後發

本省 7月30日前着

第四四四號(至急)

貴電第三二〇號ニ關シ(對佛申入ノ件)

一、議定書署名調印日時二十九日午前十一時

二、議定書交換公文日附二十九日

三、署名ノ書振日本文ハ本使ヲ先トシ佛文ハ「ダルラン」外

相ヲ先ニシ左ノ通り

加藤外松

F. Darlan

(付記一)

佛領印度支那ノ共同防衛ニ關スル

日本國「フランス」國間議定書

大日本帝國政府及「フランス」國政府ハ

現下ノ國際情勢ヲ考慮シ

其ノ結果佛領印度支那ノ安全ガ脅威セラルル場合ニ於テハ

日本國ガ東亞ニ於ケル一般の靜謐及自國ノ安全ガ危險ニ曝

サレタリト爲ス理由アルヲ認メ

此ノ機會ニ一方日本國ニ依リ爲サレタル東亞ニ於ケル「フランス」國ノ權利及利益特ニ佛領印度支那ノ領土保全及印度支那聯邦ノ全部ニ對スル「フランス」國ノ主權ヲ尊重スル旨ノ約束ヲ、他方「フランス」國ニ依リ爲サレタル日本國ニ對シ直接又ハ間接ニ對抗スルガ如キ性質ノ政治上、經濟上又ハ軍事上ノ協力ヲ豫見スル何等ノ協定又ハ了解ヲモ印度支那ニ關シ第三國ト締結セザル旨ノ約束ヲ新ニシ左ノ諸規定ヲ協定セリ

一 兩國政府ハ佛領印度支那ノ共同防衛ノ爲軍事上協力ヲ爲スコトヲ約ス

二 前記協力ノ爲執ルベキ措置ハ特別取極ノ目的タルベシ
三 前記諸規定ハ其ノ採用ノ動機ト爲リタル情勢ノ存續スル限ニ於テノミ效力ヲ有スベシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本日ヨリ實施セラルル本議定書ニ署名調印セリ

昭和十六年七月二十九日即チ千九百四十一年七月二十九日「ヴィッシー」ニ於テ日本文及「フランス」文ヲ以テ本書ニ通ヲ作成ス

加藤 外松 印
ダルラン 印

(付記二)

(不公表)

軍事上ノ協力ニ關スル交換公文

(往翰譯文)

以書翰啓上致候陳者本日附ヲ以テ貴我兩國政府間ニ署名セラレタル議定書ニ關シ本使ハ閣下ニ對シ左記提議ニ對スル「フランス」國政府ノ同意ヲ本使ニ確認セラレンコトヲ要請致候

一 「フランス」國政府ハ日本國ニ對シ左記措置ヲ執ルノ權能ヲ與フ

イ 必要數ノ日本國軍隊、艦艇及航空部隊ノ南部印度支那ヘノ派遣

ロ 「シエムレアプ」、「プノン・ペン」、「ツーラン」、「ニヤトラン」、「ビエンホア」、「サイゴン」、「ソクトラン」及「コンボン・トラック」ノ八個所ノ航空基地トシテノ使用竝ニ「サイゴン」及「カムラン」灣ノ海

軍基地トシテノ使用

日本國軍ハ前記各地ニ於テ所要ノ施設ヲ爲スベシ

ハ 前記日本國軍ハ宿營シ、演習シ及訓練スルノ權能ヲ與ヘラレ且行動ノ自由ヲ容認セラルベシ同様ニ右軍ハ其ノ職務遂行ノ爲特別ノ便宜ヲ與ヘラルベシ右ハ西原「マルタン」協定ノ規定スル諸制限ノ撤廢ヲ含ムモノトス

ニ 「フランス」國政府ハ協議決定セラルベキ樣式ニ從ヒ前記日本國軍ニ對シ必要ナル通貨ヲ提供スベシ本年ニ付テハ右通貨ノ額ハ二三、〇〇〇、〇〇〇印度支那「ピアストル」即チ月額約四、五〇〇、〇〇〇印度支那「ピアストル」ニ達スベク右額ハ從前ノ諸協定ニ依リ規定セラルル「トンキン」駐屯日本國軍ニ提供セラルベキ通貨ヲ含マザルモノトス

日本國政府ハ前記通貨ニ付「フランス」國政府ノ選擇ニ依リ自由圓、米弗又ハ金ヲ以テ支拂ヲ爲スノ用意アリ

ニ 「フランス」國政府ハ前記日本國軍ノ進駐ノ大綱ヲ承認シ且印度支那軍トノ不慮ノ衝突ノ發生ヲ回避スル爲一

切ノ有效ナル措置ヲ執ルベシ

三 日本國軍ノ行動ニ關スル細目ハ現地ニ於ケル日本國軍及佛國軍當局間ニ協議決定セラルベシ

本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和十六年(千九百四十一年)七月二十九日「ヴィッシー」ニ於テ

加藤 外松(署名)

編 注 來翰は往翰提議への仏国政府同意を確認したものであ

り、省略。

~~~~~

799 昭和16年9月4日 在タイ坪上(貞二大使より  
豊田外務大臣宛(電報))

南部仏印進駐のタイに与えた影響につき観測

報告

バンコク 9月4日後発  
本省 9月5日前着

第六〇五號(館長符號扱)

南佛印我軍進駐ノ當國ニ對スル影響ニ關シ卑見左ノ通り

一、當國上下一般我軍進出ニ對シ多大ノ壓迫ヲ感シ居レルハ掩フヘカラス然レトモ一方偶々獨蘇戰最近撓々シカラサルノ感想強ク最近英米側ノ宣傳熾烈トナレルニ及ビ後述ノ事情トモ相俟ツテ我南佛印進出ニ對シ當國トシテモ對日依存對英依存孰レトモ當面ノ對策ヲ決シ得ス遲疑逡巡政府部内ニモ各種議論行ハレ未タ其ノ歸一ヲ見サル現狀ナルカ如シ

二、我南佛印進駐ニ對シ「ピブン」一派ノ平素我方ト連絡アルモノハ我進出ニ對シ多少ノ豫測ヲ有シ居リシモノト推セラルルモ所謂親英一派ハ我蘭印交渉ノ失敗トモ關聯セシメ寧ロ反對ノ豫測ヲ有セシニアラスヤト推セラルル節アリ即チ彼等ノ驚愕ハ大ナリシモノノ如ク此ノ間英米側ノ宣傳トモ相俟チテ要人中日本ノ對「タイ」進攻ヲ懸念セルモノナキニシモアラサルカ如キ形勢ヲ致セリ所謂親英米派ハ政府部内ニ於テモ多數派ナルコト御承知ノ通りニシテ彼等言動ノ反響力強ク昨今當國外觀上ハ寧ロ英米側ノ一步前進ヲ見タルカ如キ印象ナキニアラサルモ右ハ必スシモ中ラス今次金融協定ノ如キモ若シ英米側ヨリノ壓迫強カリセハ恐ラク異レル結末ヲ得タルナルヘシ

三、最近英米側ノ宣傳我方ノ同盟其ノ他ノ新聞「ニユース」

ニ對シ當國宣傳局ハ神經質ニ之ヲ(脱?)頻リニ中立政策ヲ放送シ居ル處「タイ」ノ中立聲明ハ今更何等目新シキモノニアラサルモ時局切迫ニ伴ヒ中立聲明愈神經的ナル點ニ於テ最近ノ中立聲明ノ特色アリ即チ從來ノ中立ハ各國トノ平等親善ヲ呼號セルニ對シ昨今ノ聲明ハ寧ロ何國トモ特別ノ關係ハ結ハストノ實質ヲ有スルモノノ如シ即チ「タイ」ハ目下日英兩者ニ對シ離レツツアリトノ感想モアリ得ル次第ナルカ此ノ意味ニ於テ曩ノ往電第四〇二號英「タイ」協定ヲ「ドロップ」セルコトモ目下ノ所事實ト認メラルト共ニ最近ノ我方護謨、錫交涉ノ停頓モ同一表現ナリト認ムルコトヲ得ヘシ(但シ實際上我方護謨、錫輸出著増シ我方要求額ニ近付キツツアルハ此ノ際注意ヲ要ス)

四、<sup>(2)</sup>尙南佛印進駐ノ對「タイ」影響ニ對シ左記考慮ヲ要ス

一、「シエムラップ」駐兵

我軍カ「シエムラップ」迄進出セルコトハ「ピブン」自身モ相當驚キタルモノノ如シ直ニ「プロム」及「ブラシユーン」ヲ現地ニ派シ調査セシメタル模様ナルカ

即チ右「シエムラップ」進軍ハ我カ南佛印進出對「タイ」效果トシテ多少藥ノ效キ過キタル嫌ヒナキニアラス

二、<sup>(2)</sup>金交渉開始當時當國大藏省方面ニテハ最初ノ一千万「バーツ」「クレジツト」ニテ年内位賄ヒ得ルモノト考ヘ居リシモノノ如シ右ハ彼等ニ於テ現在我方ニ於テ護謨錫ヲ旺ニ買進ミツツアルニ對スル認識不足及「ピブン」ニ對スル護謨三萬五千噸錫一萬噸ノ我方要求ヲ承知シ居ラサリシニ依ルモノノ如シ即チ我方所要資金調達ノ爲ニハ右護謨錫ノ要求ハ大藏省側ニ之ヲ明カニスルト共ニ「タイ」政府ニ對シテハ右要求ヲ更ニ強く要求スルコト必要トナレリ右護謨錫及米ヲ全部日本側ノ要求ニ應スルコトスレハ總額二億數千萬圓ニモ達スヘク一方日本ヨリノ輸入ハ三千萬圓内外ニ過キス此ノ差額ニ對シ彼等ハ慄然タルモアリシモノノ如シ偶々我軍ノ佛印「シエムラップ」進出ト考ヘ合ハセ彼等ノ恐怖ヲ新タニセルハ無理ナラサリシモノト考ヘラル

新嘉坡、「バタヴィア」ヘ轉電セリ

昭和16年9月24日

在バタビア石沢総領事より  
豊田外務大臣宛(電報)

## 仏印の現状に関するオランダ人談話報道につ

## き報告

バタビア 9月24日後発

本 省 9月25日前着

## 第一〇三二號

最近西貢ヨリ當地ニ歸來セル一和蘭人(往電<sup>(電)</sup>在西貢和蘭人名譽領事ト想像セラル)ハ當領官邊竝ニ新聞記者ニ對シ佛印情勢ニ付語り各蘭字紙ハ何レモ詳細ニ亘リ之ヲ掲載シ居レルカ概要左ノ通り

佛印ハ完全ニ日本ノ手ニ歸シ居リ佛軍ハ無力ニシテ何等ノ抵抗ヲモ爲シ得ス不甲斐無サノ一語ニ盡ク同地進駐ノ日本軍ハ(南京政府ノ軍隊ト覺シキ支那兵ヲ混シ居タルハ注目ニ値ス)住民ニ印象付ケンカ爲特ニ先發セラレタルモノト思ハルル體軀堂々タル兵士ヲ以テ編成セラレ裝備モ優秀ニシテ事實土民ハ多大ノ感銘ヲ受ケタルモノノ如ク軍規モ一般ニ嚴正ナリ日本ハ現在ノ所内政ニ干與シ居ラサルモ芳澤大使到着ト同時ニ「ド、クー」總督ハ名義上ノ存在トナリ

統治ノ實權ハ同大使ノ掌中ニ入ルヘシ南部地方ニハ特ニ親英熱強キモ全國的ニハ「ヴィシー」ノ宣傳盛ナリ自分ハ斯ル有様トナリテハ英國勝利以外ニハ佛印ヲ救フ道ナシト信ス

河内、西貢ニ轉電セリ

御見込ニ依リ關係各館ヘ轉電アリタシ

昭和16年12月7日

芳沢仏領印度支那派遣大使より  
東郷外務大臣宛(電報)

## 仏印との軍事協定締結の意向を海軍駐在武官

## が内示について

付記一 昭和十六年十二月八日發芳沢仏領印度支那派

遣大使より東郷外務大臣宛電報第一七四号

仏印總督ヘ陸海両武官が軍事協定案手交につ

いて

二 昭和十六年十二月十一日着芳沢仏領印度支那

派遣大使より東郷外務大臣宛電報第一八三号

仏印との軍事協定調印について

ハノイ 12月7日後発

本省 12月8日前着

第一七一號(極秘、館長符號扱、大急)

栗山事務總長へ左ノ通り

大臣發本使宛電報第一二〇號ニ依リ推察スルニ當方ニ於ケル情勢ハ聊カ貴方ニ於テ充分了解シ居ラレサルヤノ虞アルニ依リ爲念左記電報ス

七日午前早朝堀内本使ヲ來訪シ兩武官ハ大本營ノ命ニ依リ夫々日本軍司令官代表及日本艦隊司令官代表ノ資格ニ於テ佛印當局ト軍事機密協定(共同防衛現地協定)ヲ締結ノ爲八日早朝「ドクー」總督ニ面接交渉ノ豫定ナル趣ヲ以テ協定案ヲ提示ノ上本使ニ對シ側面ヨリ「ドクー」説得方ヲ懇請セリ

協定案ハ要項及細目共内容詳細ニ亘リ就中佛印ノ一切ノ機關ヲ擧ケテ我方ニ協力ヲ求メ且場合ニ依リテハ佛印側モ我方ニ敵對スル勢力ヲ擊攘スヘキコトヲ要求セルモノニシテ兩武官ハ之ヲ先方ニ提示スルニ際シテハ我方ハ英米ニ宣戦スルモノナル旨ヲ明示シ且佛印側ノ即答ヲ求ムル次第ナル處右ハ「ドクー」一存ニテ決定シ得ヘキ筋合ノモノニ非ス

ト認メラルルニ依リ若シ佛印側カ即答ヲ避ケ「ヴィシー」ニ請訓ヲ要スル旨答ヘタル場合ニ於テハ勢ヒ我方ハ我方ノ一方的意思ニテ協定案ノ内容ヲ實行シ事實上佛印ノ軍事占領ニ迄及ハサルヲ得サルヘシト述ヘタルニ兩官ハ然ル旨ヲ答ヘタリ

右兩武官ノ申出ハ大本營ノ命ニ基キ勿論連絡會議ノ議決ヲ經タルモノト認メラルルニ付本使トシテモ之ヲ支持スヘク八日午後本使ハ「ドクー」會見本案受諾方勸説スル所存ナリ

(付記一)

ハノイ 12月8日後発

本省 12月16日前着

第一七四號(極秘、館長符號扱)

本八日午前八時長少將、堀内大佐「ドクー」總督ト會見ノ上現地軍事機密協定案ヲ手交シ總督ハ本日中ニ回答ヲ約セリ

編 注 「本電ハ八日ヨリ西貢線不良ナリシ爲停滯シ居タルモ



ノト思ハル」との電信課の注記あり。

(付記二)

ハノイ 発

本省 12月11日後着

第一八三號(大至急、極祕、館長符號扱)

往電第一七一號ニ關シ

八日午後七時軍事機密協定ノ「綱要」ニ付意見合致シ直ニ  
長少將堀内大佐及「ドクー」總督ノ間ニ調印ヲ了シタルモ  
細目協定ニ付テハ佛側ハ主權尊重原則ヲ楯ニ取り修正ヲ要  
求シ來リ本九日午前五時ニ至ル迄係官ノ間ニ協議ヲ行ヒタ  
ルモ完全ニ意見ノ一致ヲ見ルニ至ラス一應交渉ヲ打切り更  
ニ長少將「ドクー」總督間ノ政治的折衝ニ移シタル結果漸  
ク妥結ニ到達シ午後四時細目ノ調印ヲ了セリ不取敢報告ス

編 注 本協定文は『日本外交文書 太平洋戦争』第二冊第601

文書として採録。